

# 茨城県ケアラー実態調査報告書

令和4年11月

茨城県福祉部福祉政策課

## 目次

<b>I 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 目的.....	1
2. 調査対象.....	1
3. 実施時期.....	1
4. 回答状況.....	1
<b>II 調査結果</b> .....	<b>2</b>
<b>1. ケアラー当事者調査（高齢者・障害者）</b> .....	<b>2</b>
1) 基本情報.....	2
2) ケアの状況について.....	6
3) ケアラー自身へのケアの影響について.....	23
4) ケアに関する相談について.....	39
5) 求める支援について.....	48
7) 自由記述.....	51
<b>2. ケアラー当事者団体調査</b> .....	<b>59</b>
1) 会員のケアの状況について.....	59
<b>3. ケアラー支援機関調査</b> .....	<b>62</b>
1) 支援機関の種別.....	62
2) ケアラー・ヤングケアラーの認知度 .....	64
3) ケアラーについて .....	66
4) ヤングケアラーについて .....	79
<b>III 資料編（調査票）</b> .....	<b>92</b>

## I 調査の概要

### 1. 目的

本調査は、茨城県内におけるケアラーの実態についてアンケート調査を実施することにより、課題を抱えるケアラーを早期発見・把握し、支援につなげるための資料とすることを目的とする。

### 2. 調査対象

対象	調査方法	対象者
①-1 当事者 高齢者のケアラー	支援機関経由による調査票の 配布、郵送による回収	地域包括支援センターを利用しているケアラー：273人
①-2 当事者 障害者のケアラー	支援機関経由による調査票の 配布、郵送による回収	障害者相談支援事業所を利用しているケアラー：903人
②ケアラー当事者団体	WEB アンケート調査 ※団体へメール等による依頼	家族会等の支援団体：15カ所
③ケアラー支援機関	WEB アンケート調査 ※支援機関へメール等による依頼	民生委員児童委員協議会：140カ所 地域包括支援センター：91カ所 障害者相談支援事業所：301カ所

### 3. 実施時期

令和4年5月～7月

### 4. 回答状況

対象者	対象者数	有効回答数	回答率
①-1 当事者：高齢者のケアラー	273人	137人	50.2%
①-2 当事者：障害者のケアラー	903人	327人	36.2%
②ケアラー当事者団体	15カ所	13カ所	86.7%
③ケアラー支援機関	532カ所	343カ所	64.5%

II 調査結果

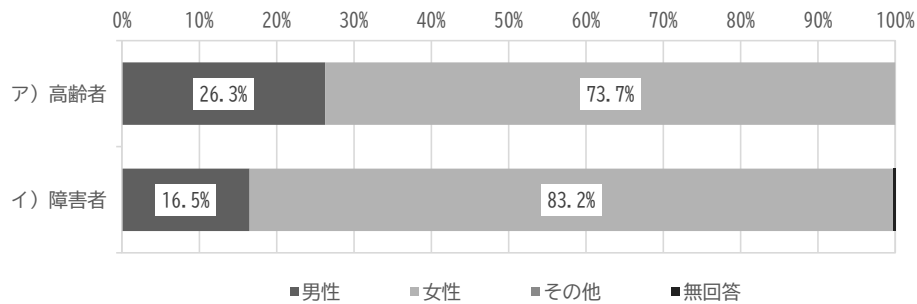
1. ケアラー当事者調査（高齢者・障害者）

1) 基本情報

(1) 性別・年齢

【性別】

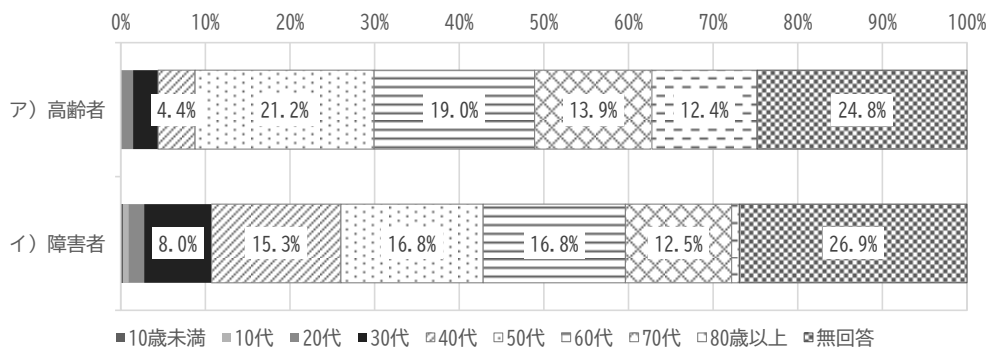
ケアラー自身の性別については、高齢者では「男性」が26.3%、「女性」が73.7%となっている。障害者では「男性」が16.5%、「女性」が83.2%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
男性	36	26.3%	54	16.5%
女性	101	73.7%	272	83.2%
その他	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	0.3%
合計	137	100.0%	327	100.0%

【年齢】

ケアラー自身の年齢については、高齢者では「50代」が21.2%と最も高く、次いで「60代」が19.0%となっている。障害者では「50代」「60代」がそれぞれ16.8%で高く、次いで「40代」が15.3%となっている。



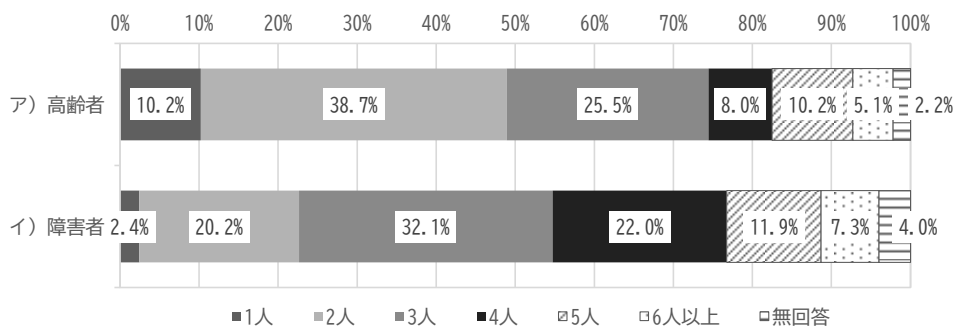
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
10歳未満	0	0.0%	1	0.3%
10代	0	0.0%	2	0.6%
20代	2	1.5%	6	1.8%
30代	4	2.9%	26	8.0%
40代	6	4.4%	50	15.3%
50代	29	21.2%	55	16.8%
60代	26	19.0%	55	16.8%
70代	19	13.9%	41	12.5%
80歳以上	17	12.4%	3	0.9%
無回答	34	24.8%	88	26.9%
合計	137	100.0%	327	100.0%

### (2) 同居人数

同居人数については、高齢者では「2人」が38.7%で最も高く、次いで「3人」25.5%、「1人」「5人」がそれぞれ10.2%となっている。障害者では「3人」が32.1%で最も高く、次いで「4人」22.0%、「2人」20.2%となっている。



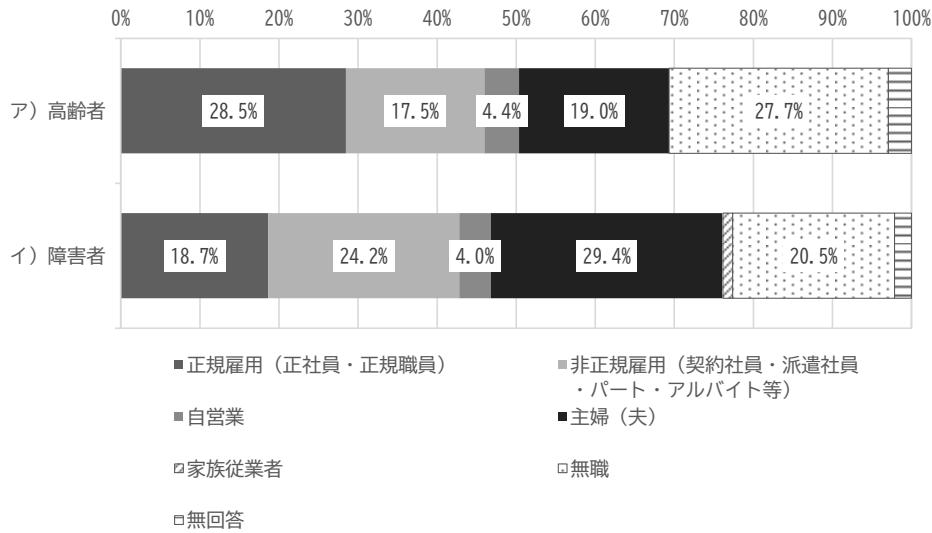
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
1人	14	10.2%	8	2.4%
2人	53	38.7%	66	20.2%
3人	35	25.5%	105	32.1%
4人	11	8.0%	72	22.0%
5人	14	10.2%	39	11.9%
6人以上	7	5.1%	24	7.3%
無回答	3	2.2%	13	4.0%
合計	137	100.0%	327	100.0%

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (3) 就労状況

ケアラー自身の就労状況については、高齢者では「正規雇用（正社員・正規職員）」が28.5%で最も高く、次いで「無職」が27.7%、「主婦(夫)」19.0%となっている。障害者では「主婦(夫)」が29.4%で最も高く、次いで「非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）」24.2%、「無職」20.5%となっている。



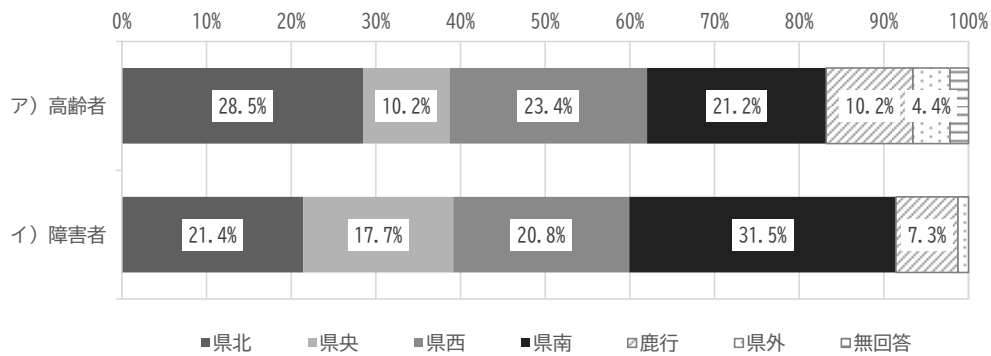
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
正規雇用（正社員・正規職員）	39	28.5%	61	18.7%
非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等）	24	17.5%	79	24.2%
自営業	6	4.4%	13	4.0%
主婦（夫）	26	19.0%	96	29.4%
家族従業者	0	0.0%	4	1.2%
無職	38	27.7%	67	20.5%
無回答	4	2.9%	7	2.1%
合計	137	100.0%	327	100.0%

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (4) 居住地

ケアラー自身の居住地については、高齢者は「県北」が28.5%、「県西」が23.4%、「県南」21.2%となっている。障害者は「県南」が31.5%、「県北」が21.4%、「県西」が20.8%となっている。



地区	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
県北	39	28.5%	70	21.4%
県央	14	10.2%	58	17.7%
県西	32	23.4%	68	20.8%
県南	29	21.2%	103	31.5%
鹿行	14	10.2%	24	7.3%
県外	6	4.4%	4	1.2%
無回答	3	2.2%	0	0.0%
合計	137	100.0%	327	100.0%

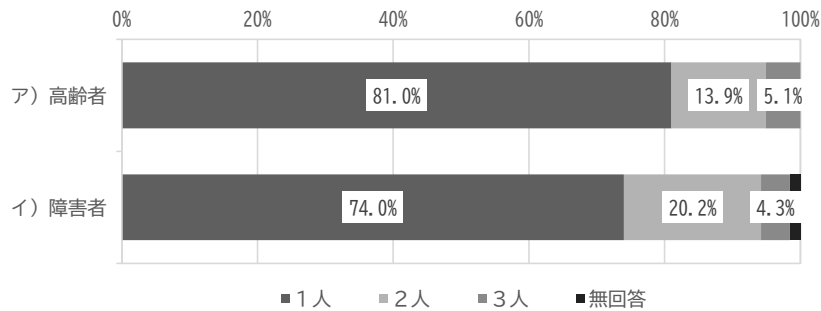
2) ケアの状況について

※ケアをしている人が複数いる場合は、ケアが大変な順に、1人目、2人目、3人目としている。

(1) 被介護者との関係

【ケアをしている人数】

ケアをしている人数については、高齢者では「1人」が81.0%、「2人」が13.9%、「3人」が5.1%となっている。障害者では「1人」が74.0%、「2人」が20.2%、「3人」が4.3%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
1人	111	81.0%	242	74.0%
2人	19	13.9%	66	20.2%
3人	7	5.1%	14	4.3%
無回答	0	0.0%	5	1.5%
合計	137	100.0%	327	100.0%



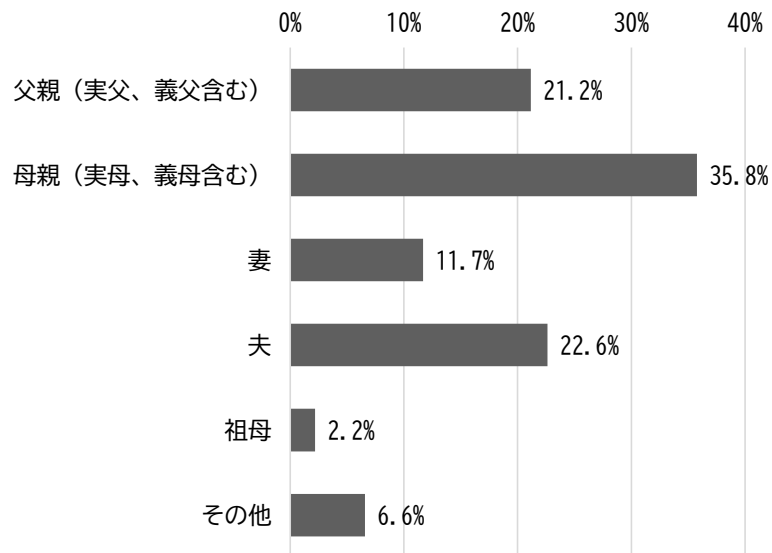
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【被介護者との関係】

##### ア) 高齢者

1人目の被介護者との関係については、「母親」が35.8%で最も高く、次いで「夫」が22.6%、「父親」が21.2%となっている。



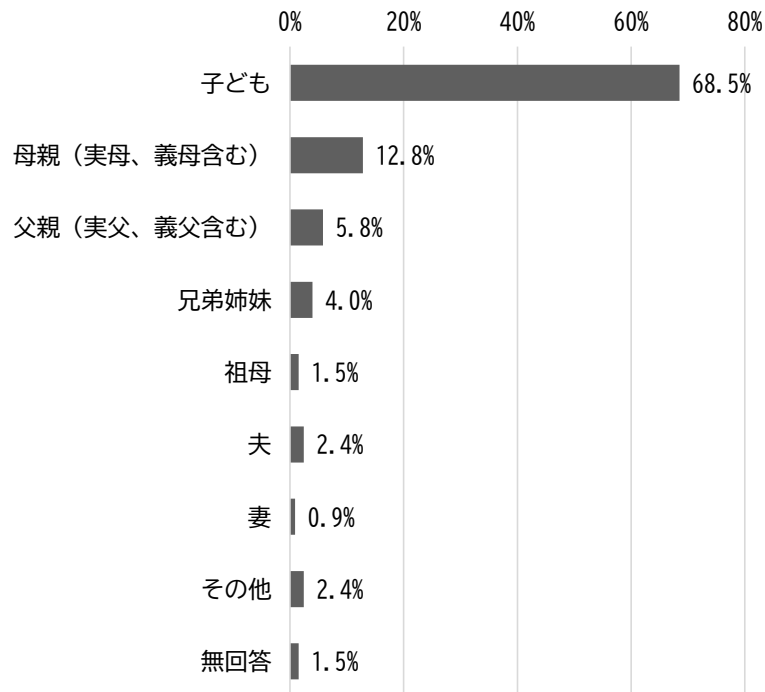
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
父親（実父、義父含む）	29	21.2%	3	11.5%	2	28.6%
母親（実母、義母含む）	49	35.8%	16	61.5%	1	14.3%
妻	16	11.7%	0	0.0%	0	0.0%
夫	31	22.6%	1	3.8%	1	14.3%
祖母	3	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
その他	9	6.6%	6	23.1%	3	42.9%
合計	137	100.0%	26	100.0%	7	100.0%

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### イ) 障害者

1人目の被介護者との関係については、「子ども」が68.5%で最も高く、次いで「母親」が12.8%、「父親」が5.8%となっている。



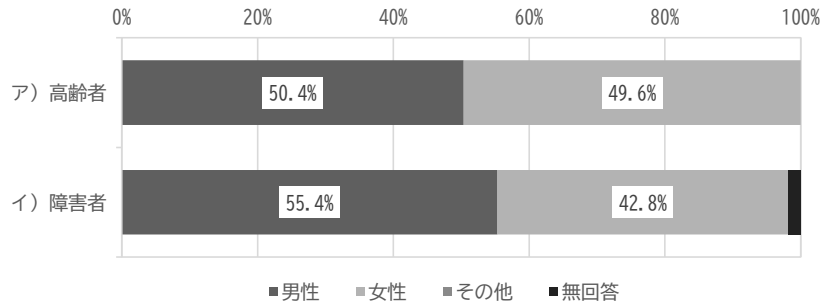
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
子ども	224	68.5%	33	41.3%	5	35.7%
母親（実母、義母含む）	42	12.8%	27	33.8%	6	42.9%
父親（実父、義父含む）	19	5.8%	3	3.8%	1	7.1%
兄弟姉妹	13	4.0%	4	5.0%	1	7.1%
祖母	5	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
夫	8	2.4%	3	3.8%	1	7.1%
妻	3	0.9%	5	6.3%	0	0.0%
その他	8	2.4%	5	6.3%	0	0.0%
無回答	5	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
合計	327	100.0%	80	100.0%	14	100.0%

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (2) 被介護者の性別

1人目の被介護者の性別については、高齢者では「男性」が50.4%、「女性」が49.6%となっている。障害者では「男性」が55.4%、「女性」が42.8%となっている。



#### ア) 高齢者

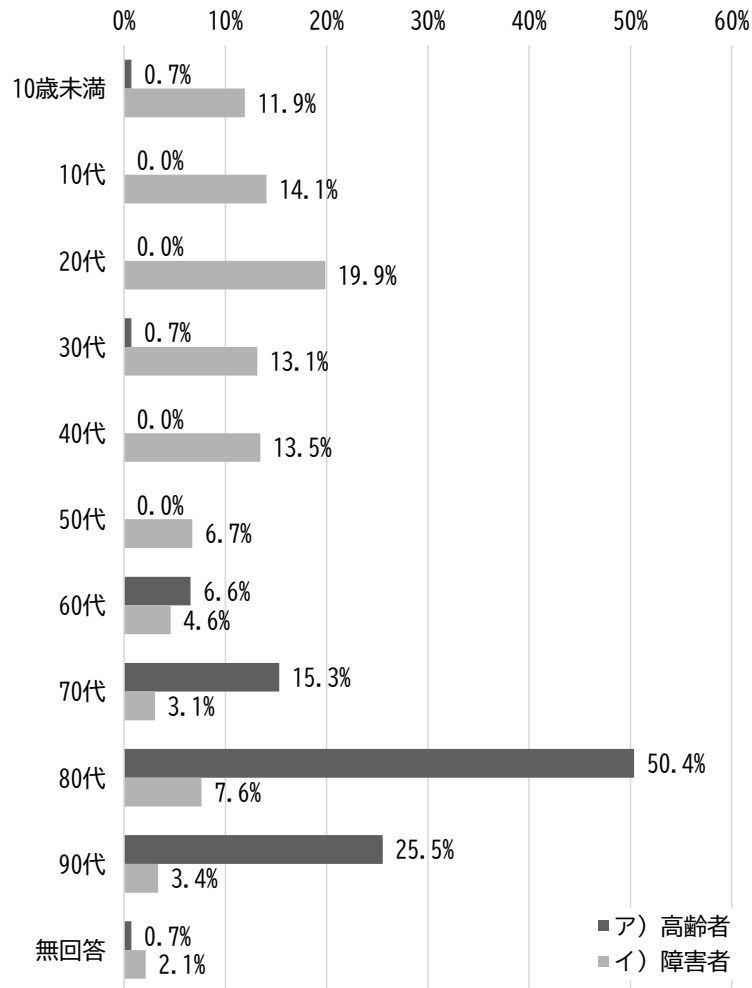
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男性	69	50.4%	6	23.1%	5	71.4%
女性	68	49.6%	18	69.2%	1	14.3%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	7.7%	1	14.3%
合計	137	100.0%	26	100.0%	7	100.0%

#### イ) 障害者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
男性	181	55.4%	37	46.3%	5	35.7%
女性	140	42.8%	42	52.5%	8	57.1%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	1.8%	1	1.3%	1	7.1%
合計	327	100.0%	80	100.0%	14	100.0%

(3) 被介護者の年齢

1人目の被介護者の年齢については、高齢者では「80代」が50.4%で最も高く、次いで「90代」が25.5%、「70代」が15.3%となっている。障害者では「20代」が19.9%で最も高く、次いで「10代」が14.1%、「40代」が13.5%となっている。



## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### ア) 高齢者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10歳未満	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
10代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
20代	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%
30代	1	0.7%	1	3.8%	0	0.0%
40代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
50代	0	0.0%	0	0.0%	1	14.3%
60代	9	6.6%	1	3.8%	1	14.3%
70代	21	15.3%	5	19.2%	0	0.0%
80代	69	50.4%	14	53.8%	3	42.9%
90代	35	25.5%	3	11.5%	0	0.0%
無回答	1	0.7%	2	7.7%	1	14.3%
合計	137	100.0%	26	100.0%	7	100.0%

#### イ) 障害者

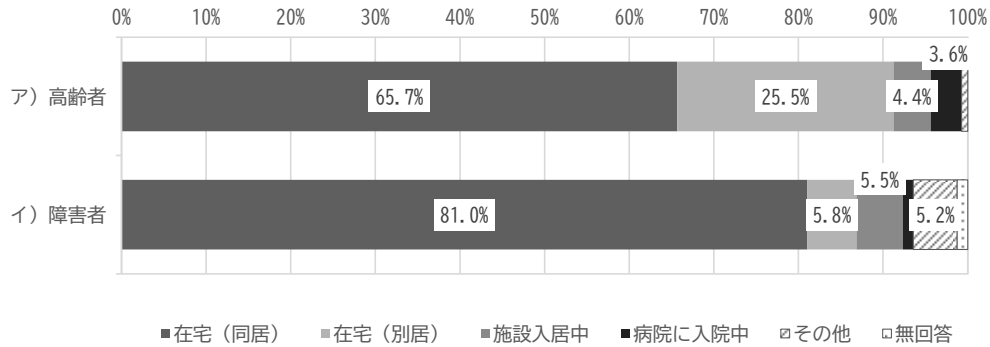
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
10歳未満	39	11.9%	5	6.3%	1	7.1%
10代	46	14.1%	9	11.3%	2	14.3%
20代	65	19.9%	10	12.5%	1	7.1%
30代	43	13.1%	4	5.0%	0	0.0%
40代	44	13.5%	4	5.0%	0	0.0%
50代	22	6.7%	5	6.3%	1	7.1%
60代	15	4.6%	12	15.0%	1	7.1%
70代	10	3.1%	7	8.8%	1	7.1%
80代	25	7.6%	21	26.3%	6	42.9%
90歳以上	11	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	2.1%	3	3.8%	1	7.1%
合計	327	100.0%	80	100.0%	14	100.0%

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (4) 被介護者の生活の場所

1人目の被介護者が生活している場所については、高齢者では「在宅（同居）」が65.7%で最も高く、次いで「在宅（別居）」が25.5%となっている。障害者では「在宅（同居）」が81.0%で最も高く、次いで「在宅（別居）」が5.8%、「施設入居中」が5.5%となっている。



#### ア) 高齢者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
在宅（同居）	90	65.7%	9	34.6%	2	28.6%
在宅（別居）	35	25.5%	12	46.2%	2	28.6%
施設入居中	6	4.4%	3	11.5%	1	14.3%
病院に入院中	5	3.6%	0	0.0%	0	0.0%
その他	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	2	7.7%	2	28.6%
合計	137	100.0%	26	100.0%	7	100.0%

#### イ) 障害者

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
在宅（同居）	265	81.0%	59	73.8%	9	64.3%
在宅（別居）	19	5.8%	12	15.0%	3	21.4%
施設入居中	18	5.5%	5	6.3%	1	7.1%
病院に入院中	4	1.2%	1	1.3%	0	0.0%
その他	17	5.2%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	1.2%	3	3.8%	1	7.1%
合計	327	100.0%	80	100.0%	14	100.0%

## II 調査結果

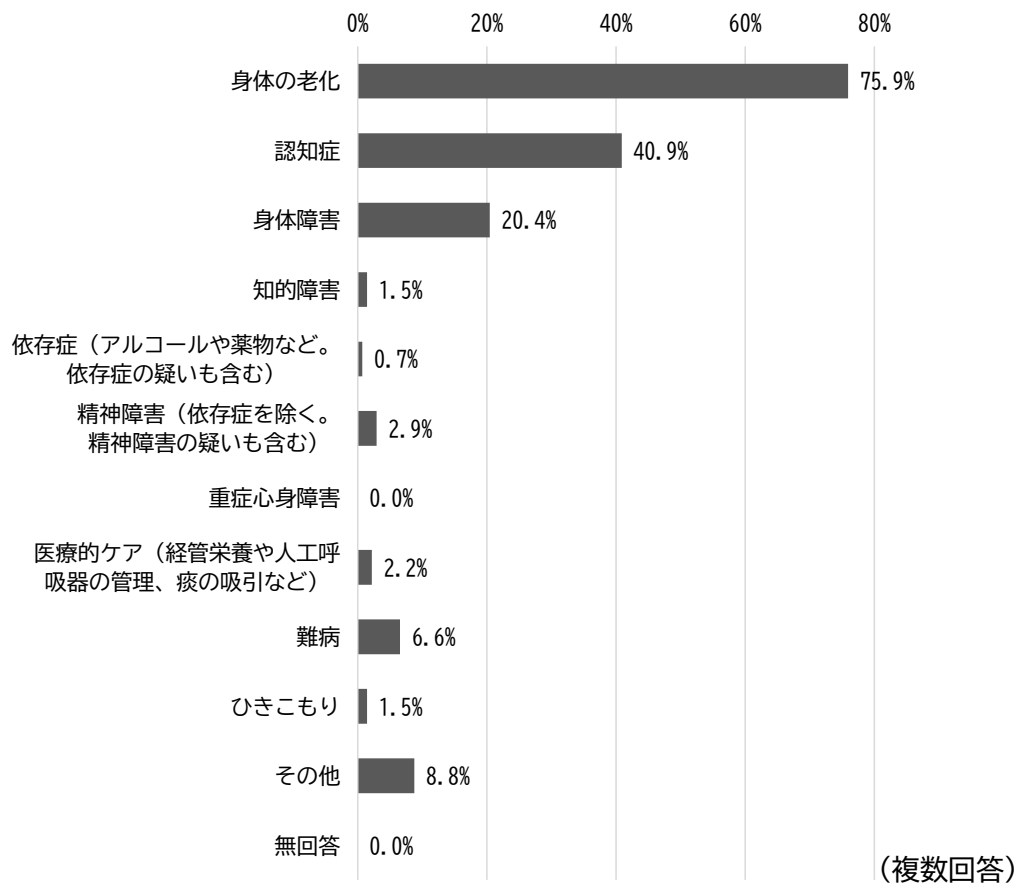
### 1. ケアラー当事者調査

#### (5) 被介護者の状況

##### ア) 高齢者

1人目の被介護者の状況については、「身体の老化」が75.9%で最も高く、次いで「認知症」が40.9%、「身体障害」が20.4%となっている。

(複数回答)



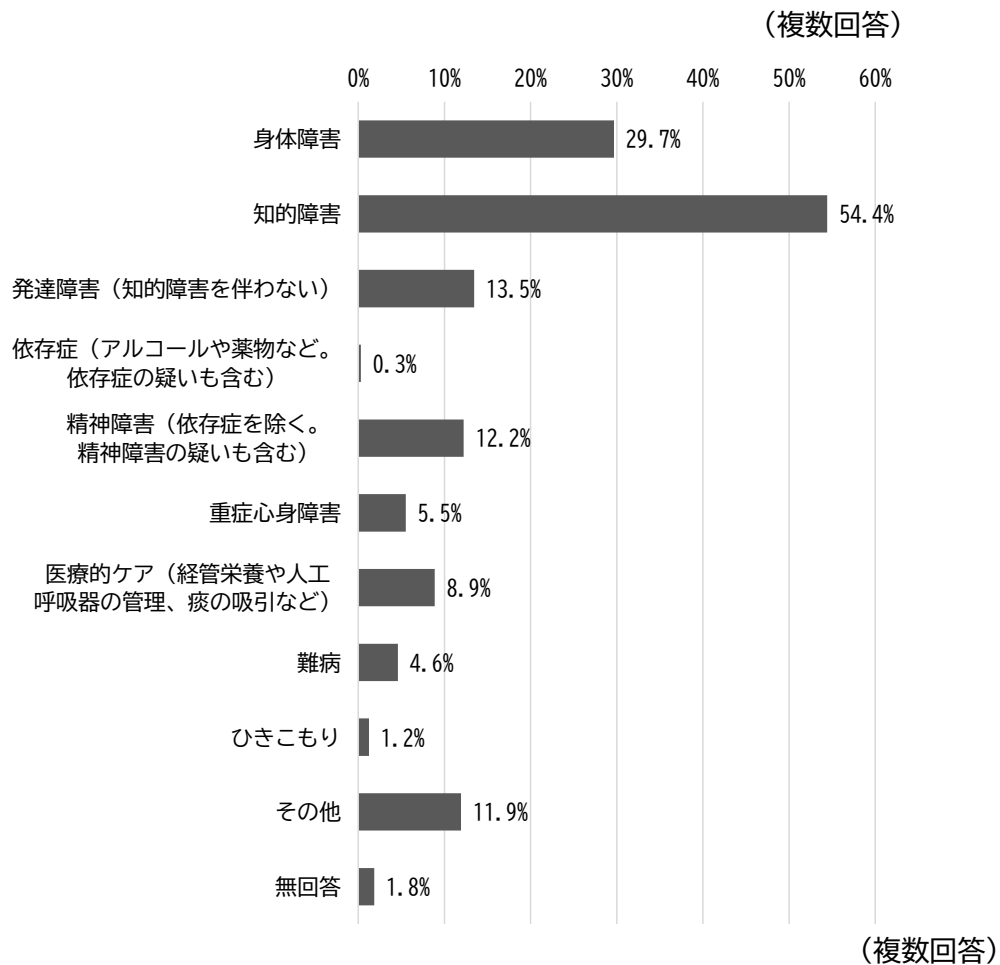
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
身体の老化	104	75.9%	16	61.5%	1	14.3%
認知症	56	40.9%	6	23.1%	1	14.3%
身体障害	28	20.4%	5	19.2%	2	28.6%
知的障害	2	1.5%	0	0.0%	1	14.3%
依存症 (アルコールや薬物など。依存症の疑いも含む)	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
精神障害 (依存症を除く。精神障害の疑いも含む)	4	2.9%	2	7.7%	1	14.3%
重症心身障害	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療的ケア (経管栄養や人工呼吸器の管理、痰の吸引など)	3	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
難病	9	6.6%	0	0.0%	0	0.0%
ひきこもり	2	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
その他	12	8.8%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	3	11.5%	3	42.9%
回答者数	137	-	26	-	7	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### イ) 障害者

1人目の被介護者の状況については、「知的障害」が54.4%で最も高く、次いで「身体障害」29.7%、「発達障害（知的障害を伴わない）」13.5%となっている。

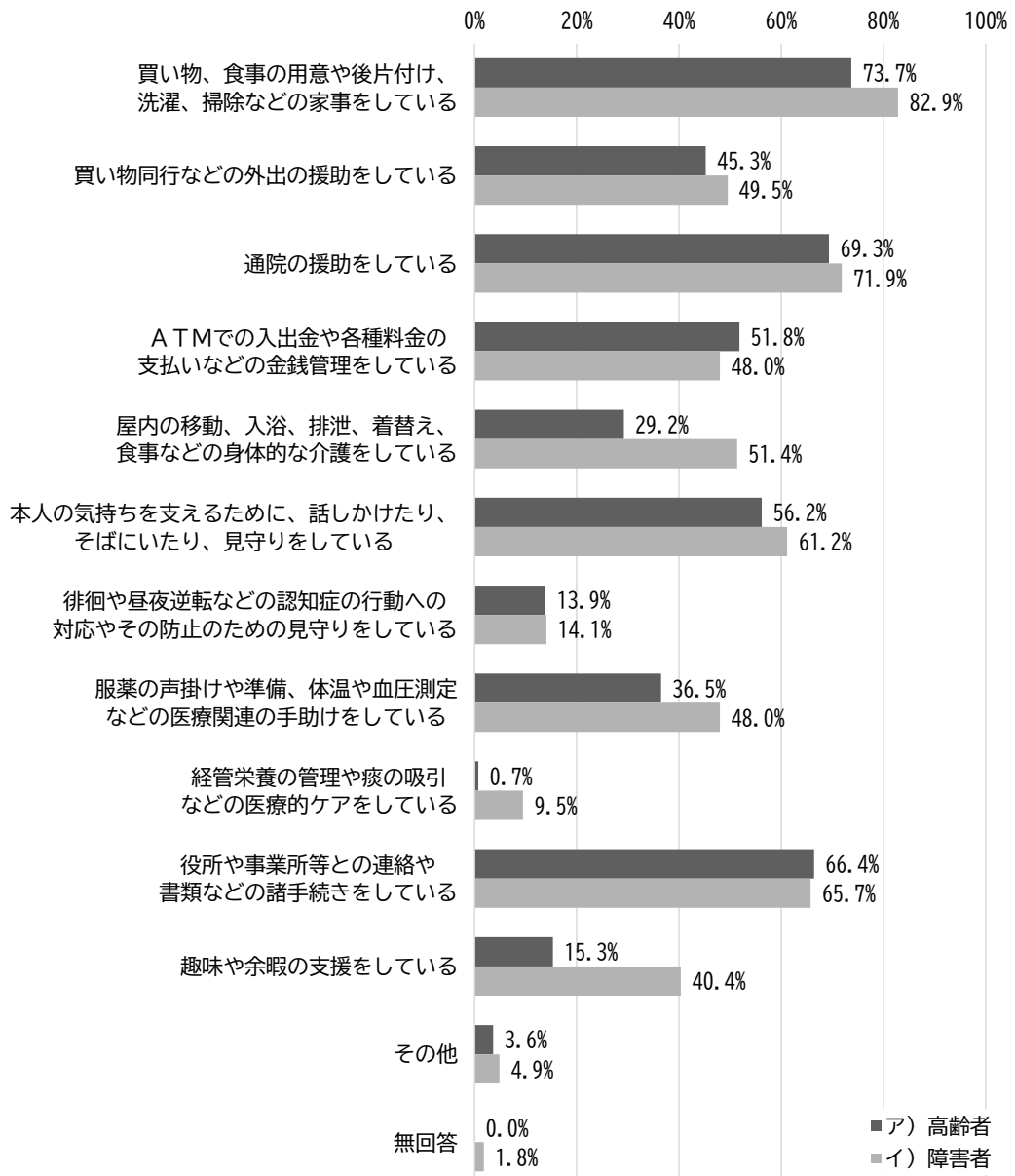


項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
身体障害	97	29.7%	14	17.5%	0	0.0%
知的障害	178	54.4%	20	25.0%	2	14.3%
発達障害（知的障害を伴わない）	44	13.5%	11	13.8%	1	7.1%
依存症（アルコールや薬物など。依存症の疑いも含む）	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
精神障害（依存症を除く。精神障害の疑いも含む）	40	12.2%	13	16.3%	0	0.0%
重症心身障害	18	5.5%	0	0.0%	0	0.0%
医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器の管理、痰の吸引など）	29	8.9%	0	0.0%	0	0.0%
難病	15	4.6%	2	2.5%	1	7.1%
ひきこもり	4	1.2%	1	1.3%	1	7.1%
その他	39	11.9%	24	30.0%	5	35.7%
無回答	6	1.8%	8	10.0%	4	28.6%
回答者数	327	-	80	-	14	-



(6) ケアの内容

1人目の被介護者のケアの内容については、高齢者では「買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている」が73.7%で最も高く、次いで「通院の援助をしている」が69.3%、「役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている」が66.4%となっている。障害者では「買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている」が82.9%で最も高く、次いで「通院の援助をしている」が71.9%、「役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている」が65.7%となっている。（複数回答）



II 調査結果

1. ケアラー当事者調査

ア) 高齢者

(複数回答)

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている	101	73.7%	11	42.3%	4	57.1%
買い物同行などの外出の援助をしている	62	45.3%	10	38.5%	1	14.3%
通院の援助をしている	95	69.3%	13	50.0%	4	57.1%
A T Mでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている	71	51.8%	7	26.9%	2	28.6%
屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている	40	29.2%	1	3.8%	0	0.0%
本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている	77	56.2%	6	23.1%	1	14.3%
徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている	19	13.9%	0	0.0%	1	14.3%
服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている	50	36.5%	1	3.8%	1	14.3%
経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている	1	0.7%	1	3.8%	0	0.0%
役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている	91	66.4%	15	57.7%	3	42.9%
趣味や余暇の支援をしている	21	15.3%	2	7.7%	1	14.3%
その他	5	3.6%	2	7.7%	1	14.3%
無回答	0	0.0%	2	7.7%	1	14.3%
回答者数	137	-	26	-	7	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### イ) 障害者

(複数回答)

項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている	271	82.9%	65	81.3%	8	57.1%
買い物同行などの外出の援助をしている	162	49.5%	50	62.5%	5	35.7%
通院の援助をしている	235	71.9%	60	75.0%	7	50.0%
A T Mでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている	157	48.0%	43	53.8%	6	42.9%
屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている	168	51.4%	21	26.3%	2	14.3%
本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている	200	61.2%	52	65.0%	9	64.3%
徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている	46	14.1%	9	11.3%	1	7.1%
服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている	157	48.0%	31	38.8%	3	21.4%
経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている	31	9.5%	2	2.5%	1	7.1%
役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている	215	65.7%	60	75.0%	7	50.0%
趣味や余暇の支援をしている	132	40.4%	28	35.0%	2	14.3%
その他	16	4.9%	2	2.5%	2	14.3%
無回答	6	1.8%	2	2.5%	1	7.1%
回答者数	327	-	80	-	14	-

## II 調査結果

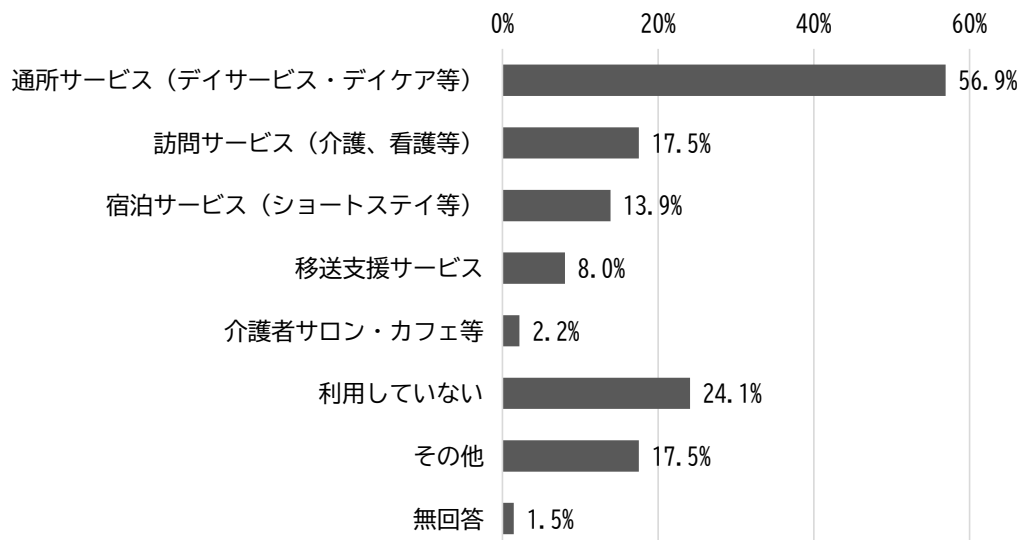
### 1. ケアラー当事者調査

#### (7) 利用している（したことがある）サービス

##### ア) 高齢者

1人目の被介護者の利用しているサービスについては、「通所サービス（デイサービス・デイケア等）」が56.9%で最も高く、次いで「訪問サービス（介護、看護等）」が17.5%、「宿泊サービス（ショートステイ等）」が13.9%となっている。また、「利用していない」が24.1%となっている。

(複数回答)



(複数回答)

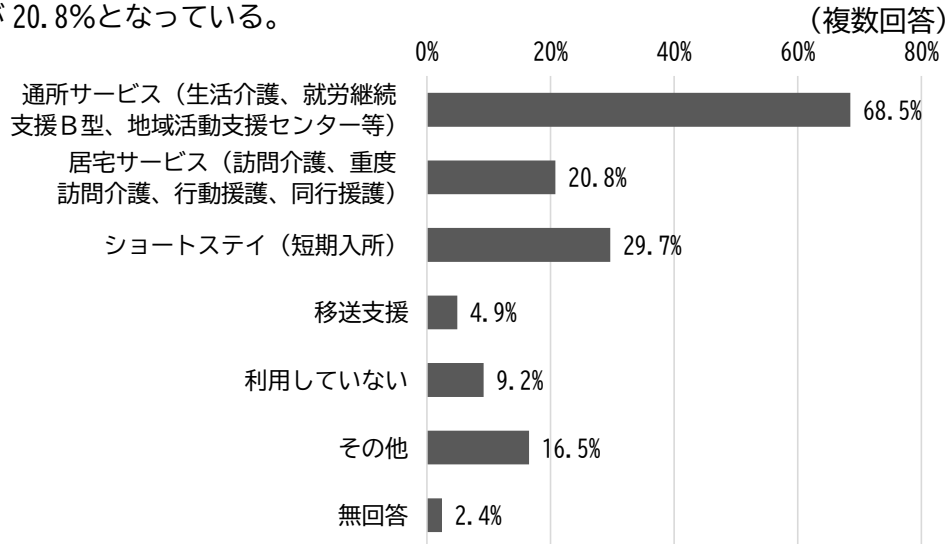
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
通所サービス（デイサービス・デイケア等）	78	56.9%	9	34.6%	0	0.0%
訪問サービス（介護、看護等）	24	17.5%	1	3.8%	1	14.3%
宿泊サービス（ショートステイ等）	19	13.9%	2	7.7%	1	14.3%
移送支援サービス	11	8.0%	1	3.8%	1	14.3%
介護者サロン・カフェ等	3	2.2%	1	3.8%	0	0.0%
利用していない	33	24.1%	9	34.6%	2	28.6%
その他	24	17.5%	3	11.5%	2	28.6%
無回答	2	1.5%	3	11.5%	2	28.6%
回答者数	137	-	26	-	7	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### イ) 障害者

1人目の被介護者の利用しているサービスについては、「通所サービス（生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター等）」が68.5%で最も高く、次いで「ショートステイ（短期入所）」が29.7%、「居宅サービス（訪問介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護）」が20.8%となっている。



(複数回答)

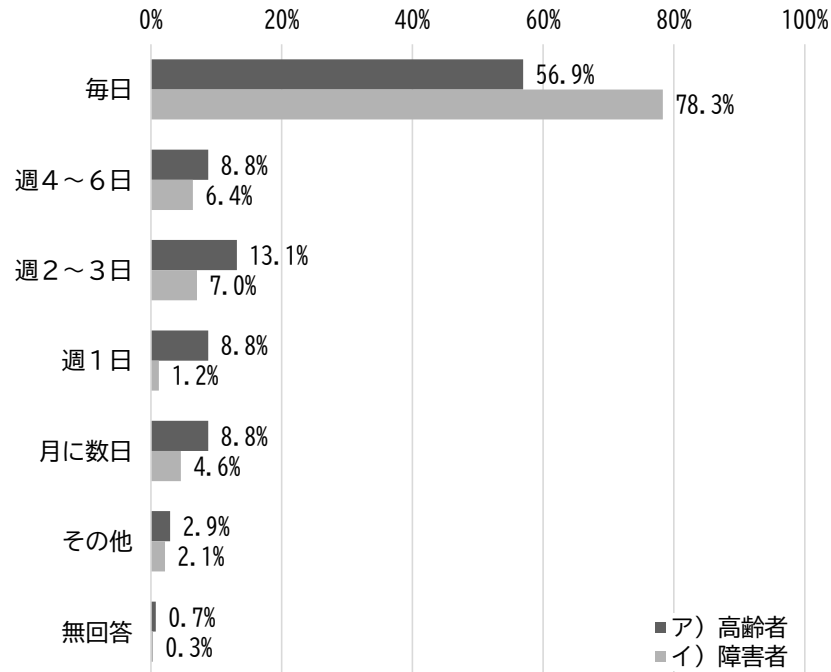
項目	1人目		2人目		3人目	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
通所サービス（生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター等）	224	68.5%	38	47.5%	2	14.3%
居宅サービス（訪問介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護）	68	20.8%	6	7.5%	0	0.0%
ショートステイ（短期入所）	97	29.7%	10	12.5%	1	7.1%
移送支援	16	4.9%	4	5.0%	0	0.0%
利用していない	30	9.2%	15	18.8%	5	35.7%
その他	54	16.5%	13	16.3%	3	21.4%
無回答	8	2.4%	8	10.0%	4	28.6%
回答者数	327	-	80	-	14	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (8) ケアの頻度

ケアの頻度については、高齢者では「毎日」が56.9%で最も高く、次いで「週2～3日」が13.1%となっている。障害者では同様に「毎日」が78.3%で最も高く、次いで「週2～3日」が7.0%となっている。



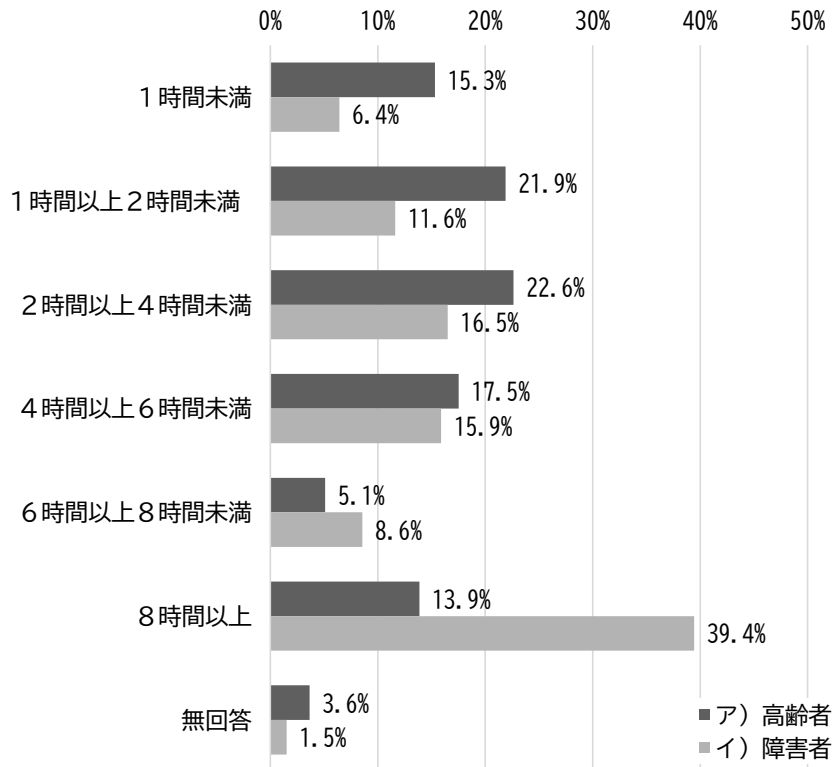
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
毎日	78	56.9%	256	78.3%
週4～6日	12	8.8%	21	6.4%
週2～3日	18	13.1%	23	7.0%
週1日	12	8.8%	4	1.2%
月に数日	12	8.8%	15	4.6%
その他	4	2.9%	7	2.1%
無回答	1	0.7%	1	0.3%
合計	137	100.0%	327	100.0%

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (9) 1日のケア時間

1日のケア時間については、高齢者では「2時間以上4時間未満」が22.6%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」が21.9%、「4時間以上6時間未満」が17.5%となっている。障害者では「8時間以上」が39.4%で最も高く、次いで「2時間以上4時間未満」が16.5%、「4時間以上6時間未満」が15.9%となっている。



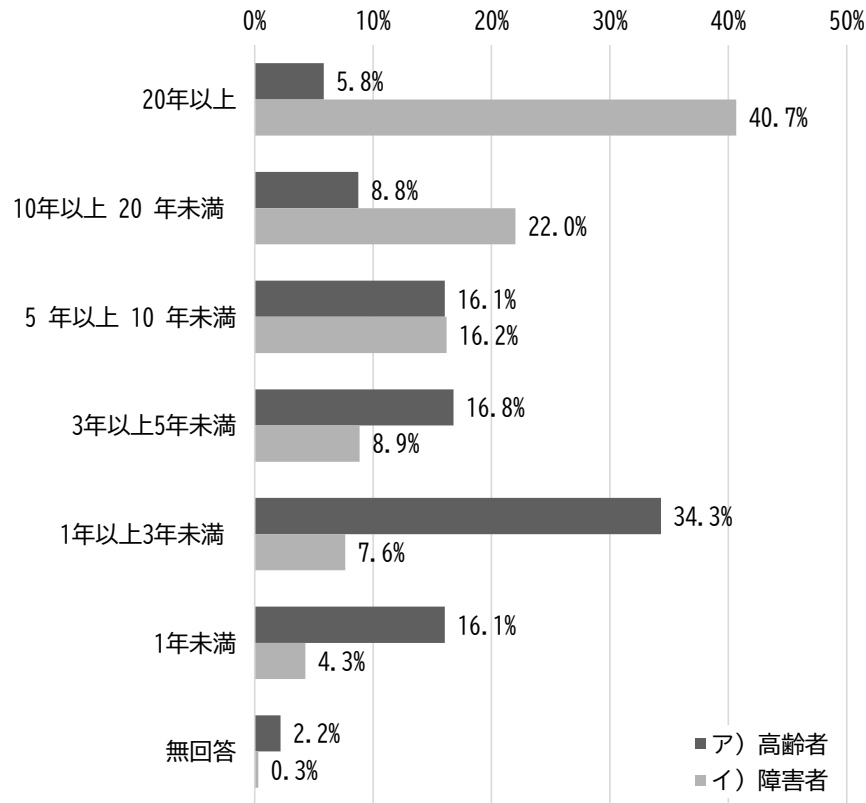
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
1時間未満	21	15.3%	21	6.4%
1時間以上2時間未満	30	21.9%	38	11.6%
2時間以上4時間未満	31	22.6%	54	16.5%
4時間以上6時間未満	24	17.5%	52	15.9%
6時間以上8時間未満	7	5.1%	28	8.6%
8時間以上	19	13.9%	129	39.4%
無回答	5	3.6%	5	1.5%
合計	137	100.0%	327	100.0%

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (10) ケアの年数

ケアの年数については、高齢者では「1年以上3年未満」が34.3%で最も高く、次いで「3年以上5年未満」が16.8%となっている。障害者では「20年以上」が40.7%で最も高く、次いで「10年以上20年未満」が22.0%となっている。



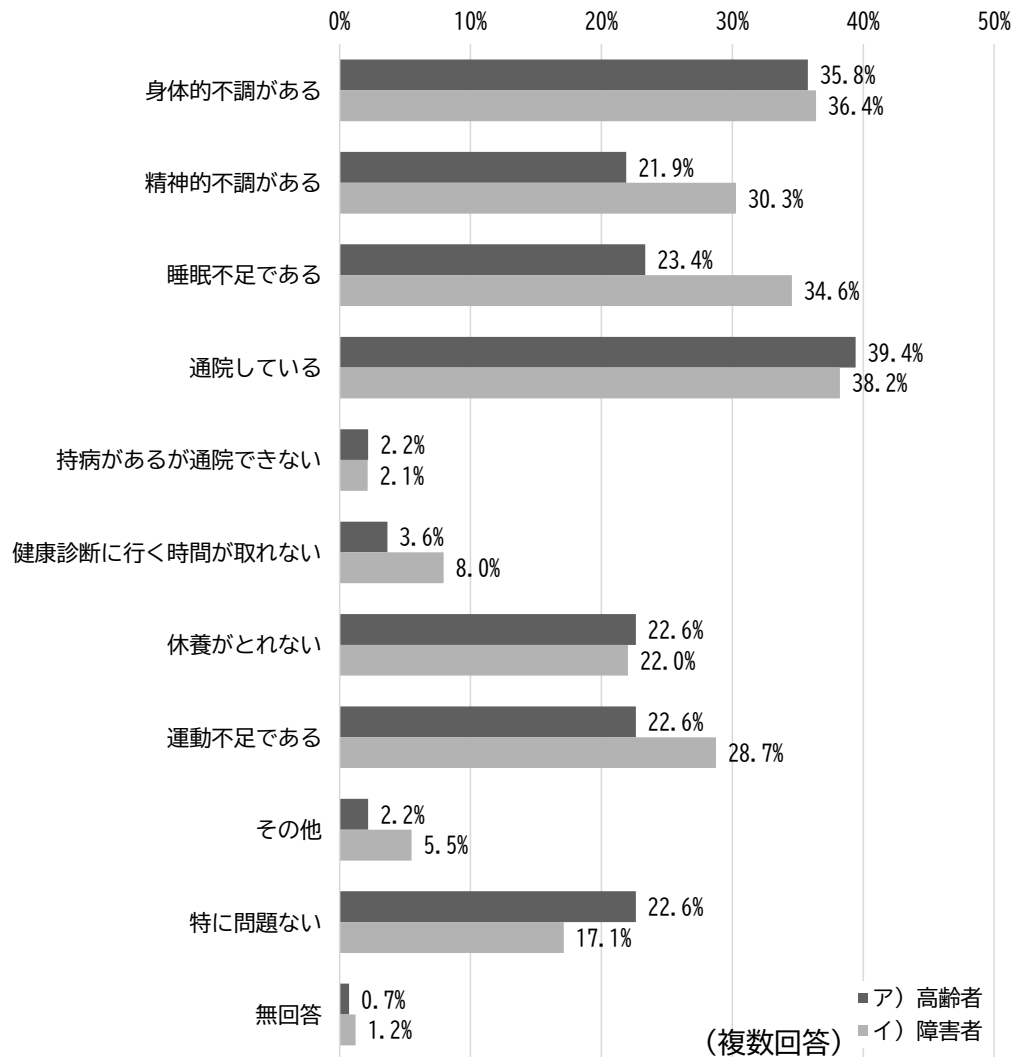
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
20年以上	8	5.8%	133	40.7%
10年以上 20年未満	12	8.8%	72	22.0%
5年以上 10年未満	22	16.1%	53	16.2%
3年以上5年未満	23	16.8%	29	8.9%
1年以上3年未満	47	34.3%	25	7.6%
1年未満	22	16.1%	14	4.3%
無回答	3	2.2%	1	0.3%
合計	137	100.0%	327	100.0%



3) ケアラー自身へのケアの影響について

(1) ケアラーの健康状態

ケアラーの健康状態については、高齢者では「通院している」が39.4%で最も高く、次いで「身体的不調がある」が35.8%、「睡眠不足である」が23.4%となっている。障害者も同様に、「通院している」が38.2%で最も高く、次いで「身体的不調がある」が36.4%、「睡眠不足である」が34.6%となっている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
身体的不調がある	49	35.8%	119	36.4%
精神的不調がある	30	21.9%	99	30.3%
睡眠不足である	32	23.4%	113	34.6%
通院している	54	39.4%	125	38.2%
持病があるが通院できない	3	2.2%	7	2.1%
健康診断に行く時間が取れない	5	3.6%	26	8.0%
休養がとれない	31	22.6%	72	22.0%
運動不足である	31	22.6%	94	28.7%
その他	3	2.2%	18	5.5%
特に問題ない	31	22.6%	56	17.1%
無回答	1	0.7%	4	1.2%
回答者数	137	-	327	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】ケアラーの健康状態×年齢区分

##### ア) 高齢者

ケアラーの健康状態と年齢区分については、年齢が上がるに従い「通院している」「身体的不調がある」の割合が高くなっている。また、70代で「休養がとれない」の割合が他の年代に比べ高くなっている。

項目	50歳未満		50代		60代		70代		80歳以上	
	割合		割合		割合		割合		割合	
身体的不調がある	25.0%		17.2%		34.6%		42.1%		58.8%	
精神的不調がある	25.0%		27.6%		19.2%		21.1%		17.6%	
睡眠不足である	16.7%		20.7%		23.1%		36.8%		23.5%	
通院している	8.3%		27.6%		26.9%		36.8%		70.6%	
持病があるが通院できない	0.0%		3.4%		3.8%		0.0%		5.9%	
健康診断に行く時間が取れない	8.3%		0.0%		11.5%		5.3%		0.0%	
休養がとれない	8.3%		10.3%		26.9%		47.4%		11.8%	
運動不足である	33.3%		24.1%		23.1%		31.6%		23.5%	
その他	0.0%		3.4%		3.8%		5.3%		0.0%	
特に問題ない	41.7%		20.7%		34.6%		15.8%		17.6%	
無回答	0.0%		0.0%		3.8%		0.0%		0.0%	
回答者数	12	-	29	-	26	-	19	-	17	-

##### イ) 障害者

ケアラーの健康状態と年齢区分については、年齢が上がるに従い「身体的不調がある」「通院している」の割合が高くなっている。また、30～40代で「睡眠不足である」の割合が他の年代に比べ高くなっている。

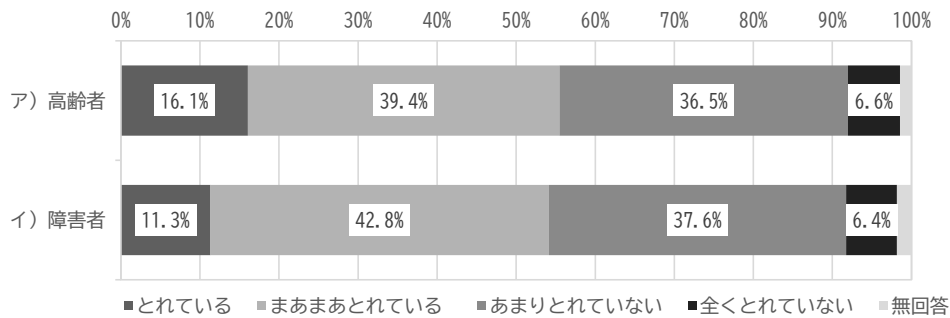
項目	30歳未満		30～40代		50～60代		70歳以上	
	割合		割合		割合		割合	
身体的不調がある	22.2%		32.9%		40.0%		45.5%	
精神的不調がある	22.2%		32.9%		32.7%		27.3%	
睡眠不足である	11.1%		42.1%		35.5%		27.3%	
通院している	33.3%		25.0%		48.2%		45.5%	
持病があるが通院できない	0.0%		1.3%		3.6%		0.0%	
健康診断に行く時間が取れない	0.0%		7.9%		10.0%		9.1%	
休養がとれない	0.0%		31.6%		19.1%		20.5%	
運動不足である	0.0%		30.3%		33.6%		22.7%	
その他	11.1%		7.9%		3.6%		0.0%	
特に問題ない	55.6%		15.8%		15.5%		18.2%	
無回答	0.0%		2.6%		0.0%		2.3%	
回答者数	9	-	76	-	110	-	44	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (2) 自分のための時間（趣味や休息など）の取得

自分の時間がとれているかについては、高齢者では「まあまあとれている」が39.4%で最も高く、次いで「あまりとれていない」が36.5%、「とれている」が16.1%と時間がとれている方は5割程度にとどまっている。障害者でも同様に「まあまあとれている」が42.8%で最も高く、次いで「あまりとれていない」が37.6%、「とれている」が11.3%と時間がとれている場合は5割程度にとどまっている。



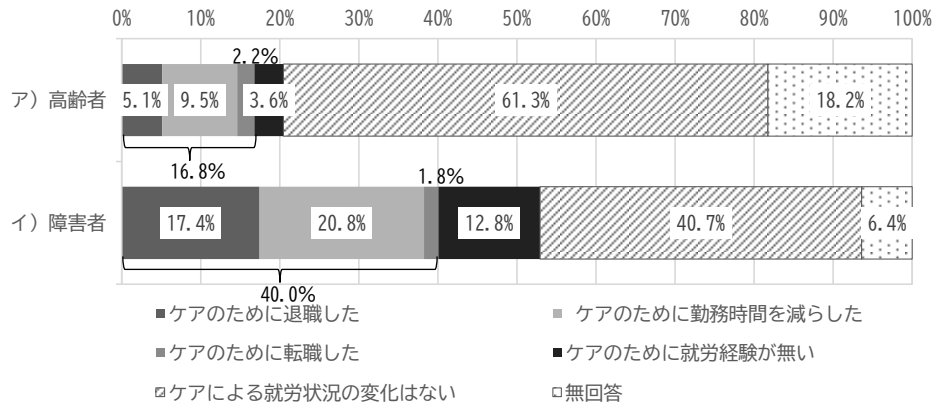
項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
とれている	22	16.1%	37	11.3%
まあまあとれている	54	39.4%	140	42.8%
あまりとれていない	50	36.5%	123	37.6%
全くとれていない	9	6.6%	21	6.4%
無回答	2	1.5%	6	1.8%
合計	137	100.0%	327	100.0%

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (3) ケアによる就労状況の変化

就労状況の変化については、「ケアのために退職した」「ケアのために勤務時間を減らした」「ケアのために転職した」を合わせると高齢者では16.8%、障害者では40.0%となっており、障害者では、より就労状況の変化が高くなっている。

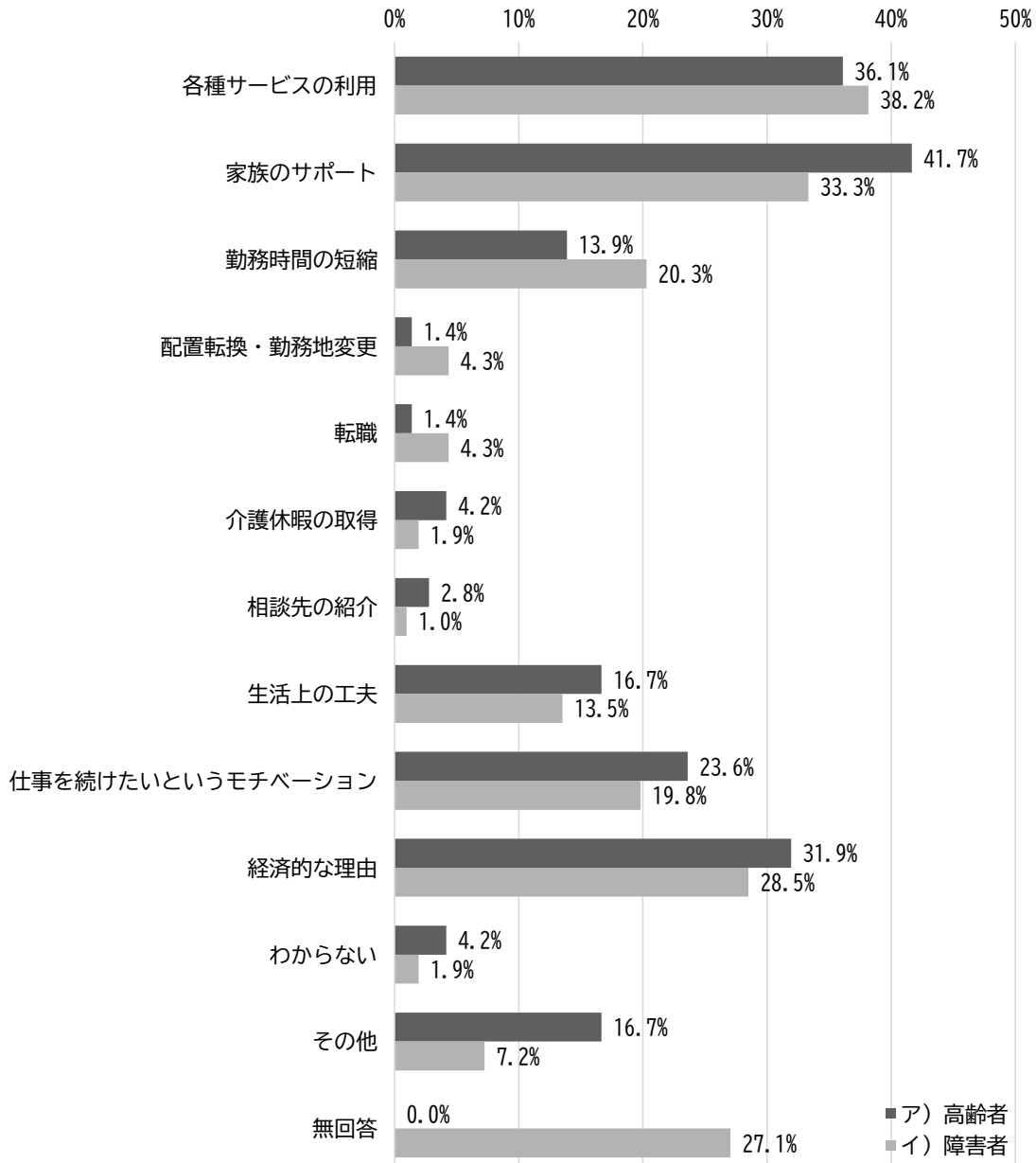


項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
ケアのために退職した	7	5.1%	57	17.4%
ケアのために勤務時間を減らした	13	9.5%	68	20.8%
ケアのために転職した	3	2.2%	6	1.8%
ケアのために就労経験が無い	5	3.6%	42	12.8%
ケアによる就労状況の変化はない	84	61.3%	133	40.7%
無回答	25	18.2%	21	6.4%
合計	137	100.0%	327	100.0%

(4-1) 就労を続けられている理由

就労を続けられている理由については、高齢者では「家族のサポート」が41.7%で最も高く、次いで「各種サービスの利用」が36.1%、「経済的な理由」が31.9%となっている。障害者では「各種サービスの利用」が38.2%で最も高く、次いで「家族のサポート」が33.3%、「経済的な理由」が28.5%となっている。

(複数回答)



## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
各種サービスの利用	26	36.1%	79	38.2%
家族のサポート	30	41.7%	69	33.3%
勤務時間の短縮	10	13.9%	42	20.3%
配置転換・勤務地変更	1	1.4%	9	4.3%
転職	1	1.4%	9	4.3%
介護休暇の取得	3	4.2%	4	1.9%
相談先の紹介	2	2.8%	2	1.0%
生活上の工夫	12	16.7%	28	13.5%
仕事を続けたいというモチベーション	17	23.6%	41	19.8%
経済的な理由	23	31.9%	59	28.5%
わからない	3	4.2%	4	1.9%
その他	12	16.7%	15	7.2%
無回答	0	0.0%	56	27.1%
回答者数	72	-	207	-
非該当	65	-	120	-
合計	137	-	327	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (4-2) ケアを機に退職した理由

ケアを機に退職した理由については、高齢者では「代わりにケアを担う人がいない」が85.7%で最も高く、次いで「介護と両立できる職場環境ではなかった」が57.1%となっている。障害者では、「代わりにケアを担う人がいない」が65.3%で最も高く、次いで「身体的疲労」が32.7%、「精神的疲労」が30.6%となっている。

(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
身体的疲労	0	0.0%	16	32.7%
精神的疲労	1	14.3%	15	30.6%
代わりにケアを担う人がいない	6	85.7%	32	65.3%
サービスが利用できなくなった	0	0.0%	1	2.0%
サービスは利用しているが、 足りない部分がある	3	42.9%	2	4.1%
業務が多忙でケアの時間がとれない	2	28.6%	3	6.1%
介護と両立できる職場環境ではなかった	4	57.1%	14	28.6%
退職を勧められた	0	0.0%	2	4.1%
その他	0	0.0%	5	10.2%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	7	-	49	-
非該当	130	-	278	-
合計	137	-	327	-

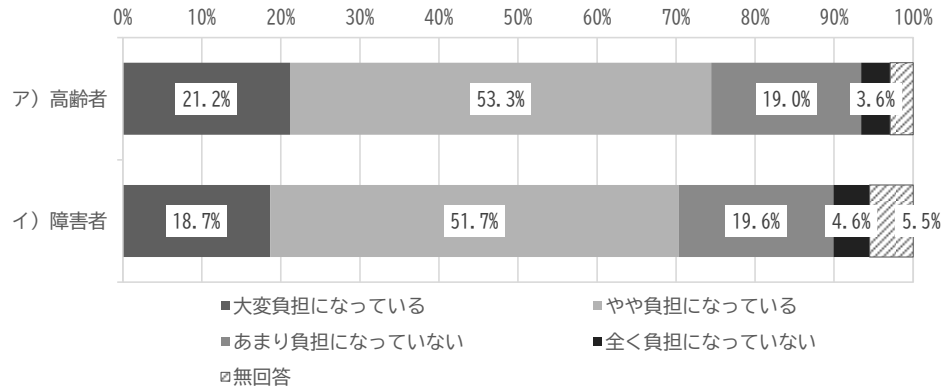
※回答者数が少ないため、表のみ掲載

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (5) ケアの負担感

ケアの負担感については、高齢者では「大変負担になっている」「やや負担になっている」を合わせると74.5%の人が負担と感じている。障害者でも同様に、70.4%の人が負担と感じている。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
大変負担になっている	29	21.2%	61	18.7%
やや負担になっている	73	53.3%	169	51.7%
あまり負担になっていない	26	19.0%	64	19.6%
全く負担になっていない	5	3.6%	15	4.6%
無回答	4	2.9%	18	5.5%
合計	137	100.0%	327	100.0%



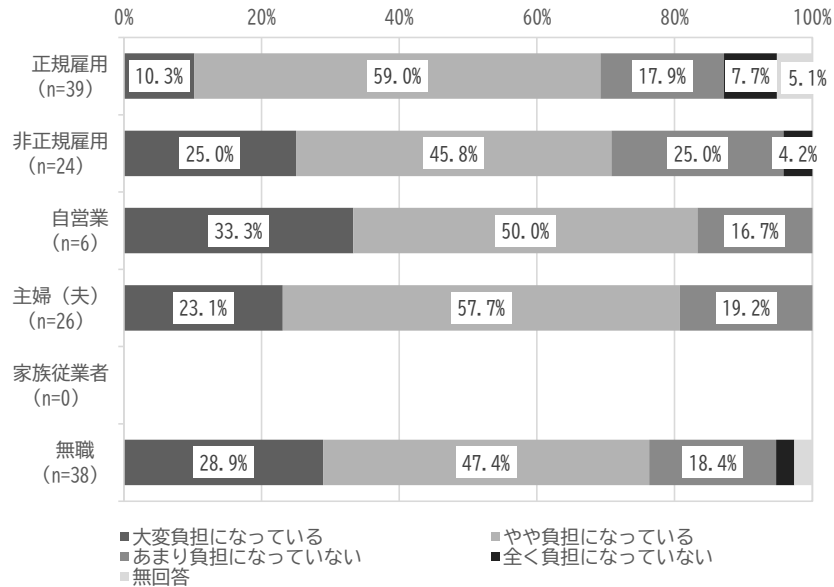
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアの負担感×ケアラー自身の就労状況

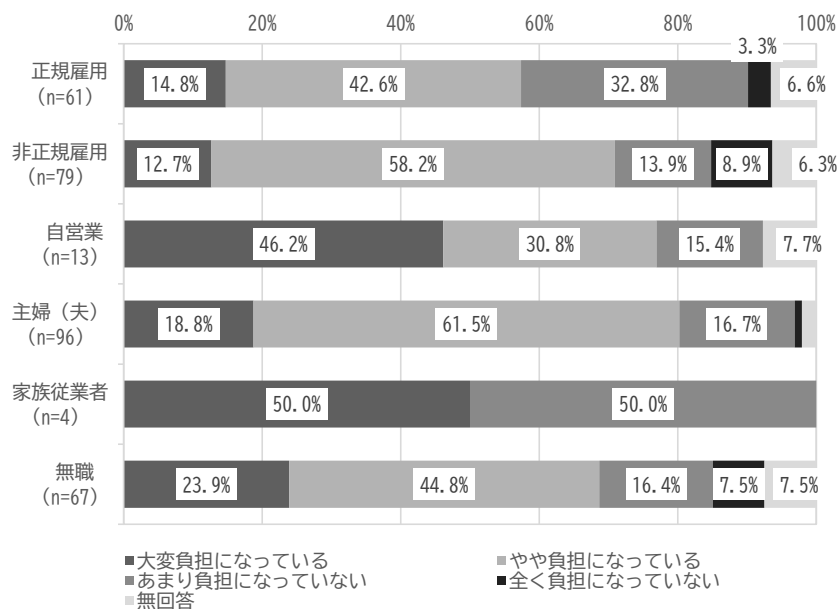
##### ア) 高齢者

ケアの負担感とケアラー自身の就労状況については、「自営業」が「大変負担になっている」の割合が高く、次いで「無職」が高くなっている。



##### イ) 障害者

ケアの負担感とケアラー自身の就労状況については、「家族従事者」が「大変負担になっている」の割合が高く、次いで「自営業」が高くなっている。



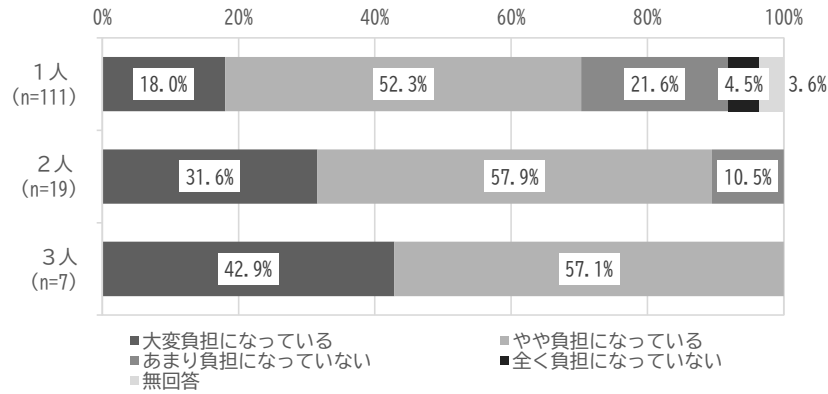
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアの負担感×ケアをしている人数

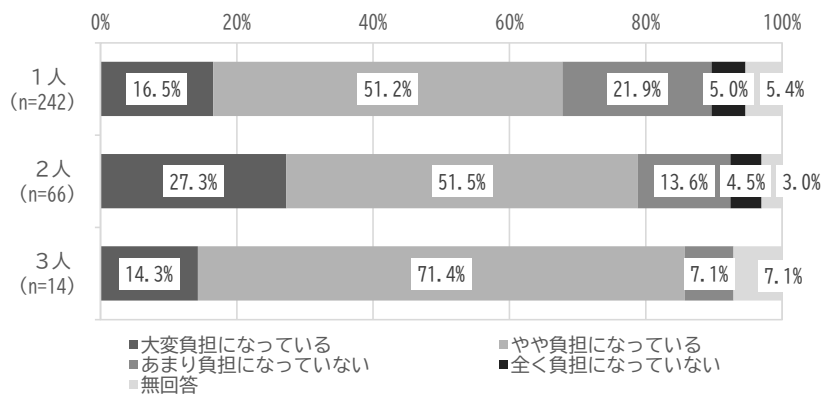
##### ア) 高齢者

ケアの負担感とケアをしている人数については、ケアをしている人数が多い場合が「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



##### イ) 障害者

ケアの負担感とケアをしている人数については、ケアをしている人数が1人より2人の場合が「大変負担になっている」の割合が高くなっている。また、ケアをしている人数が3人では「やや負担になっている」の割合が高くなっている。



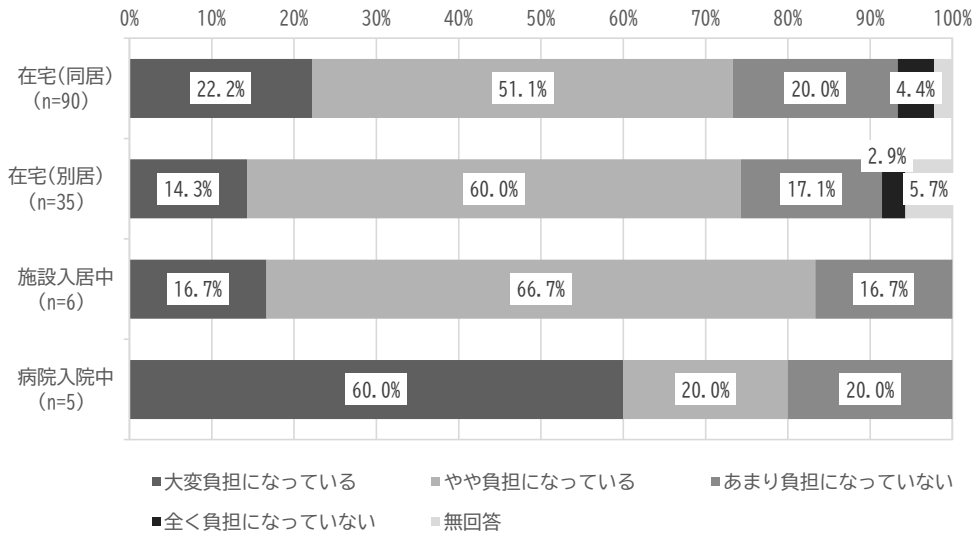
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアの負担感×被介護者の生活の場所

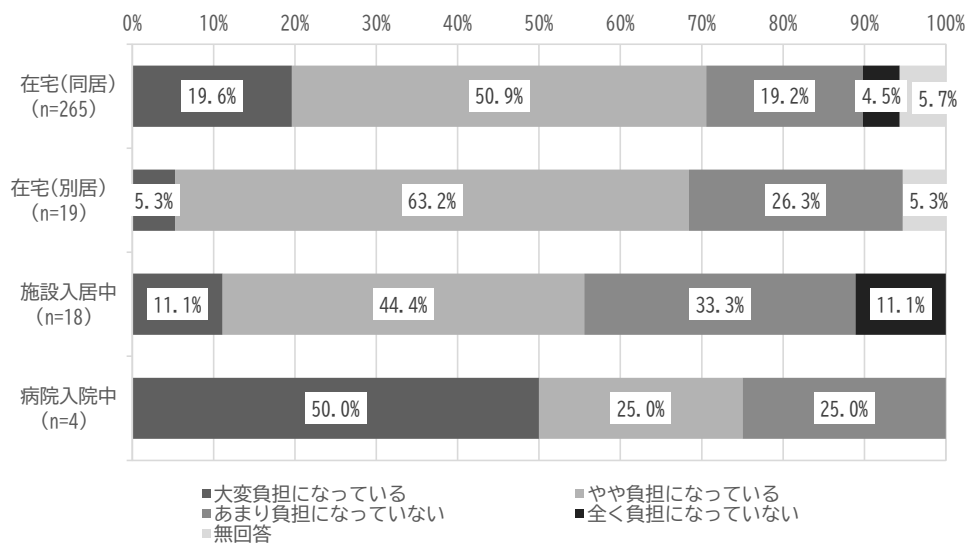
##### ア) 高齢者

ケアの負担感と被介護者の生活の場所については、「病院入院中」が他の項目に比べ「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



##### イ) 障害者

ケアの負担感と被介護者の生活の場所については、「病院入院中」が他の項目に比べ「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



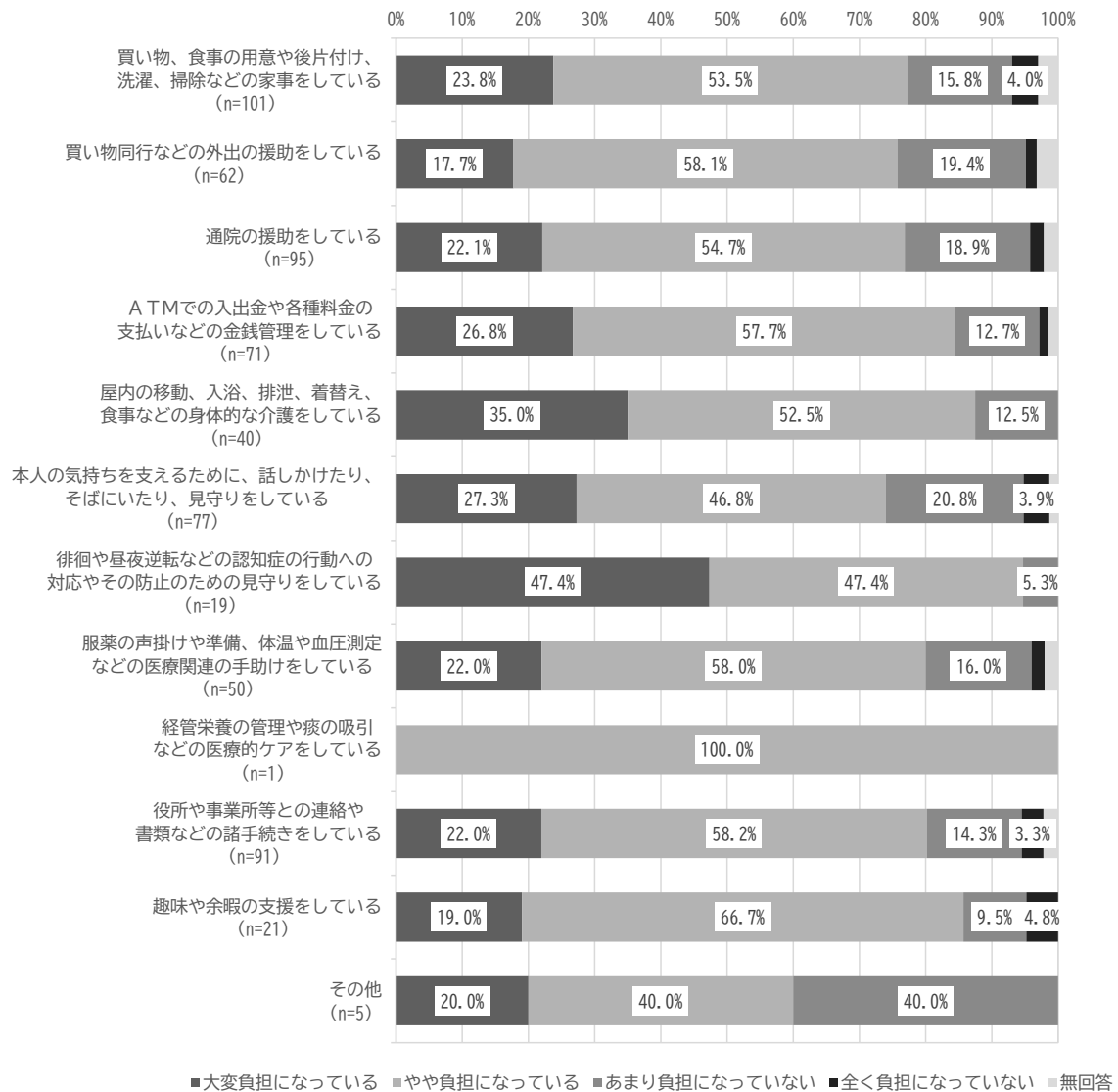
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアの負担感×ケアの内容

##### ア) 高齢者

ケアの負担感とケアの内容については、「徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている」「屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている」の場合に、「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

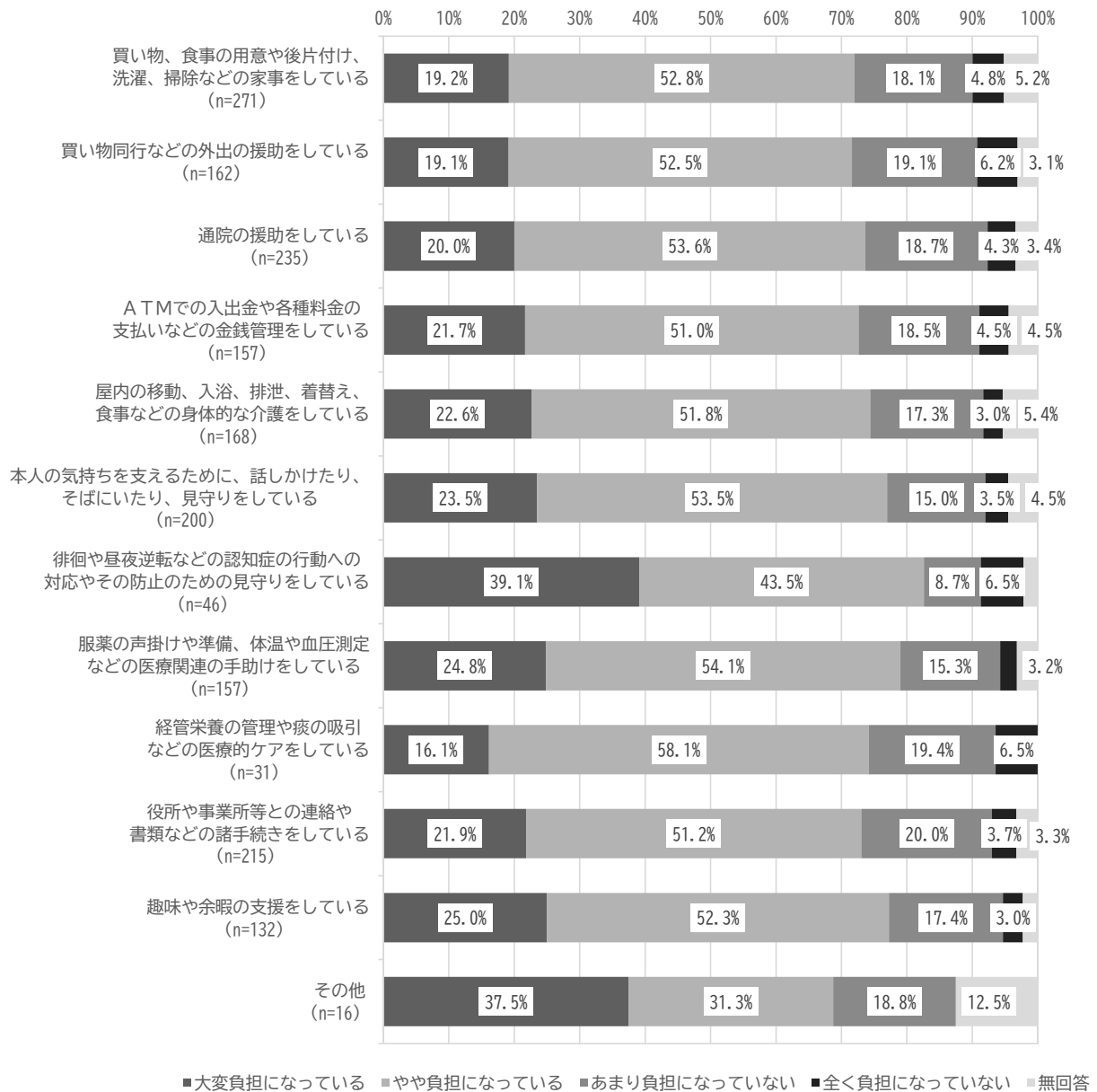


## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### イ) 障害者

ケアの負担感とケアの内容については、「徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている」の場合に、「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



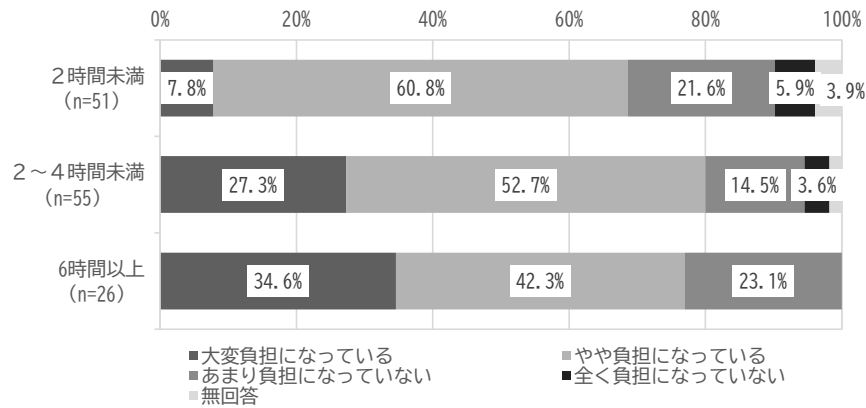
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアの負担感×1日のケア時間

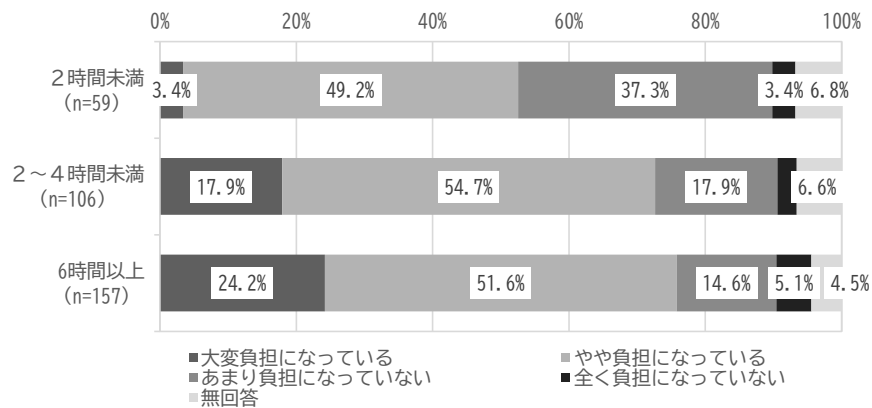
##### ア) 高齢者

ケアの負担感と1日のケア時間については、時間が長くなるほど「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



##### イ) 障害者

ケアの負担感と1日のケア時間については、時間が長くなるほど「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



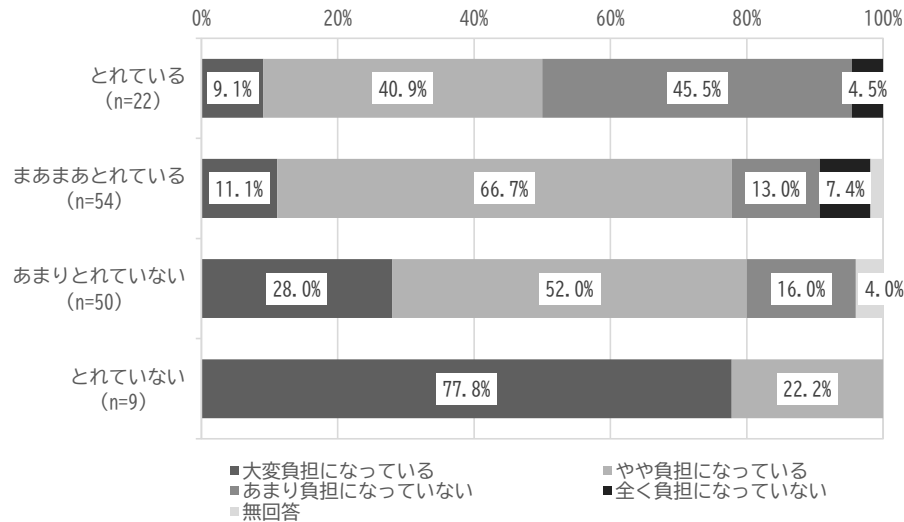
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアの負担感×自分のための時間の取得

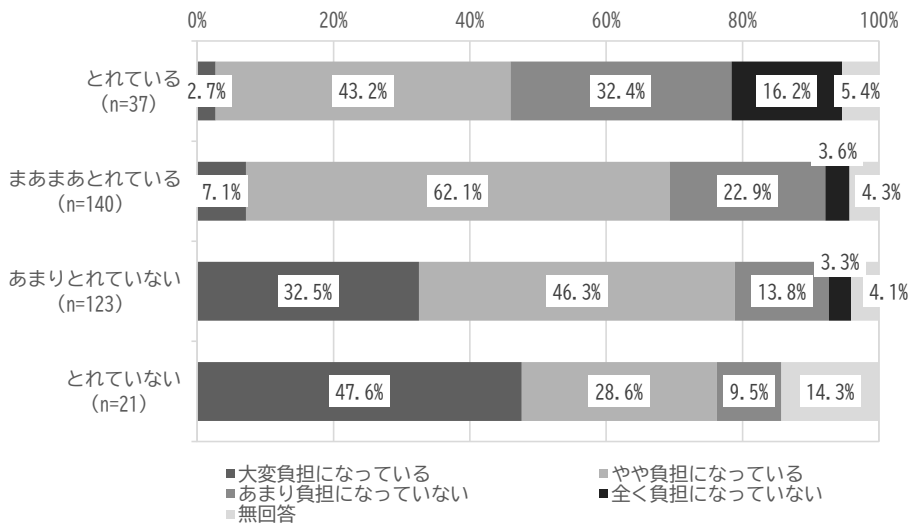
##### ア) 高齢者

ケアの負担感と自分のための時間の取得については、「とれていない」の場合に「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



##### イ) 障害者

ケアの負担感と自分のための時間の取得については、「とれていない」の場合に「大変負担になっている」の割合が高くなっている。



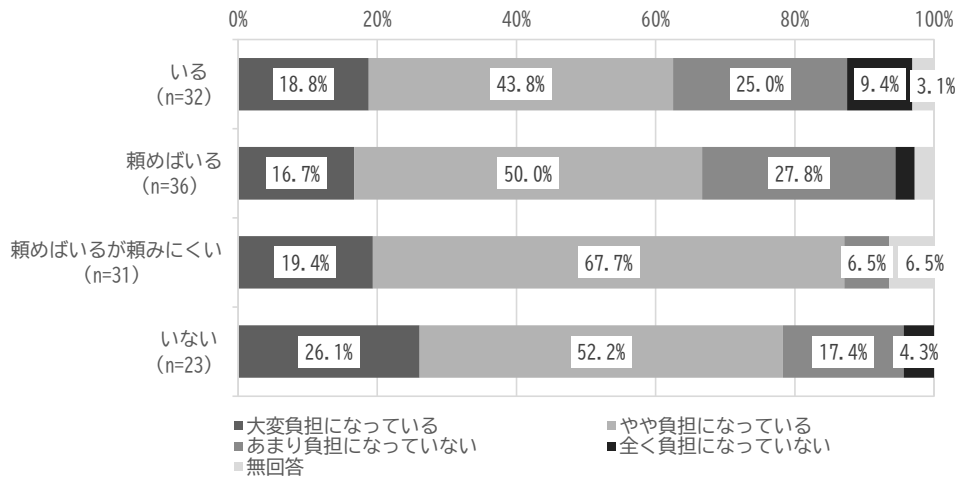
## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアの負担感×代わりにケアを担う人の有無

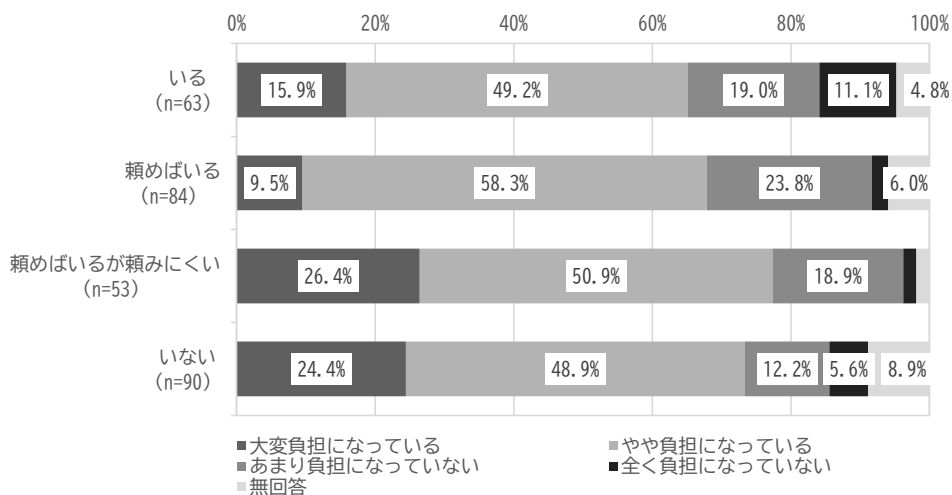
##### ア) 高齢者

ケアの負担感と代わりにケアを担う人の有無については、「いる」「頼めばいる」の場合に「あまり負担になっていない」の割合が高くなっている。



##### イ) 障害者

ケアの負担感と代わりにケアを担う人の有無については、「頼めばいるが頼みにくい」「いない」の場合に「大変負担になっている」の割合が高くなっている。

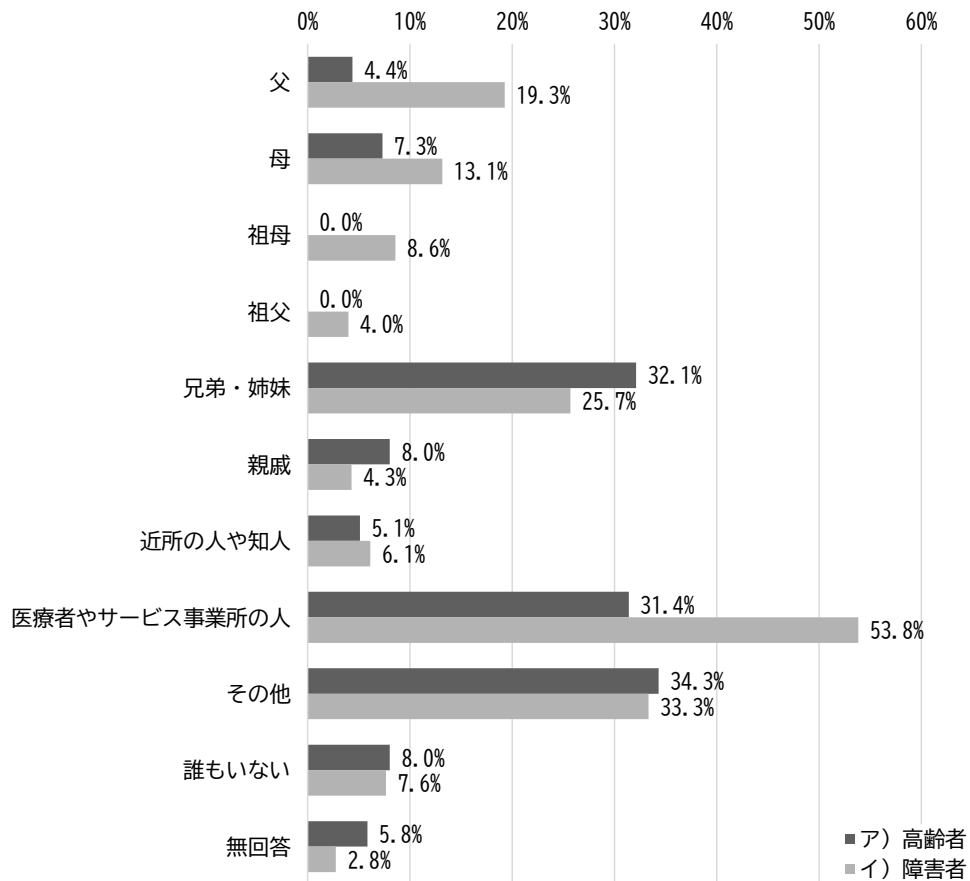




4) ケアに関する相談について

(1) ケアに協力してくれる人

ケアに協力してくれる人については、高齢者では「兄弟・姉妹」が 32.1%で最も高く、次いで「医療者やサービス事業所の人」が 31.4%となっている。障害者では「医療者やサービス事業所の人」が 53.8%で最も高く、次いで「兄弟・姉妹」が 25.7%、「父」が 19.3%となっている。また、「誰もいない」はそれぞれ 1 割弱となっている。 (複数回答)



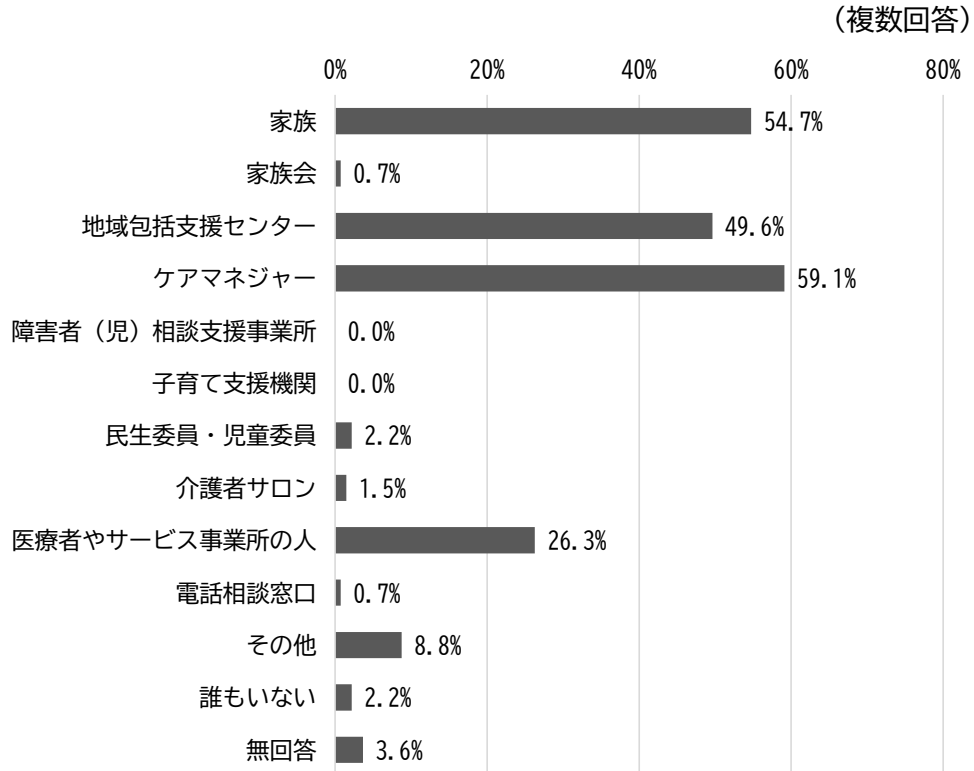
(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
父	6	4.4%	63	19.3%
母	10	7.3%	43	13.1%
祖母	0	0.0%	28	8.6%
祖父	0	0.0%	13	4.0%
兄弟・姉妹	44	32.1%	84	25.7%
親戚	11	8.0%	14	4.3%
近所の人や知人	7	5.1%	20	6.1%
医療者やサービス事業所の人	43	31.4%	176	53.8%
その他	47	34.3%	109	33.3%
誰もいない	11	8.0%	25	7.6%
無回答	8	5.8%	9	2.8%
回答者数	137	-	327	-

(2) 信頼できる相談相手や窓口・機関

ア) 高齢者

信頼できる相談相手や窓口・機関については、「ケアマネジャー」が59.1%で最も高く、次いで「家族」が54.7%、「地域包括支援センター」が49.6%となっている。



(複数回答)

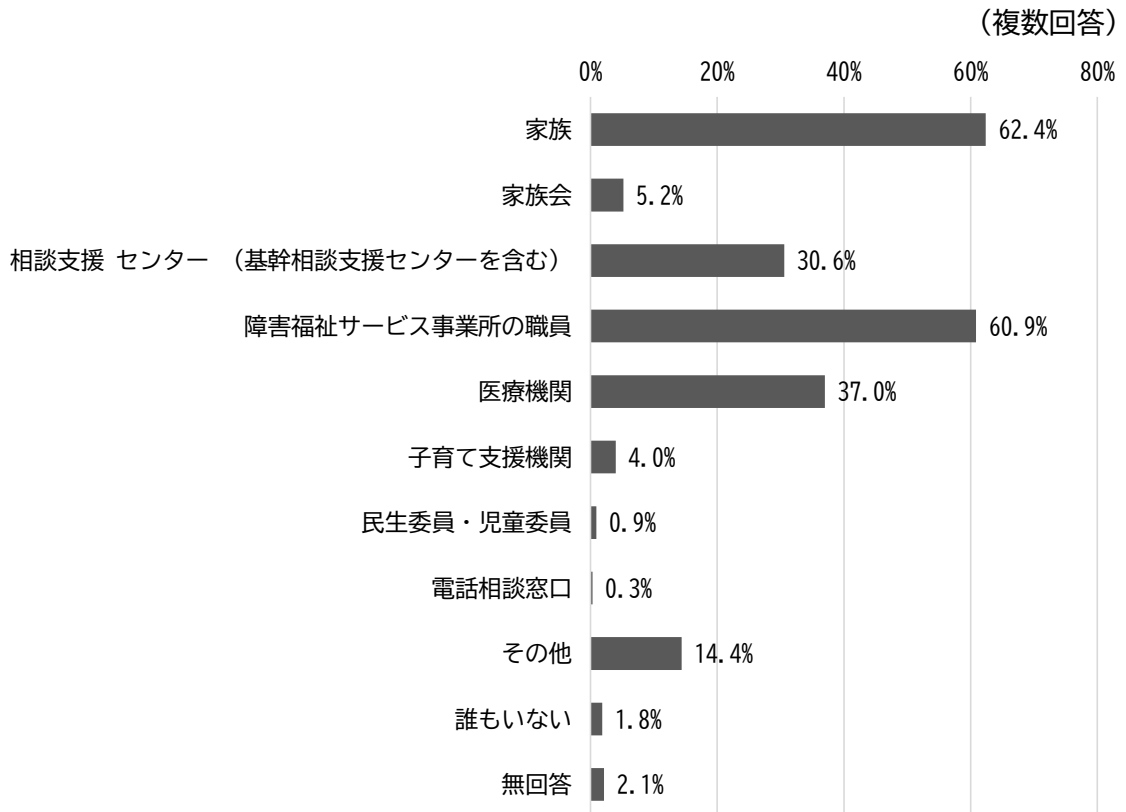
項目	回答数	割合
家族	75	54.7%
家族会	1	0.7%
地域包括支援センター	68	49.6%
ケアマネジャー	81	59.1%
障害者(児)相談支援事業所	0	0.0%
子育て支援機関	0	0.0%
民生委員・児童委員	3	2.2%
介護者サロン	2	1.5%
医療者やサービス事業所の人	36	26.3%
電話相談窓口	1	0.7%
その他	12	8.8%
誰もいない	3	2.2%
無回答	5	3.6%
回答者数	137	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### イ) 障害者

信頼できる相談相手や窓口・機関については、「家族」が62.4%で最も高く、次いで「障害福祉サービス事業所の職員」が60.9%、「医療機関」が37.0%となっている。



(複数回答)

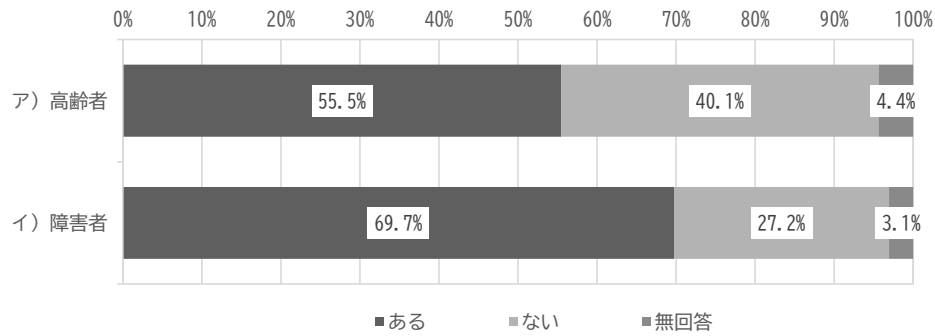
項目	回答数	割合
家族	204	62.4%
家族会	17	5.2%
相談支援センター（基幹相談支援センターを含む）	100	30.6%
障害福祉サービス事業所の職員	199	60.9%
医療機関	121	37.0%
子育て支援機関	13	4.0%
民生委員・児童委員	3	0.9%
電話相談窓口	1	0.3%
その他	47	14.4%
誰もいない	6	1.8%
無回答	7	2.1%
回答者数	327	-

## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (3) ケアラーの悩みの有無

ケアラーの悩みの有無については、高齢者では「ある」が55.5%、「ない」が40.1%となっている。障害者では「ある」が69.7%、「ない」が27.2%と約7割の方が悩みがあると回答している。



項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
ある	76	55.5%	228	69.7%
ない	55	40.1%	89	27.2%
無回答	6	4.4%	10	3.1%
合計	137	100.0%	327	100.0%

## II 調査結果

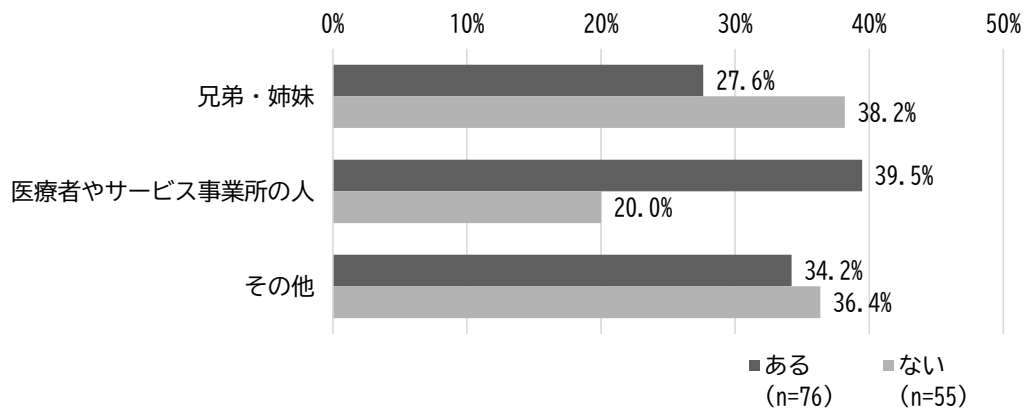
### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアラーの悩みの有無×ケアに協力してくれる人(抜粋)

##### ア) 高齢者

ケアラーの悩みの有無とケアに協力してくれる人※については、ケアに協力してくれる人が「兄弟・姉妹」の場合は、「悩みがない」の割合が高く、「医療者やサービスの事業所の人」の場合は「悩みがある」の割合が高くなっている。

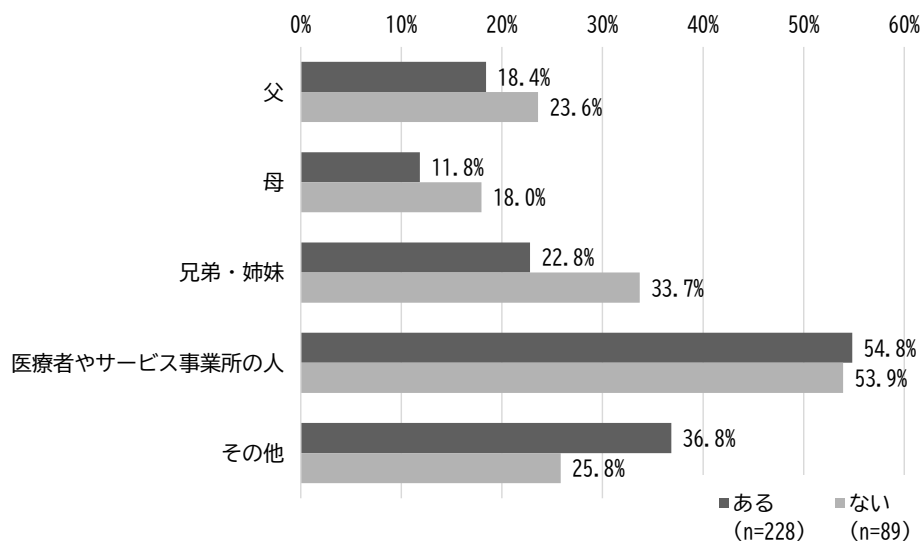
※回答数が多い項目を抜粋



##### イ) 障害者

ケアラーの悩みの有無とケアに協力してくれる人※については、ケアに協力してくれる人が「父」「母」「兄弟・姉妹」の場合は、「悩みがない」の割合が高くなっている。

※回答数が多い項目を抜粋



## II 調査結果

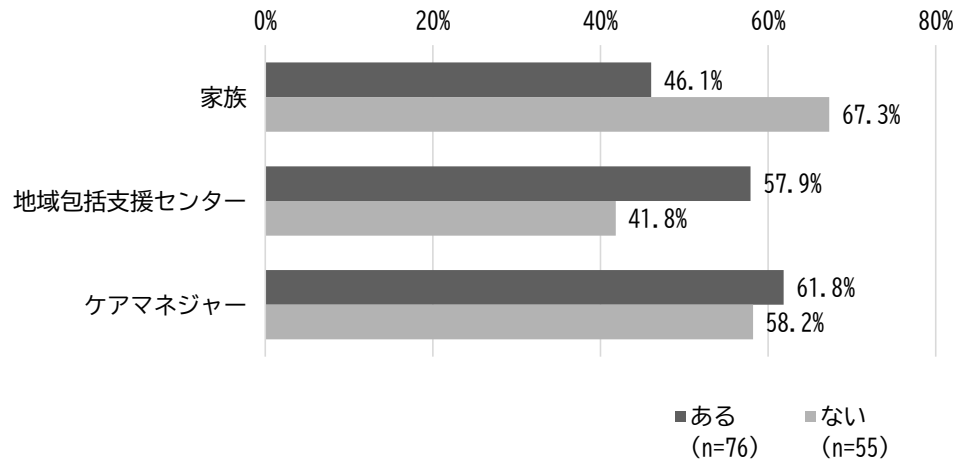
### 1. ケアラー当事者調査

#### 【クロス集計】 ケアラーの悩みの有無×信頼できる相談相手や窓口・機関(抜粋)

##### ア) 高齢者

ケアラーの悩みの有無と信頼できる相談相手や窓口・機関※については、相談相手が「家族」の場合は「悩みがない」の割合が高く、「地域包括支援センター」の場合は「悩みがある」の割合が高くなっている。

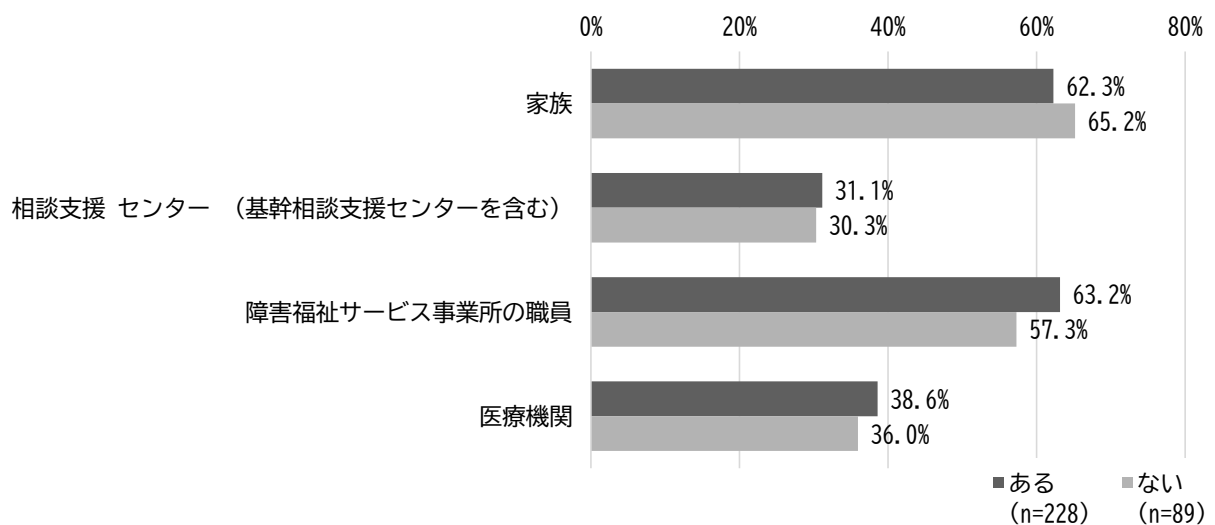
※回答数が多い項目を抜粋



##### イ) 障害者

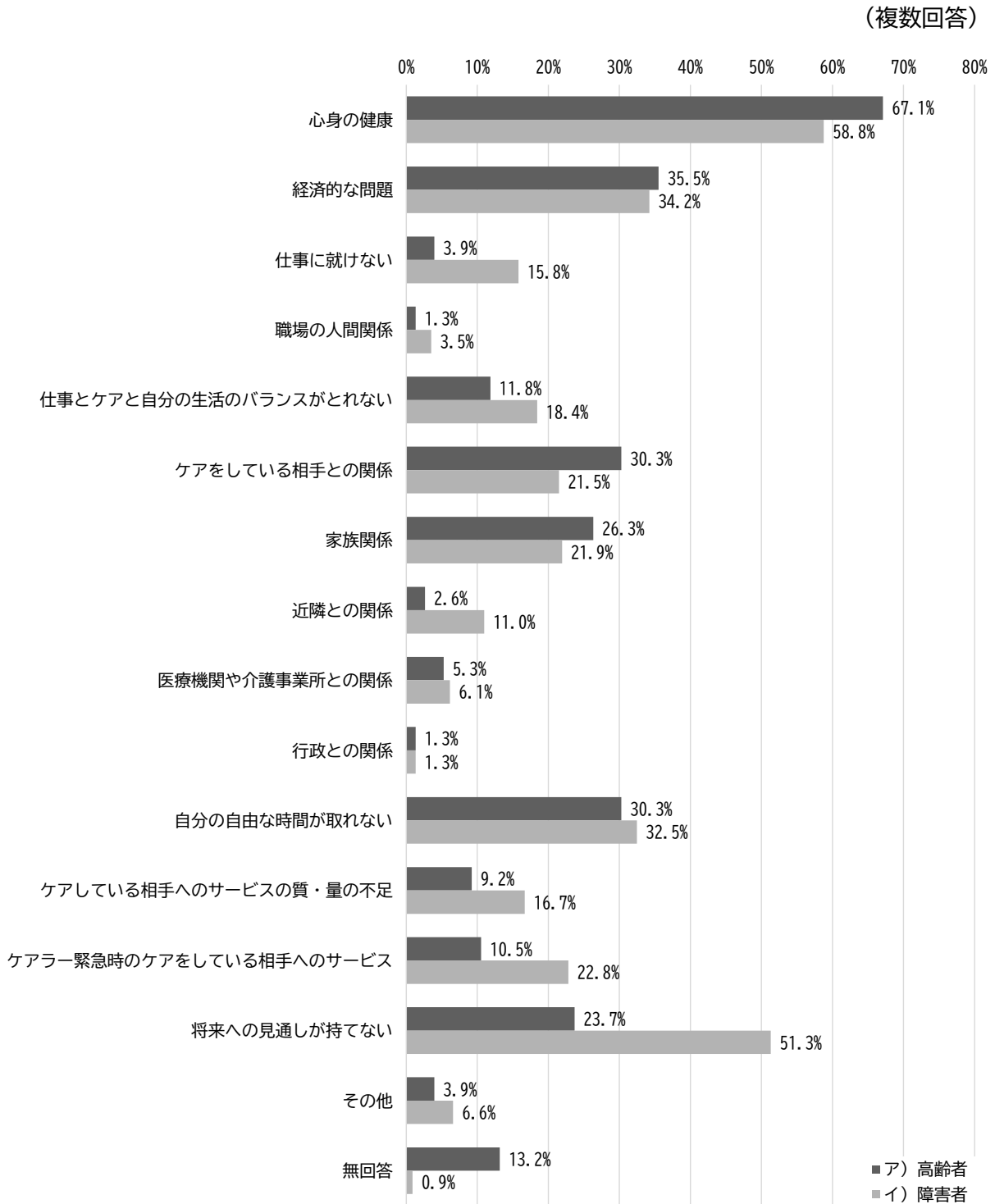
ケアラーの悩みの有無と信頼できる相談相手や窓口・機関※については、あまり差はないが、相談相手が「家族」の場合は「悩みがない」の割合がわずかに高く、「障害福祉サービス事業所の職員」の場合は「悩みがある」の割合がやや高くなっている。

※回答数が多い項目を抜粋



(4) ケアラーの生活や人生に関する悩み

ケアラーの生活や人生に関する悩みについては、高齢者、障害者ともに「心身の健康」がそれぞれ 67.1%、58.8%で最も高く、次いで高齢者では「経済的な問題」が 35.5%、障害者では「将来への見通しが持てない」が 51.3%となっている。



## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
心身の健康	51	67.1%	134	58.8%
経済的な問題	27	35.5%	78	34.2%
仕事に就けない	3	3.9%	36	15.8%
職場の人間関係	1	1.3%	8	3.5%
仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない	9	11.8%	42	18.4%
ケアをしている相手との関係	23	30.3%	49	21.5%
家族関係	20	26.3%	50	21.9%
近隣との関係	2	2.6%	25	11.0%
医療機関や介護事業所との関係	4	5.3%	14	6.1%
行政との関係	1	1.3%	3	1.3%
自分の自由な時間が取れない	23	30.3%	74	32.5%
ケアしている相手へのサービスの質・量の不足	7	9.2%	38	16.7%
ケアラー緊急時のケアをしている相手へのサービス	8	10.5%	52	22.8%
将来への見通しが持てない	18	23.7%	117	51.3%
その他	3	3.9%	15	6.6%
無回答	10	13.2%	2	0.9%
回答者数	76	-	228	-
非該当	61	-	99	-
合計	137	-	327	-

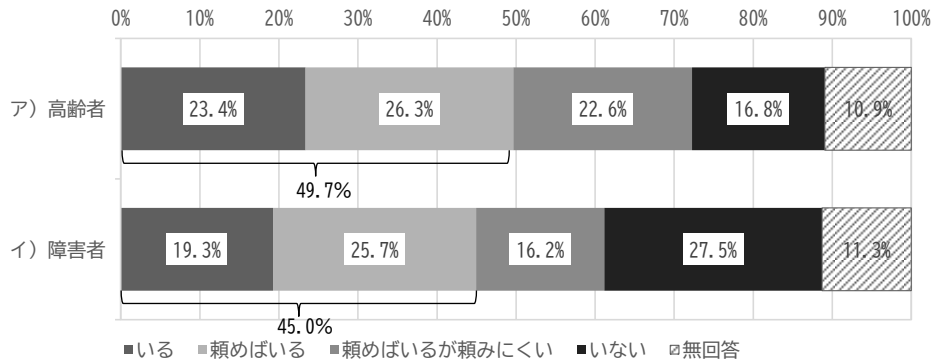


## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

#### (5) 代わりにケアを担う人の有無

代わりにケアを担う人の有無については、「いる」「頼めばいる」を合わせると、高齢者では49.7%、障害者では45.0%となっているが、一方で「いない」との回答も障害者では27.5%と高くなっている。

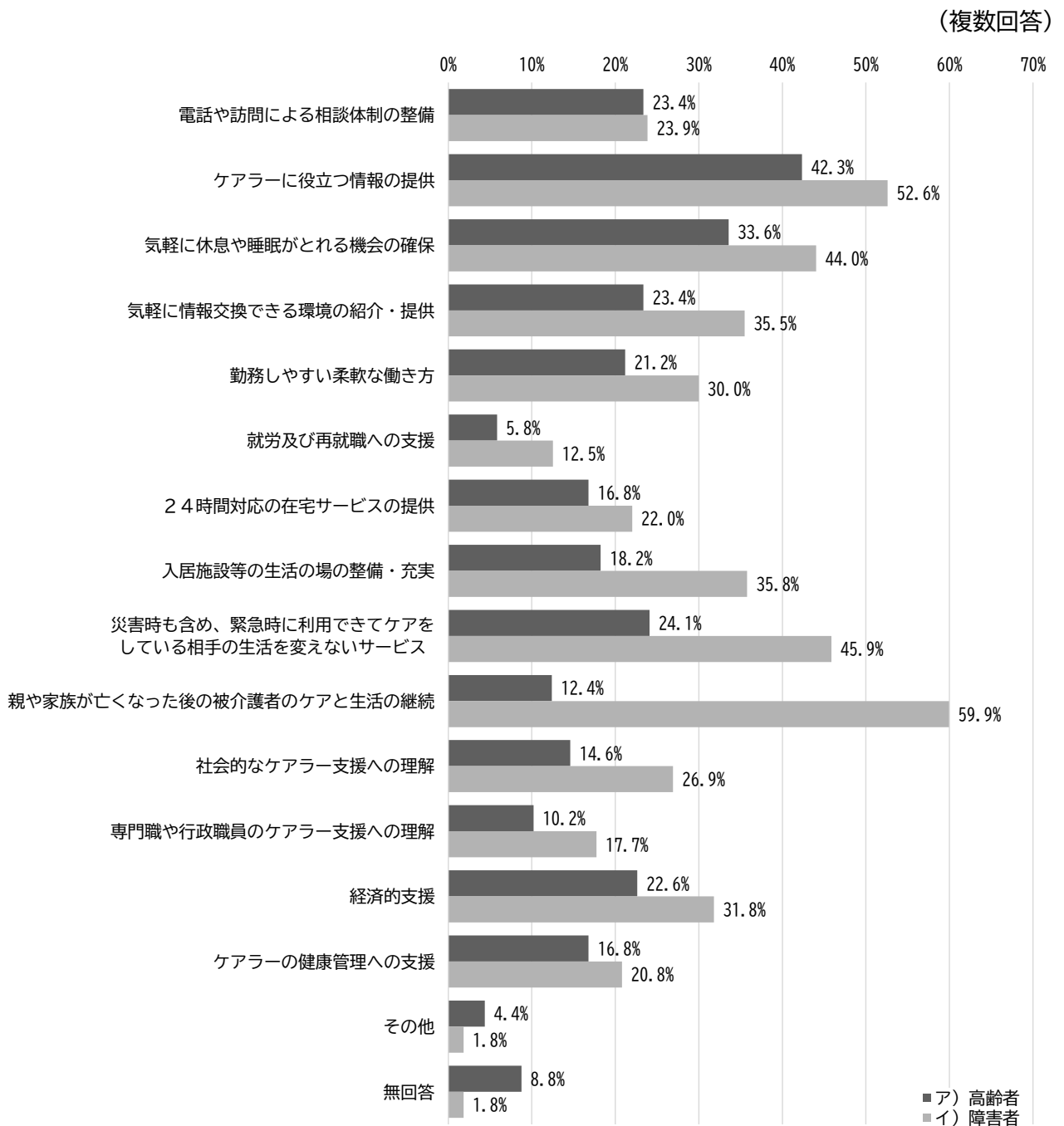


項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
いる	32	23.4%	63	19.3%
頼めばいる	36	26.3%	84	25.7%
頼めばいるが頼みにくい	31	22.6%	53	16.2%
いない	23	16.8%	90	27.5%
無回答	15	10.9%	37	11.3%
合計	137	100.0%	327	100.0%

5) 求める支援について

(1) 必要な支援

必要な支援については、高齢者では「ケアラーに役立つ情報の提供」が42.3%で最も高く、次いで「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」が33.6%、「災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス」が24.1%となっている。障害者では「親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続」が59.9%で最も高く、次いで「ケアラーに役立つ情報の提供」が52.6%、「災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス」が45.9%となっている。



## II 調査結果

### 1. ケアラー当事者調査

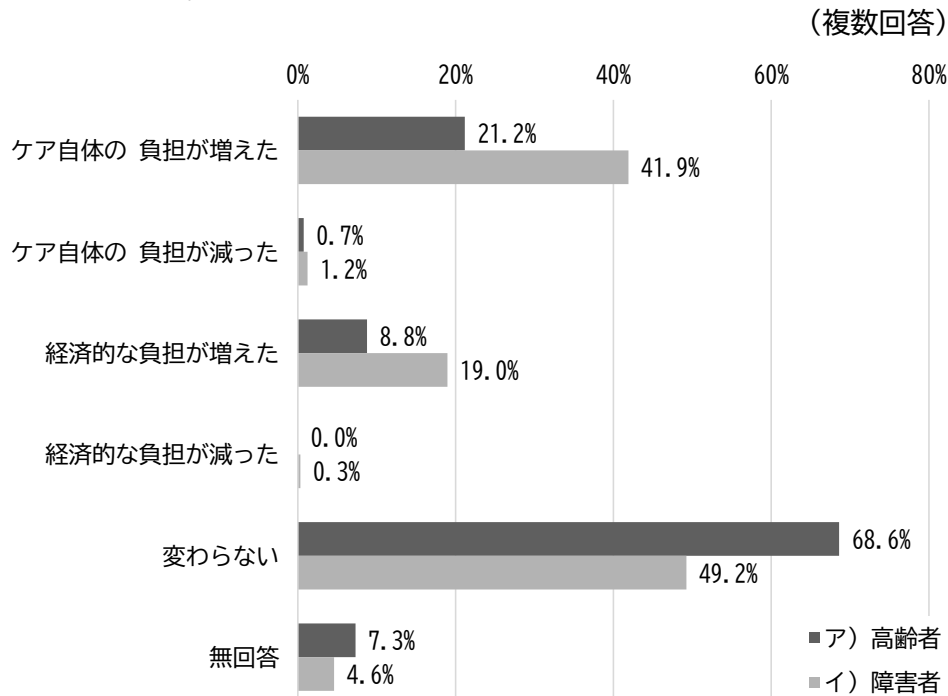
(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
電話や訪問による相談体制の整備	32	23.4%	78	23.9%
ケアラーに役立つ情報の提供	58	42.3%	172	52.6%
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保	46	33.6%	144	44.0%
気軽に情報交換できる環境の紹介・提供	32	23.4%	116	35.5%
勤務しやすい柔軟な働き方	29	21.2%	98	30.0%
就労及び再就職への支援	8	5.8%	41	12.5%
24時間対応の在宅サービスの提供	23	16.8%	72	22.0%
入居施設等の生活の場の整備・充実	25	18.2%	117	35.8%
災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス	33	24.1%	150	45.9%
親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続	17	12.4%	196	59.9%
社会的なケアラー支援への理解	20	14.6%	88	26.9%
専門職や行政職員のケアラー支援への理解	14	10.2%	58	17.7%
経済的支援	31	22.6%	104	31.8%
ケアラーの健康管理への支援	23	16.8%	68	20.8%
その他	6	4.4%	6	1.8%
無回答	12	8.8%	6	1.8%
回答者数	137	-	327	-

6) その他

(1) 新型コロナウイルス感染症対策前後でのケア状況の変化

新型コロナウイルス感染症対策前後でのケア状況の変化については、高齢者では「変わらない」が 68.6%で最も高く、次いで「ケアの負担が増えた」が 21.2%となっている。障害者でも同様に「変わらない」が 49.2%で最も高く、次いで「ケアの負担が増えた」が 41.9%となっている。



(複数回答)

項目	ア) 高齢者		イ) 障害者	
	回答数	割合	回答数	割合
ケア自体の負担が増えた	29	21.2%	137	41.9%
ケア自体の負担が減った	1	0.7%	4	1.2%
経済的な負担が増えた	12	8.8%	62	19.0%
経済的な負担が減った	0	0.0%	1	0.3%
変わらない	94	68.6%	161	49.2%
無回答	10	7.3%	15	4.6%
回答者数	137	-	327	-

## 7) 自由記述

### (1) ケアラーにとっての悩みや行政や関係機関等への要望

※主なもののみ、編集して記載

#### ア) 高齢者の回答

##### ◎サービスや支援の充実について

- ケアラーである自分自身も病気で健康不安があるため、ヘルパーなど日常生活を支えるサービスが気軽に頼めると良い。また、何かあった時、すぐにかけてもらえるサービスがあると安心出来る。(未記入、女性)
- 家族にとって心配なのは急激な変化で、患者の今後を予見するような助言をして頂き、対応方法教えてほしいと思います。ホームに入居する時期なども言ってほしい。(60代、男性)
- サロンなど気軽に行ける場所があればいい。(未記入、女性)
- サービスが必要と判断し、利用を勧めても本人自身が利用を拒否する場合、どうしたらよいか。(80歳以上、女性)
- 施設への入所が困難になってきている。(老健、特老など)入所費用も高額になっている。(60代、女性)

##### ◎相談や連携について

- 悩みを相談する場がわからない。(50代、女性)
- 介護についての情報を広報や自治会などから発信してほしい。(どんなことでもケアラーにとっては役に立つと思います)(60代、女性)
- ケアラーとして働けなくなった場合のケア引継ぎ。(未記入、男性)
- ケアラーは自分自身が経験して初めて分かることばかりでした。人から聞いても経験がないと理解出来ないことがあります。もし要望できるようならケアラー同士の会などあれば良いなと思います。(60代、女性)

##### ◎ケアラーのメンタルケアについて

- 体調が悪い時や介護に手助けが欲しい時には、夫に応援を頼んだこともありますが、私の母であるため、どうしても全てを一人で抱え込んでしまい、心身ともにつらくなりがちです。(70代、女性)
- 自分自身のことなのですが、毎日短時間で同じことを何回も繰り返して話をしたり、耳が遠く、認知が入っているため分からないことを言っていると強い口調で言うことがある。すごく自分が嫌になる事がある。(50代、女性)
- 何と言っても解放される日がないという事。高齢の認知症と2人の生活、自分は(あと3ヶ月で80才)悩みは自分が元気であるうちに夫を見送ることが出来るのか、いつも考えてしまいます。子供たちに迷惑かけたくない、という思いは強いが欠けている。(70代、女性)
- ケアラーの大変さはなかなか理解してもらえない。親を看取るのが当然。「諦め」の様な感情が生じます。もっとケアラーの大変さを社会で知ってもらいたい。特に田舎の中で生活して

いく上では世間の目もあり大変です。(未記入、女性)

◎経済支援について

- 遠方から月に数回実家に行き様子を見ては帰るを繰り返す。経済的に問題ないので、お金で解決出来ることもあるが、仕事の都合で来られない家族はどうしたら良いのか、経済援助した方が良いのでは。(50代、男性)
- 介護面の負担として、被介護は年々介護が高まっていくので外部への手助けが必要となりますが、そのサービスを受け取るにあたり、補助金等の手助けがあると助かります。(未記入、女性)

◎その他

- 今月初めに義父を亡くしましたが、ケアマネの助言やデイ職員の対応に大変励まされ、心の支えになりました。(60代、女性)
- 主介護者は主に母の為大きな負担は少ないが、母も病弱であり入退院を繰り返している状況。私自身子育て世代なので母が亡くなった後など、祖母の存在に不安を感じる面がある。(30代、女性)

イ) 障害者の回答

◎サービスや支援の充実について

- ケアラーが助けを求めても良いのだと言われても、私たちは助けて、手伝ってと言にくい。また、いっぱいいっぱい何をしてほしいか考えつかない。使えるはずのサービスがあっても地域性で利用しづらかったり、なかったりで役に立たない。老人介護がダブっていた数年はかなり追いつめられていた。(60代、女性)
- ケアされる子供たちが学校や福祉サービスに行っている間だけの短時間の仕事が少ない。学校は長期休みがあり、その間は朝や夕方の方の家にいる時間が違ってくるのでパート等も就労しにくい(50代、女性)
- 在宅サービスやレスパイト施設の充実。(未記入、女性)
- ケアラー自身が倒れた時、被介護者が困らないようなサービスや支援、周囲の理解を広めていただきたいです。(40代、女性)
- 自分に何かあった時に預かってくれる場所がないため、家族がケアをするため仕事を休まなければならない。すぐに対応してくれる場所がないことが不安。(30代、女性)
- デイサービス等の利用でケアラー自身の時間を持つことが出来るようになったが、その時間に家事や買い物等をする、仕事に就くことが難しい。週2~3日3~4時間程度の仕事がしたい。社会的なつながりを持つことが出来ず孤立していきそうな気がする。(未記入、女性)
- 利用しようとする支援サービスの受け皿がなく使えない。入所施設があまりに少ない。休日の過ごし方が大変。親が具合悪くなった時にどうするか心配。(70代、女性)
- ケアラーに突然予定ができ、時間を作りたい時に支援をしてくれるサービスがあると助かる。(未記入、女性)

- 介護者が病気、ケガなどしてケアが出来ない時、安心して支援をしてもらえる場所、人が欲しい。(未記入、女性)
- 児童発達支援を利用させていただいていた時、10:00~16:00 までだったため正社員の仕事が出来ませんでした。転職しました。辛かったです。障害があっても保育園のように勤務に合わせて預かって頂けるところがほしかったです。(40代、女性)
- ケアラーの悩み、必要とするサービス(援助)は個々に様々ですが、行政や関係機関等に相談等をする時には担当ごとに分けられてしまいます。もっと総合的に連携のとれた支援体制が必要と感じています。(60代、女性)
- 入所先など受け皿が沢山あれば、いつでもお願いできるので安心出来る。(未記入、女性)
- 睡眠がとれるようにショートステイの施設を増やしてほしい。ヘルプマークの浸透化。(30代、女性)
- 休みの日に預ける所があると助かる。(未記入、女性)
- 発達障害があり、登校時見守りが必要なため、仕事に就くのが難しい。朝登校時の見守支援があると助かります。(40代、女性)
- 特別支援学校卒業後、就労B型の事業所で手厚い支援を受けながら張り合いを持って楽しく働かせていただいております。一つ希望を言いますと、休日は親が見ないといけないという環境に置かれていますので、余暇活動を支えてくれる施設があるといいなと思います。思いきり楽しめて幸せそうな子供を見ていることが私の幸せにもつながります。(40代、女性)

#### ◎将来の不安について

- 「障害のある子の親亡き後」の対応について、情報がほしい。セミナーなども積極的に実施してほしい。また、支援施設(障害者)を増やしていただきたい。(60代、男性)
- 将来を考え入所施設を探しているが、聴覚過敏、無断外出等、対応して頂きたい条件が沢山あるためなかなか見つからない。細かい施設の情報が一覧で見られるものがあると嬉しい。(50代、女性)
- 精神の障害のある弟が高齢になった時に入所出来る施設が見つかるのか不安です。(60代、女性)
- ケアをする人とされる人の関係が重要であるので、現在息子の面倒を見られるのが主人と母である私と通所施設の方だけである。主人と私にもしものことがあると、息子の世話や仕事にとっても影響することが予想されることが悩みである。(50代、女性)
- ケアラーがケア出来なくなった時に今までとおなじ支援が受けられるか。ケアラーがしてきたことをしっかり受け継いでケアしてもらえるのか心配。(70代、女性)
- 将来のこと、こどもが安心して暮らせる環境。成人後の障害者の入居施設などが増えてほしい。支援者の充実。(未記入、女性)

#### ◎経済支援について

- 娘が稼ぐ金額はアルバイト代くらいの金額なのですが、障害年金を受給するには、難しいという感じなのでもう少し、何かしら定期的なお金の助成があればと思う。(40代、女性)

- ケアラーにとっての支援や経済的援助。(未記入、女性)
- 医療費の負担が大きい。障害者手帳を持っている人への医療費の助成などがあってほしい。(未記入、女性)
- 障害者に対して経済的支援をしてほしい。(未記入、女性)
- 将来的に入居させる施設が近くになく金銭的に不安。(50代、男性)

#### ◎相談や連携について

- 発達障害の兄弟がいる兄弟児への対応が分からない時に、相談に乗ってもらえる所があると良い。(子育てについて)(未記入、女性)
- 親が病気や自由に動けなくなる日が来るのであろうと考えると娘をこの先どうしてあげることがベストなのかと悩みます。相談の窓口を分かりやすくしていただきたいのと、個人情報を守りつつ相談に行ける場所の情報が身近にあると助かります。(50代、女性)
- 気軽にいつでも相談出来る所があれば良い。(70代、女性)
- 土日祝日の相談先が少ない。(50代、女性)
- もっと気軽に話せる場所がほしい。当事者同士の交流が出来る場所を作ってほしい。(未記入、女性)
- 相談支援事業所の方々が必要な情報を前もって知らせてくれるので助かっています。(60代、女性)

#### ◎緊急時の支援について

- 母子家庭で1人が持病を持っており、救急搬送の時、親は同行していかなくてはならないが、もう1人の子供をおいて行けない(見てくれている人がいない)。(50代、女性)
- 1番不安なことは災害時、緊急時にすぐにステイ出来るようにしてほしい。平常時、出来るだけケアに専念出来るようにしていきますのでよろしくお願い致します。(70代、女性)
- ケアラー(親)が、事故や病気で一時的にケアが出来ない時、在宅で生活を継続するため、有料のアドバイザーまたは、家政婦さんの派遣を依頼したいが、施設を紹介してほしい。(70代、男性)
- 医ケア児である子の災害時の避難場所や避難時の過ごす環境など不安が強くなります。安全面や休息出来る場所と環境、情報発信などもっと積極的に働きかけてほしいです。(未記入、女性)
- 親子2人で生活しているので、災害時の対応について不安である。どのような支援があるのか詳しく知りたい。(70代、女性)

#### ◎ケアラーの生活環境について

- 私も年齢が高くなり家事をこなすのにお時間がかかるようになり、子の入浴、排泄、食事のお世話、施設への毎日の送迎、お買い物や家事で1日が終わってしまいます…幸い夫も定年になり協力はしてくれますが…援助の使い方もよく分かりません。何年前、役所の福祉課に気軽に相談出来る方がおりましたが、次の年度には異動になってしまいちょっと残念でし



た。(60代、女性)

■本人たちが耳を貸さないことに困っている。第三者として助言をしてほしい。休息をとりたい。(40代、女性)

■自分の時間がとれない。(50代、女性)

■母子家庭でも生活や働きやすい環境が整っていくといいです。(40代、女性)

#### ◎ケアラーのメンタルケアについて

■介護等している時は相手に心配かけたくないのでとにかく元気でいなければならない。体調が悪くても無理せざるを得ないが、今は未だサービスを受けるほどではないと自分では思う。(50代、女性)

■娘をケアしていると当たり前、当然と思われること(どうしようもなく落ち込む時に全く分かってもらえないこと。自分の子供なのだからケアするのは当たり前と思われる)。(60代、女性)

■1人の介護が終わってもまた次がある。私自身、母の介護を務め終え、次は義母、夫と続くのだろうと思う。現在は、ケアの悩みは少ないが、今後は分からない。求める支援がケアラーへの支援体制として整っていると安心出来る。介護の社会化が進んでも心理的障害が低くならないと助けにならないかもしれない。(50代、女性)

#### ◎その他

■家族以外の人に相談が出来ない。本人(母)が嫌がるのでなかなか出来ない。心を許して話せる人がいない。(20代、女性)

■孤立しないように近隣の方が声掛けしてくれるが、身近な方へ何かを頼むということが苦手である。どうしても迷惑をかけるからであり、行政に頼るが、書類が複雑であり理解が難しい。(未記入、女性)

■家以外で過ごせる場所がもう少し増えると良い。(70代、女性)

## (2) 新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと

※主なもののみ、編集して記載

### ア) 高齢者の回答

#### ◎行動制限

- 面会が出来ない。(70代、男性)
- 外出の機会が少なくなった。(20代、女性)
- 活動の制限。(未記入、女性)

#### ◎自宅でのケアが増え、負担が増加

- 遠くにいる兄弟が来てくれる回数は減り、負担は大きくなった。(未記入、女性)
- 入所中の面会や一時帰宅が出来なくなったことでストレスがたまり、身体的にも精神的にもケアラーの負担が増えた(病院に連れて行くなど)。ストレスから高齢者も障害者も生活リズムが崩れ対応が大変になった。外出出来ないことでケアラーに電話してくる回数が急増し、対応するために仕事に支障がでた。(50代、女性)

#### ◎身体的、精神的な状況の悪化

- 新型コロナウイルスの影響により、外出の機会が減ったことで体を動かす機会も減り、身体能力の低下が見られ始めている。今まで出来ていたことが出来なくなったことで精神面でも落ち込んでいる様子が見られている。(70代、男性)
- 入院中、面会が出来ず直接話すことが出来なかったため、本人が精神的に落ち込み、不安定になった。(60代、女性)

#### ◎孤立などでストレスの増加

- 義母が施設入所中の義父に面会できず寂しい思いをしている。(40代、女性)
- 高齢なので、かかってはいけないので外出は減り、あまり他人と関わらなくなった。(80歳以上、男性)
- 介護とコロナ、ダブルパンチでした。孤立感があります。本当に困った時にはケアマネさんに相談すれば物理的なことは助けていただける点はいいい世の中になったとありがたく思います。思いを聞いていただけることも有難いです。(70代、女性)

#### ◎サービス等の利用制限

- 以前通所サービスを受けていた時、発熱しコロナの疑いありとのことで2週間くらい通所サービスがストップし非常に困ったことがありました。(60代、女性)

#### ◎ワクチンやマスクの取り扱い

- 在宅介護を受けている人への訪問ワクチン接種があると良かった。町内病院医にあたったが、それは実現しなかった(訪問医が実施出来れば良かったのかもしれない)。(60代、女性)

- 認知症のせいでマスクをつけることが理解出来ない。そのノーマスクで近所の目が気になる。(60代、女性)

イ) 障害者の回答

◎ 自宅でのケアが増え、負担が増加

- 濃厚接触者が出る等で、通所施設が休みになってしまうと、急に自分の仕事を休んで家で見守りをしないといけなかった。(50代、女性)
- 短期入所先がなくなった。熱が出るたびに PCR 検査をする必要があった。(50代、女性)
- 短期入所等、施設の受入自粛により利用出来ないことがあり、自宅での介護が増えた。(70代、男性)
- 学校、保育園が休みになってしまうこと。(30代、男性)
- 利用の制限（やむを得ないのですが）は、本人の納得と介護者の負担の面で厳しいものがあります（ショートステイなど）。(未記入、女性)

◎ 身体的、精神的な状況の悪化

- 入居施設から外出した際、1週間在宅待機期間を設けなければならず、その期間に元の生活に戻れないことに対する不安から認知症が進んでしまった。仕方ないことではあるが、体力と環境を考えた上での計画でありながらももう一つコロナの状況も配慮しなければならないことは大変であった。(60代、女性)
- 家にいる時間が長かったので体重の増加と運動不足、食料の買い物が大変だった。体を動かすのを嫌がるようになってきて家を出ることがなくなった。(70代、女性)
- 入所しているので帰宅が困難になり本人のストレスが溜まってしまった。(60代、女性)
- 幸い感染することなく過ごせておりますが、家族が1人でも感染した場合のことを考えるととても不安です。近隣に頼れる知人や親せきがおらずどこに助けを求めることが出来るのか。助けを必要としている者に届く発信を希望したい。(60代、女性)
- 感染不安の為、抑うつ的な気持ちが続き、家に引きこもる日が続いてしまいどうしようもなかった。服薬量が増え、体重増加してしまった。ストレス耐性低く、社会不安から簡単に気持ちが落ち込む。(50代、女性)
- ケアを受けている人の行き場がなくなり、家庭内がストレス発散場と化していて、家族関係がギクシャクしています。ケアを受けている側もケアラー側も共に大変苦しいです。(60代、女性)

◎ 孤立などでストレスの増加

- 入所している息子がもう一人いるが全く会えない。帰省できるのを楽しみにしている息子が気の毒ではないが仕方ないと思う。通所している息子と同じ施設に体の弱い子もいて感染させてしまわないか本人がかかるより心配した。コロナで他の人と会う機会がほとんどなく、外出も少なく会話が減っているのでストレスがたまり、そのはけ口が自分（私）で受けとめるのが大変。休日はなるべく散歩に付き合うが、体がきついこともある。(50代、女性)

- 新しい事業所やサービス利用を考えても、見学等が難しく行動に至れずにいます。また、人との関わりが減少し情報も減った。(未記入、女性)
- 人とのコミュニケーションが取りづらくなった。特に地方への外出が出来なくなり、直接病院へ行けなくなった。(60代、女性)
- 対面での面談や参観が少なくなり、様子を直接見て伺うことが減ったこと。(30代、女性)

#### ◎ワクチンやマスクの取り扱い

- マスクを付けないと外を出歩けないので、マスクを付けられない息子は人が多い所に行けない。(40代、女性)
- 次男は、よだれが多く、マスクをしてもすぐに濡れてしまうので、タオルを巻いていますが、場所によっては、入店入室を断られてしまうことがありました。(未記入、男性)
- 行動障害のある障害者はワクチン接種会場で暴れたりして受ける事が出来なかった友人も多い。障害者に配慮した専用の場を設けていただきたい。コロナで市役所などの相談にも行けなかったのが気軽に分かるアプリのようなものがほしい。(50代、女性)
- 万が一、家族が感染した際、本人をどう隔離したらよいのか。本人はワクチンを打てないのでもし感染したらと思うと不安。(40代、女性)

#### ◎サービス等の利用制限

- 急に学校が休みになり、自閉症の子供の生活リズムが乱れた。登校できるようになっても、急な生活の変化に対応出来ない。休校中、放課後デイサービスは子供を預かってくれるところもあったが、親が就労していないなど家にいられるならなるべく家で、と言われた。(50代、女性)
- 37.5度の熱でデイサービスを利用出来ない日がある。(40代、女性)
- 通所サービスがコロナで休所してしまった時は大変でした。(50代、男性)

#### ◎緊急時の支援

- 今回、緊急事態は起こらなかったのですが、家で何とか対応出来たが、ケアラーが体調を崩した場合、施設も病院も利用出来ず本人を支援できていたか考えると怖い。(60代、女性)
- 災害弱者も安心して避難できる支援をもっと考える必要があると思うし、情報を発信してほしい。(未記入、女性)

#### ◎ケアによる離職

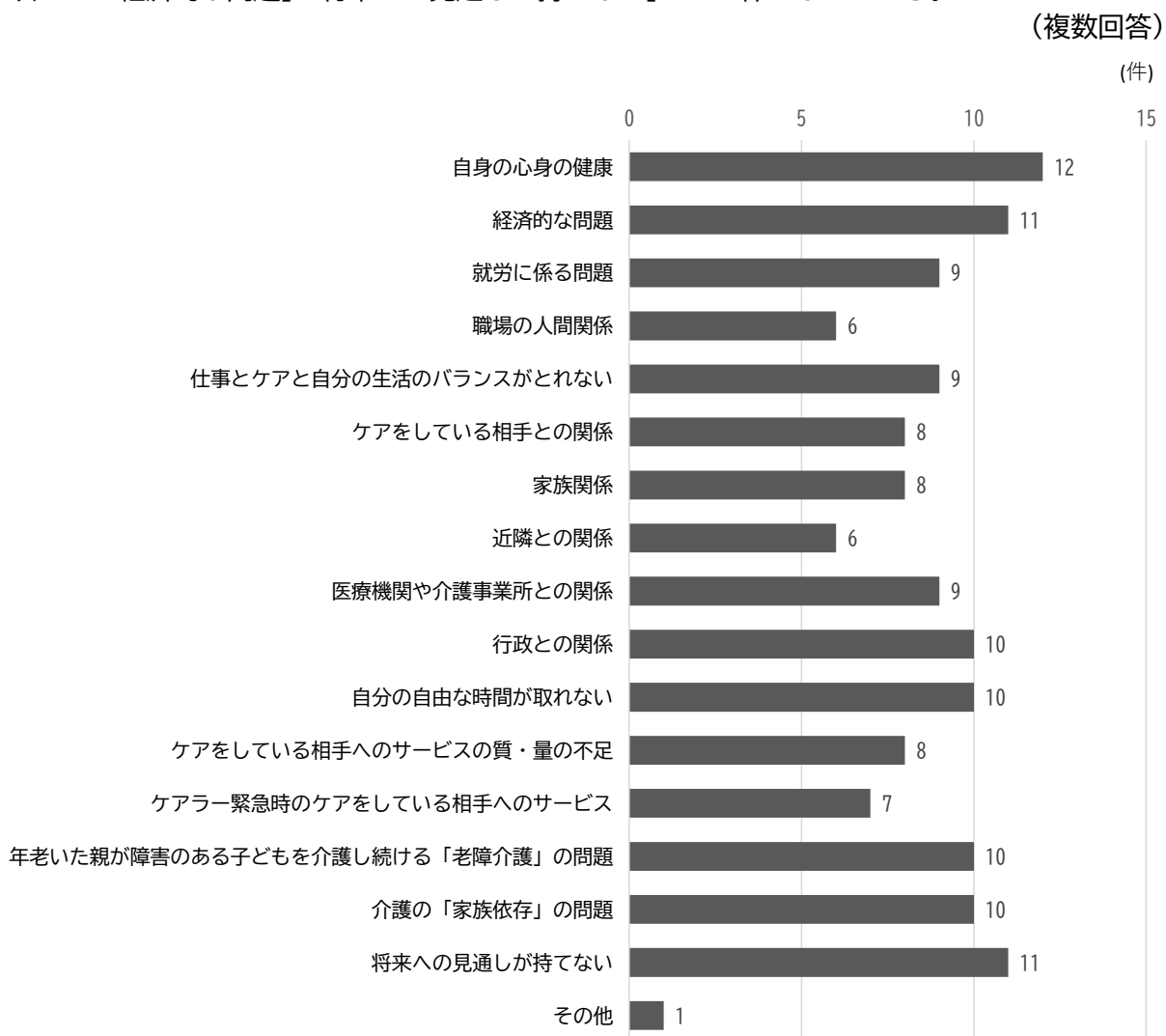
- 高齢の母親が入院したことがきっかけになり、どのような状態で退院してくるのか不透明だったので仕事も退職しました。現在復職を考えていますが、通所している2人を抱えての仕事復帰もコロナの影響を思うとなかなか勇気が要るところです。(40代、女性)

## 2. ケアラー当事者団体調査

### 1) 会員のケアの状況について

#### (1) 会員のケアラーとしての悩み

会員のケアラーとしての悩みについては、「自身の心身の健康」が12件で最も多く、次いで「経済的な問題」「将来への見通しが持てない」が11件となっている。

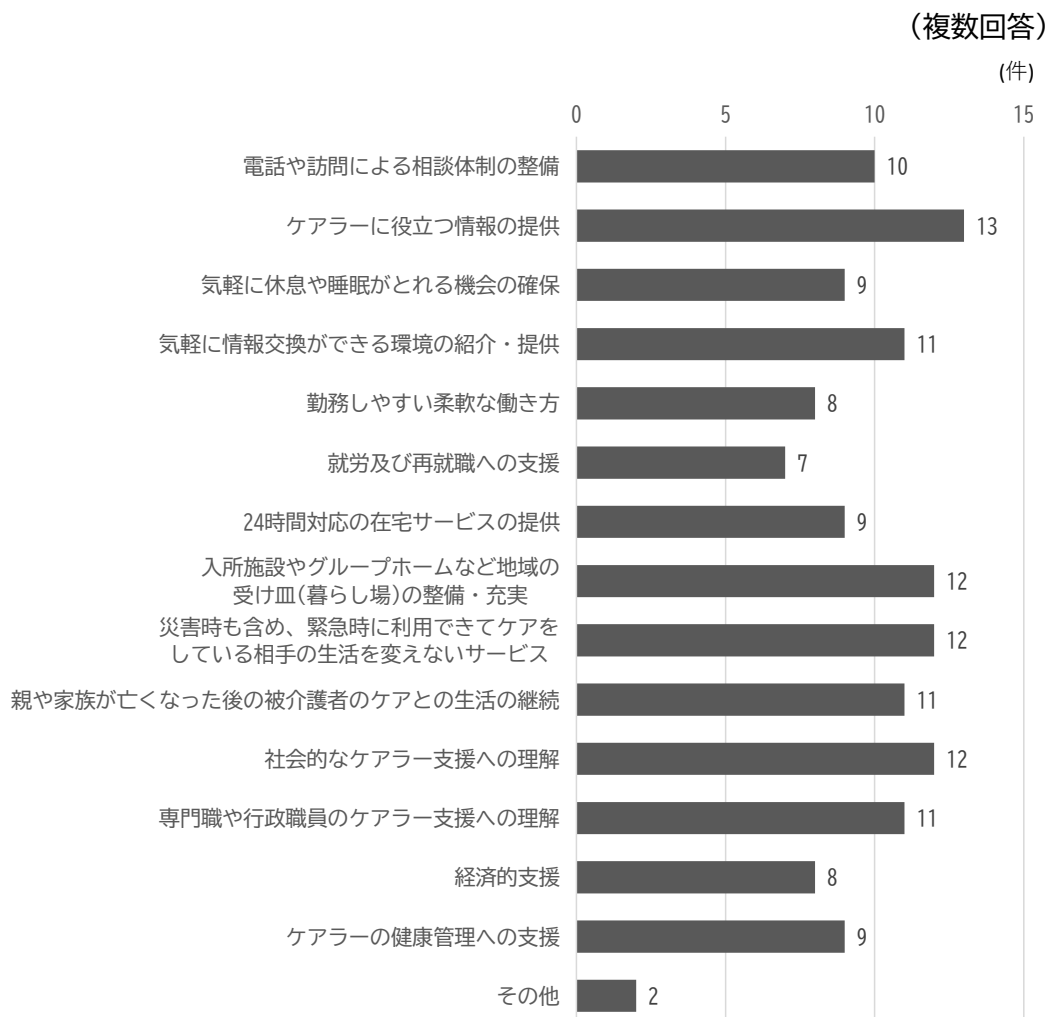


n=13

※調査対象が少ないため、件数で表記

(2) ケアラーに求められる(必要と思われる)支援

ケアラーに求められる支援については、「ケアラーに役立つ情報の提供」が13件で最も多く、次いで「入所施設やグループホームなど地域の受け皿(暮らし場)の整備・充実」「災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス」「社会的ケアラー支援への理解」が12件となっている。



n=13

※調査対象が少ないため、件数で表記

(3) 新型コロナウイルス感染症対策により特に困ったこと

※主なもののみ、編集して記載

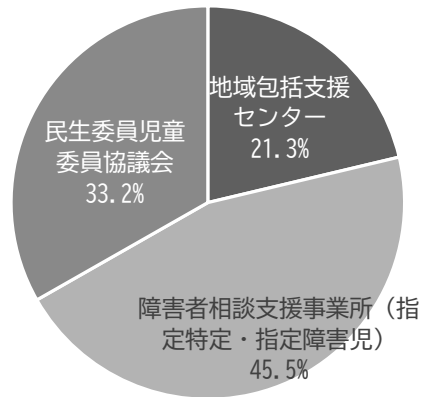
- 施設や病院の面会禁止などにより、孤立や認知症本人の心身の衰え、家族の「介護負担の増大」という深刻な影響があったこと。
- 急な休校（分散登校）、通所事業所の休業等で仕事を急遽休まざるをえなくなり、予定の変更を強いられたこと。
- 自閉症でこだわりが強く毎日や一週間、一年の行事も決まっているような生活を送って、それによって本人の気持ちが落ち着いていたが、新型コロナのためにたくさんの行事が中止となりストレスが大きい。
- ケアラー自身がうつらないかが不安であったこと。ケアラーが感染した際の介護・介助の代わる人がいないこと。
- 学校がコロナで休校になった時、日中一時支援事業所に預けられず、親が交代で仕事を休まざるを得なかったこと。
- 本人が陽性になった場合は、その障害特性から入院はとても難しい。また、家庭内でも、本人だけを隔離して生活するのは困難。
- 障害者の通所施設内でコロナが出てしまうと、施設に通うことができなくなってしまう。家にいるためにはケアが必要となるため、家族が仕事を休み、ヘルパーを依頼しなければいけない。

## 3. ケアラー支援機関調査

## 1) 支援機関の種別

## (1) 回答者の支援機関別

回答者の支援機関別については、「障害者相談支援事業所（指定特定・指定障害児）」が45.5%、「民生委員児童委員協議会」が33.2%、「地域包括支援センター」が21.3%となっている。



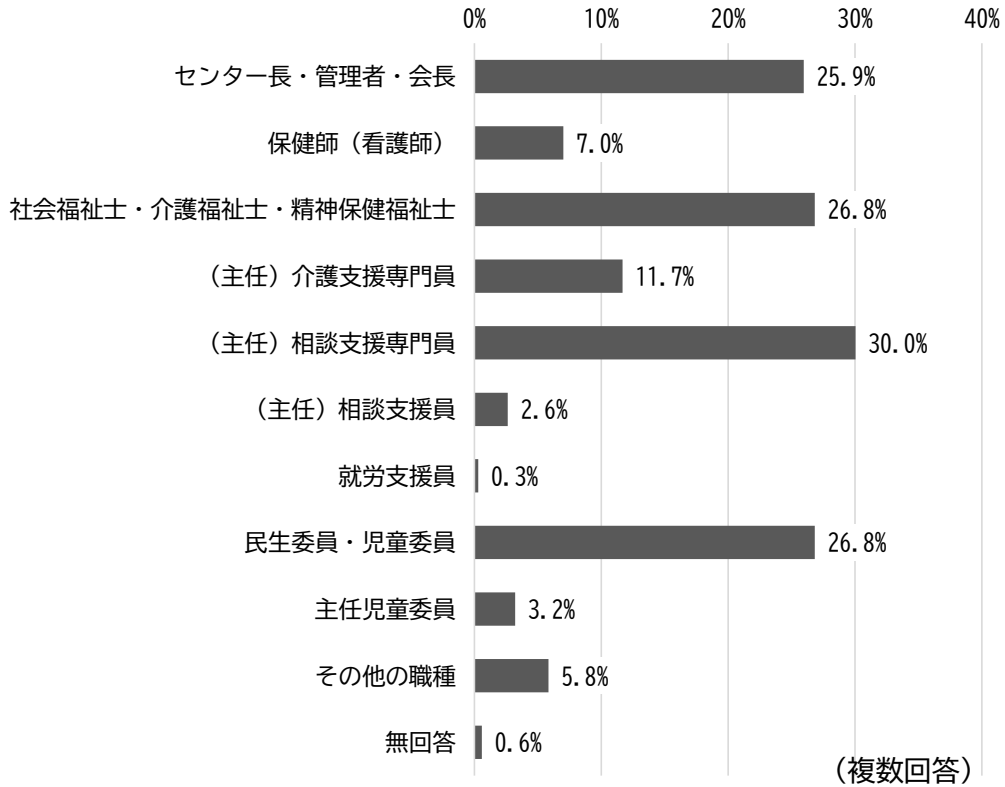
項目	回答数	割合
地域包括支援センター	73	21.3%
障害者相談支援事業所（指定特定・指定障害児）	156	45.5%
民生委員児童委員協議会	114	33.2%
合計	343	100.0%



(2) 回答者の職種

回答者の職種については、「(主任) 相談支援専門員」が 30.0%、「社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士」と「民生委員・児童委員」がともに 26.8%となっている。

(複数回答)



(複数回答)

項目	回答数	割合
センター長・管理者・会長	89	25.9%
保健師(看護師)	24	7.0%
社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士	92	26.8%
(主任) 介護支援専門員	40	11.7%
(主任) 相談支援専門員	103	30.0%
(主任) 相談支援員	9	2.6%
就労支援員	1	0.3%
民生委員・児童委員	92	26.8%
主任児童委員	11	3.2%
その他の職種	20	5.8%
無回答	2	0.6%
回答者数	343	-

【その他の職種】

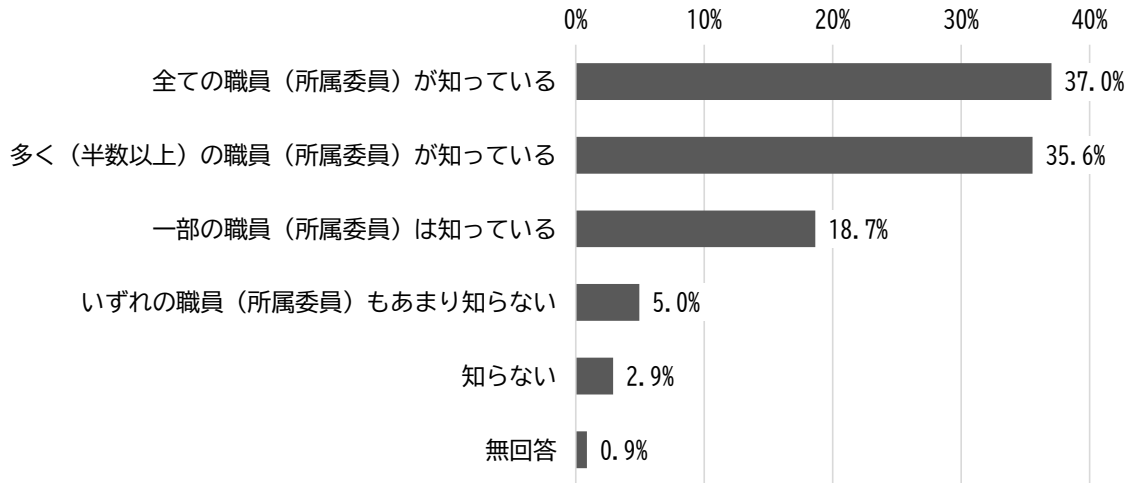
民生委員児童委員協議会事務局	13	件
公認心理師	1	件
児童指導員	1	件
認知症地域支援推進員	1	件
副施設長	1	件

2) ケアラー・ヤングケアラーの認知度

(1) ケアラー・ヤングケアラーの認知度

① ケアラーの概念

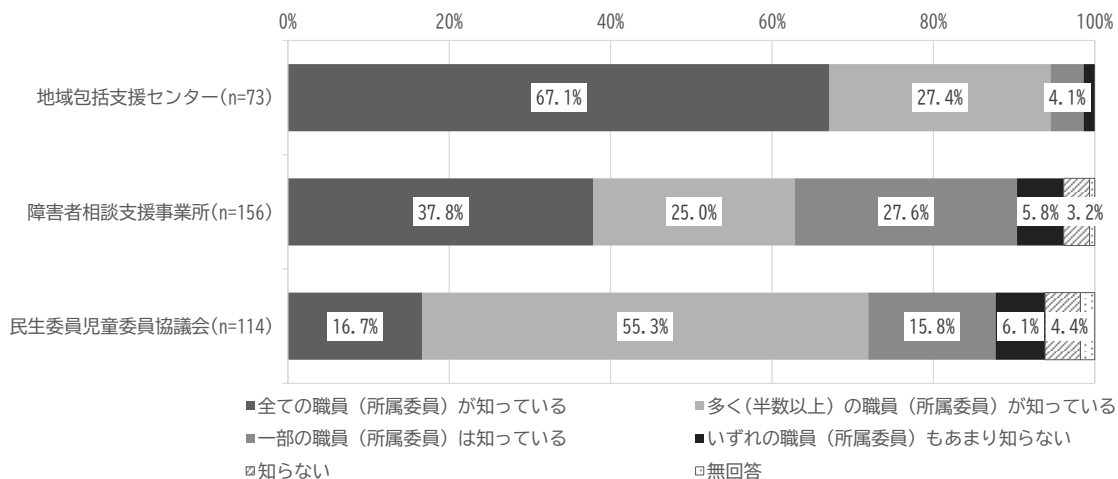
ケアラーの概念については、「全ての職員（所属委員）が知っている」が 37.0%で最も高く、次いで「多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている」が 35.6%、「一部の職員（所属委員）は知っている」が 18.7%となっている。



項目	回答数	割合
全ての職員（所属委員）が知っている	127	37.0%
多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている	122	35.6%
一部の職員（所属委員）は知っている	64	18.7%
いずれの職員（所属委員）もあまり知らない	17	5.0%
知らない	10	2.9%
無回答	3	0.9%
合計	343	100.0%

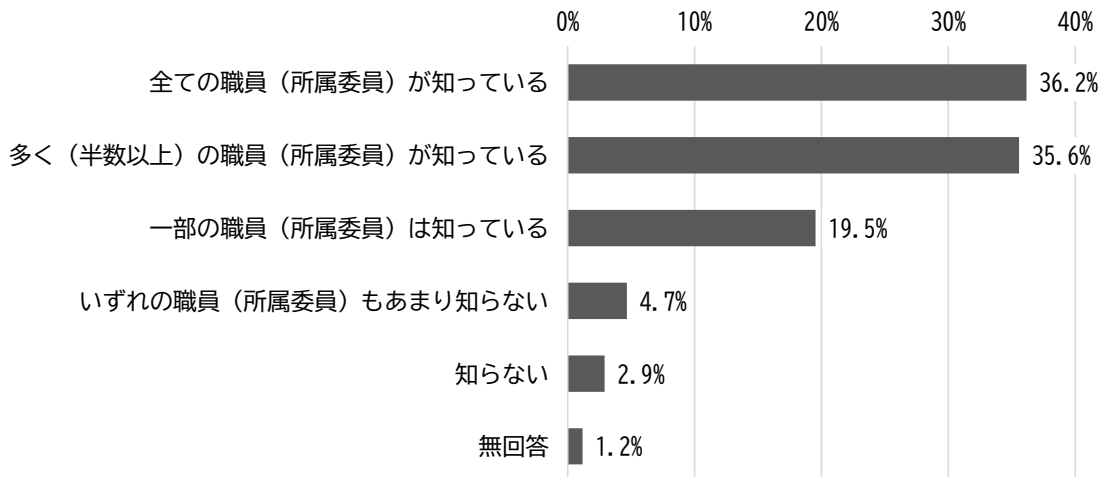
【支援機関別集計】

地域包括支援センターでは「全ての職員（所属委員）が知っている」が 67.1%、民生委員児童委員協議会では「全ての職員（所属委員）が知っている」は 16.7%であるが、「多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている」が 55.3%と5割を超えている。



② ヤングケアラーの概念

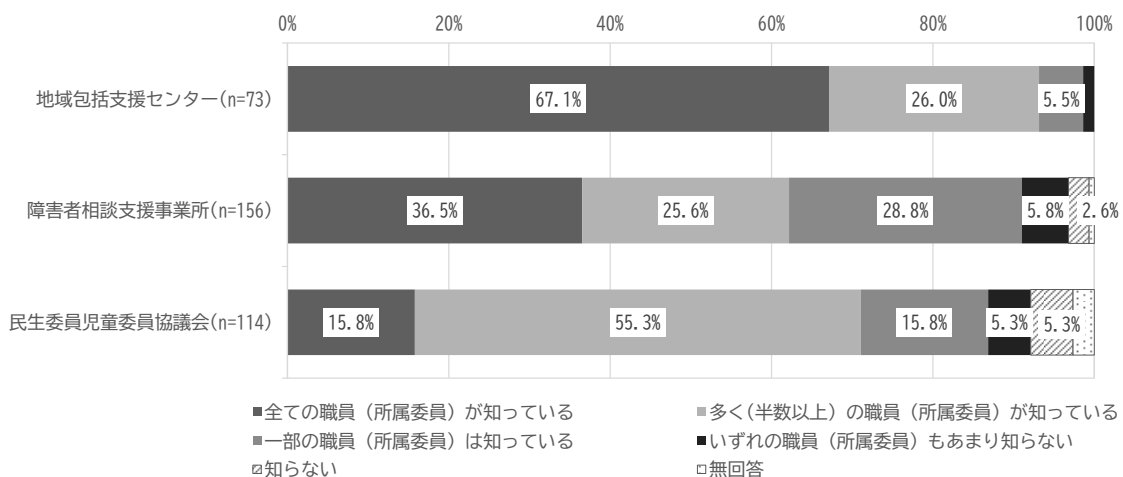
ヤングケアラーの概念については、「全ての職員（所属委員）が知っている」が36.2%で最も高く、次いで「多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている」が35.6%、「一部の職員（所属委員）は知っている」が19.5%となっている。



項目	回答数	割合
全ての職員（所属委員）が知っている	124	36.2%
多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている	122	35.6%
一部の職員（所属委員）は知っている	67	19.5%
いずれの職員（所属委員）もあまり知らない	16	4.7%
知らない	10	2.9%
無回答	4	1.2%
合計	343	100.0%

【支援機関別集計】

ケアラーの概念と同様に、地域包括支援センターでは「全ての職員（所属委員）が知っている」が67.1%、民生委員児童委員協議会では「全ての職員（所属委員）が知っている」は15.0%であるが、「多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている」が55.3%と5割を超えている。

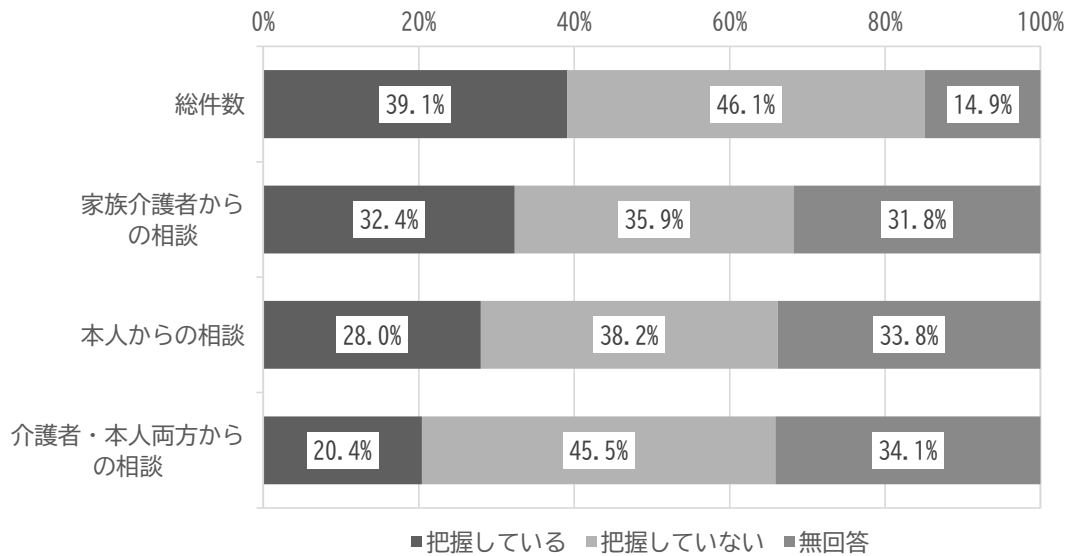


3) ケアラーについて

(1) 令和3年度にケアラーなどから受けた相談件数

①相談件数の把握

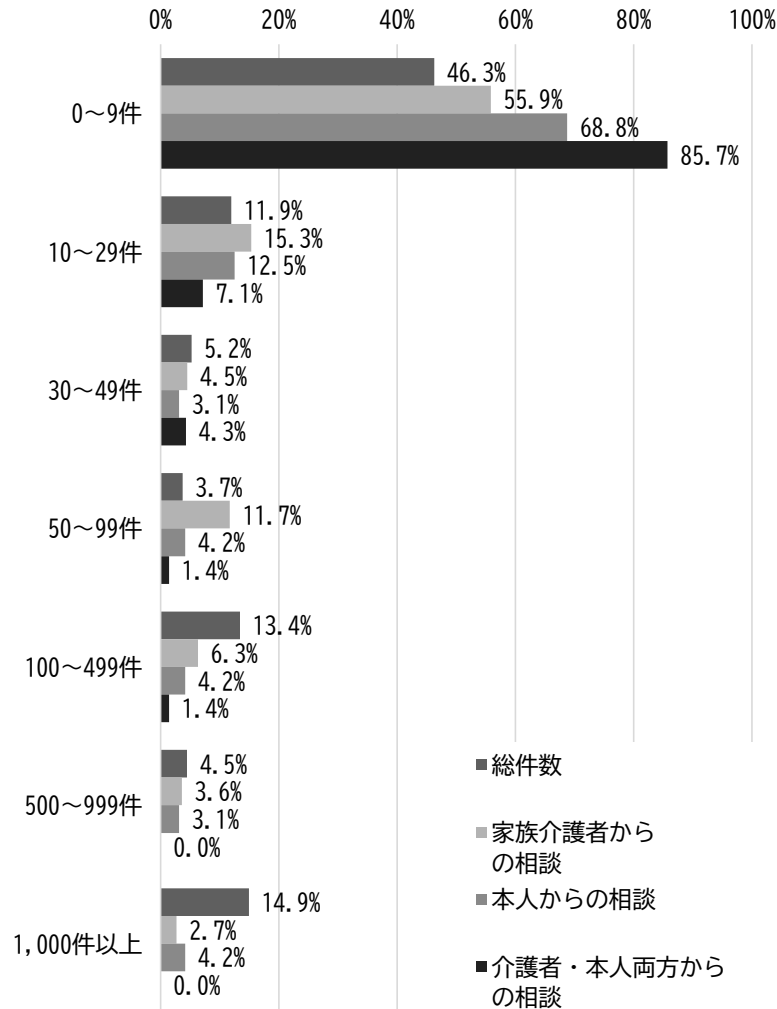
相談件数の把握については、「把握している」が「総件数」では 39.1%であるが、「家族介護者からの相談」では 32.4%、「本人からの相談」では 28.0%、「両方からの相談」では 20.4%となっている。



項目	総件数		家族介護者からの相談		本人からの相談		介護者・本人両方からの相談	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
把握している	134	39.1%	111	32.4%	96	28.0%	70	20.4%
把握していない	158	46.1%	123	35.9%	131	38.2%	156	45.5%
無回答	51	14.9%	109	31.8%	116	33.8%	117	34.1%
合計	343	100.0%	343	100.0%	343	100.0%	343	100.0%

② 相談件数

相談件数については、「総件数」は「0～9件」が46.3%、「1,000件以上」が14.9%となっている。また、「0～9件」が「家族介護者からの相談」は55.9%、「本人からの相談」は68.8%、「両方からの相談」は85.7%となっている。



項目	総件数		家族介護者からの相談		本人からの相談		介護者・本人両方からの相談	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
0～9件	62	46.3%	62	55.9%	66	68.8%	60	85.7%
10～29件	16	11.9%	17	15.3%	12	12.5%	5	7.1%
30～49件	7	5.2%	5	4.5%	3	3.1%	3	4.3%
50～99件	5	3.7%	13	11.7%	4	4.2%	1	1.4%
100～499件	18	13.4%	7	6.3%	4	4.2%	1	1.4%
500～999件	6	4.5%	4	3.6%	3	3.1%	0	0.0%
1,000件以上	20	14.9%	3	2.7%	4	4.2%	0	0.0%
計	134	100.0%	111	100.0%	96	100.0%	70	100.0%

II 調査結果

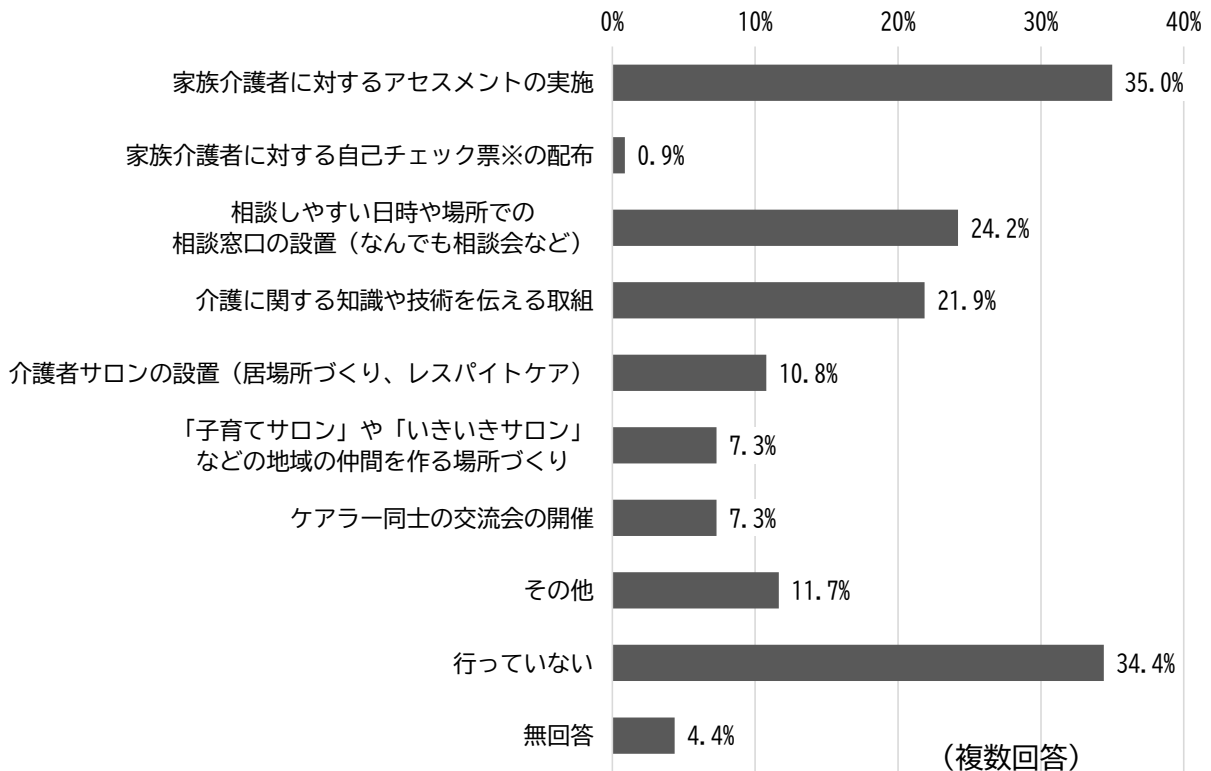
3. ケアラー支援機関調査

(2) ケアが必要な人をサービスにつなげる以外に行っているケアラー本人への直接的な支援

ケアが必要な人をサービスにつなげる以外に行っているケアラー本人への直接的な支援については、「家族介護者に対するアセスメントの実施」が 35.0%で最も高く、次いで「相談しやすい日時や場所での相談窓口の設置（なんでも相談会など）」が 24.2%、「介護に関する知識や技術を伝える取組」が 21.9%となっている。

また「行っていない」が 34.4%となっている。

(複数回答)



項目	回答数	割合
家族介護者に対するアセスメントの実施	120	35.0%
家族介護者に対する自己チェック票※の配布	3	0.9%
相談しやすい日時や場所での相談窓口の設置 (なんでも相談会など)	83	24.2%
介護に関する知識や技術を伝える取組	75	21.9%
介護者サロンの設置 (居場所づくり、レスパイトケア)	37	10.8%
「子育てサロン」や「いきいきサロン」などの地域の仲間を作る場所づくり	25	7.3%
ケアラー同士の交流会の開催	25	7.3%
その他	40	11.7%
行っていない	118	34.4%
無回答	15	4.4%
回答者数	343	-

※自己チェック票: ケアラー本人が、家族のケアをしている自分の体調や気持ち、考え方を、ケアマネジャーなどの相談職員に伝えるためのチェック表(家族介護者支援マニュアル 厚生労働省 平成30年3月)

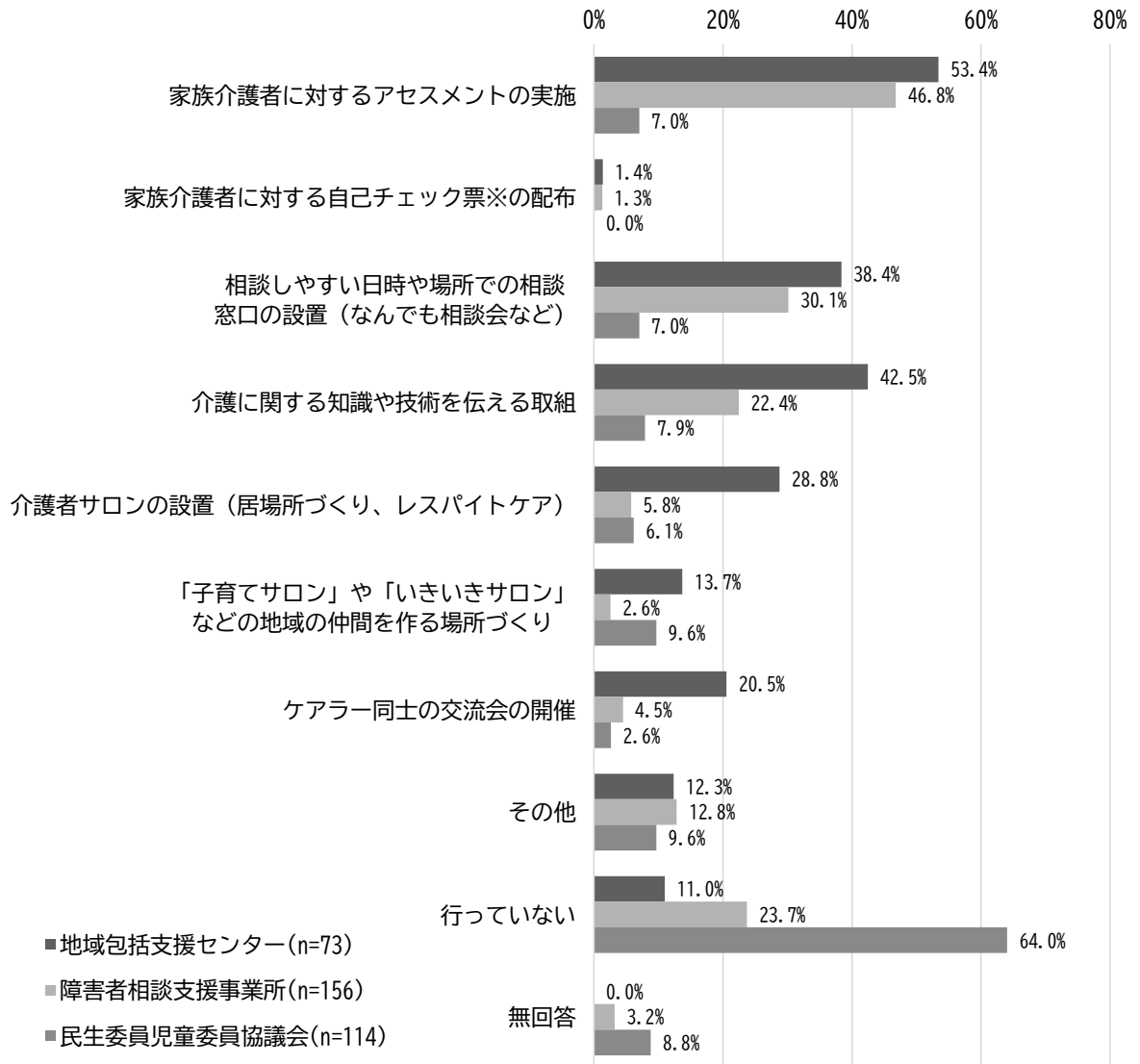
II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

【支援機関別集計】

地域包括支援センター・障害者相談支援事業所では「家族介護者に対するアセスメントの実施」がそれぞれ 53.4%、46.8%と高くなっている。

(複数回答)

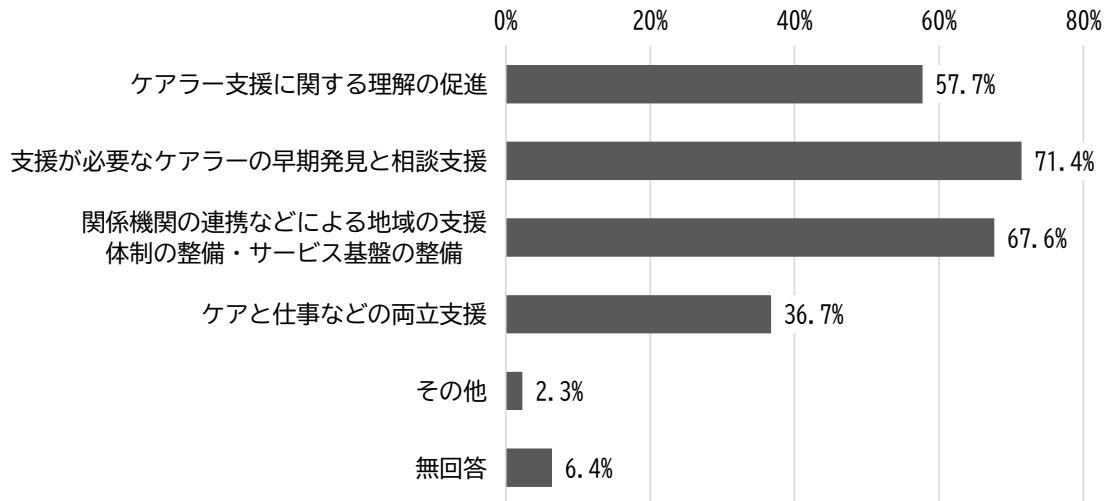


II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(3) 「(2) のケアラー本人への直接的な支援」以外で、ケアラー支援として必要なこと  
 「(2) の直接的な支援」以外で、ケアラー支援として必要なことについては、「支援が  
 必要なケアラーの早期発見と相談支援」が 71.4%で最も高く、次いで「関係機関の連携な  
 どのによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備」が 67.6%、「ケアラー支援に関す  
 る理解の促進」が 57.7%となっている。

(複数回答)



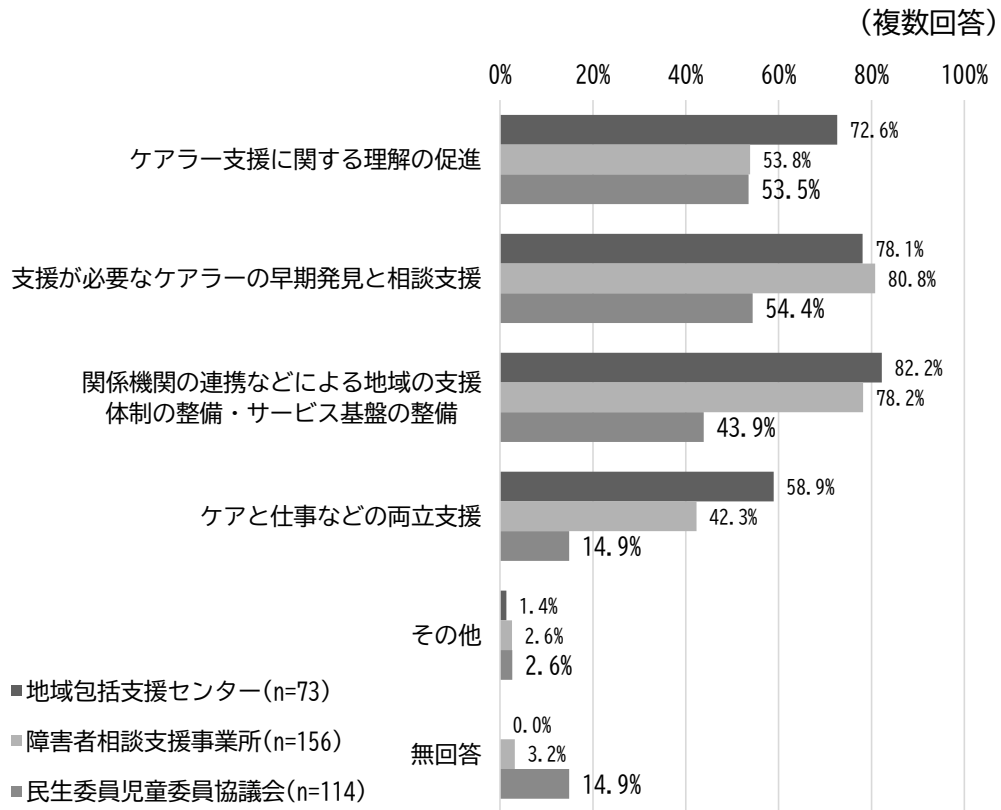
(複数回答)

項目	回答数	割合
ケアラー支援に関する理解の促進	198	57.7%
支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援	245	71.4%
関係機関の連携などによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備	232	67.6%
ケアと仕事などの両立支援	126	36.7%
その他	8	2.3%
無回答	22	6.4%
回答者数	343	-



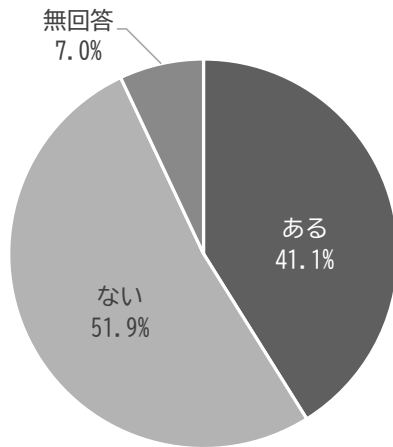
【支援機関別集計】

地域包括支援センターでは「関係機関の連携などによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備」が 82.2%と高く、障害者相談支援事業所と民生委員児童委員協議会では「支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援」がそれぞれ 80.8%、54.4%と高くなっている。



(4) 令和3年度に受けた相談で公的サービスの利用に至らなかった事例

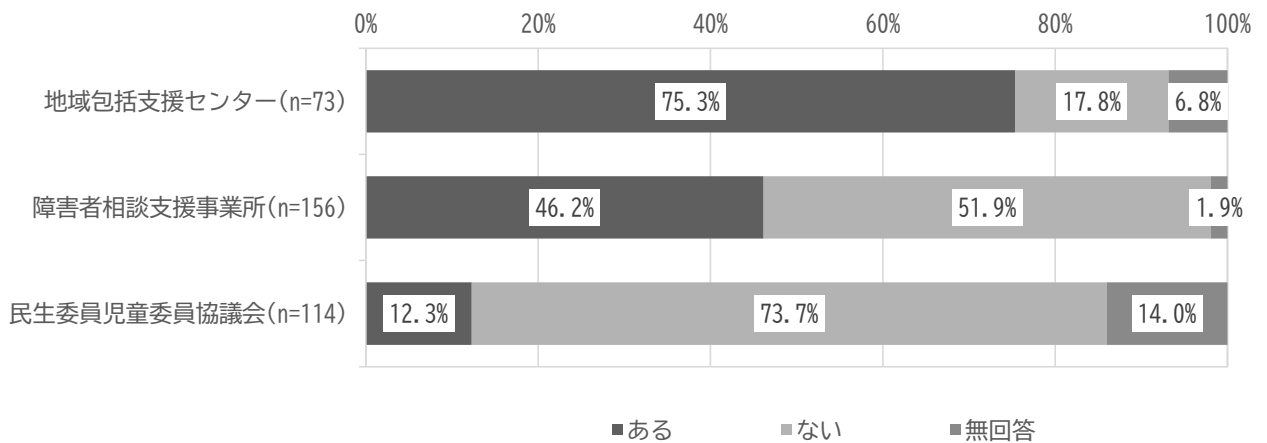
公的サービスの利用に至らなかった事例については、「ある」が41.1%、「ない」が51.9%となっている。



項目	回答数	割合
ある	141	41.1%
ない	178	51.9%
無回答	24	7.0%
合計	343	100.0%

【支援機関別集計】

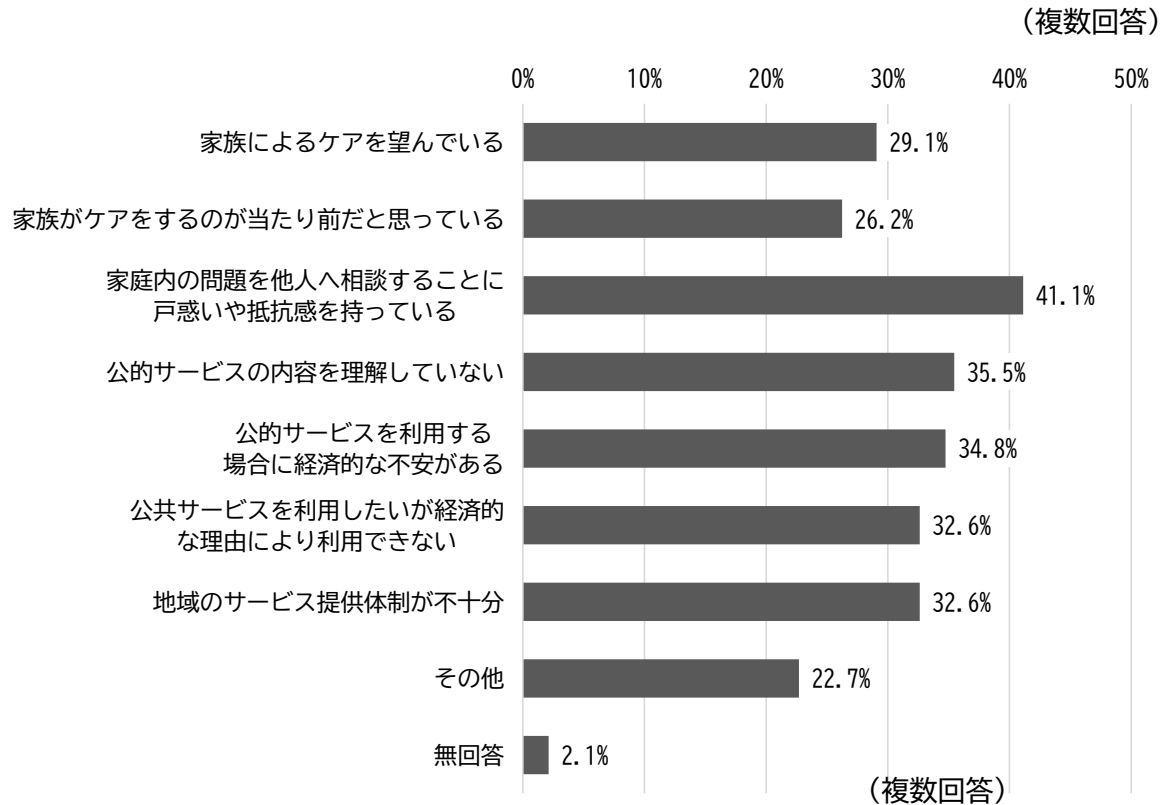
「ある」が地域包括支援センターでは75.3%、障害者相談支援事業所では46.2%、民生委員児童委員協議会では12.3%と支援機関別で差がみられる。



(5) 相談があったにもかかわらず、公的サービスの利用に至らなかった理由

① ケアを必要としている側（被介護者）の理由

公的サービスの利用に至らなかった事例について「ある」と回答した支援機関に、サービスの利用に至らなかった理由について聞いたところ、「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」が41.1%で最も高く、次いで「公的サービスの内容を理解していない」が35.5%、「公的サービスを利用する場合に経済的な不安がある」が34.8%となっている。

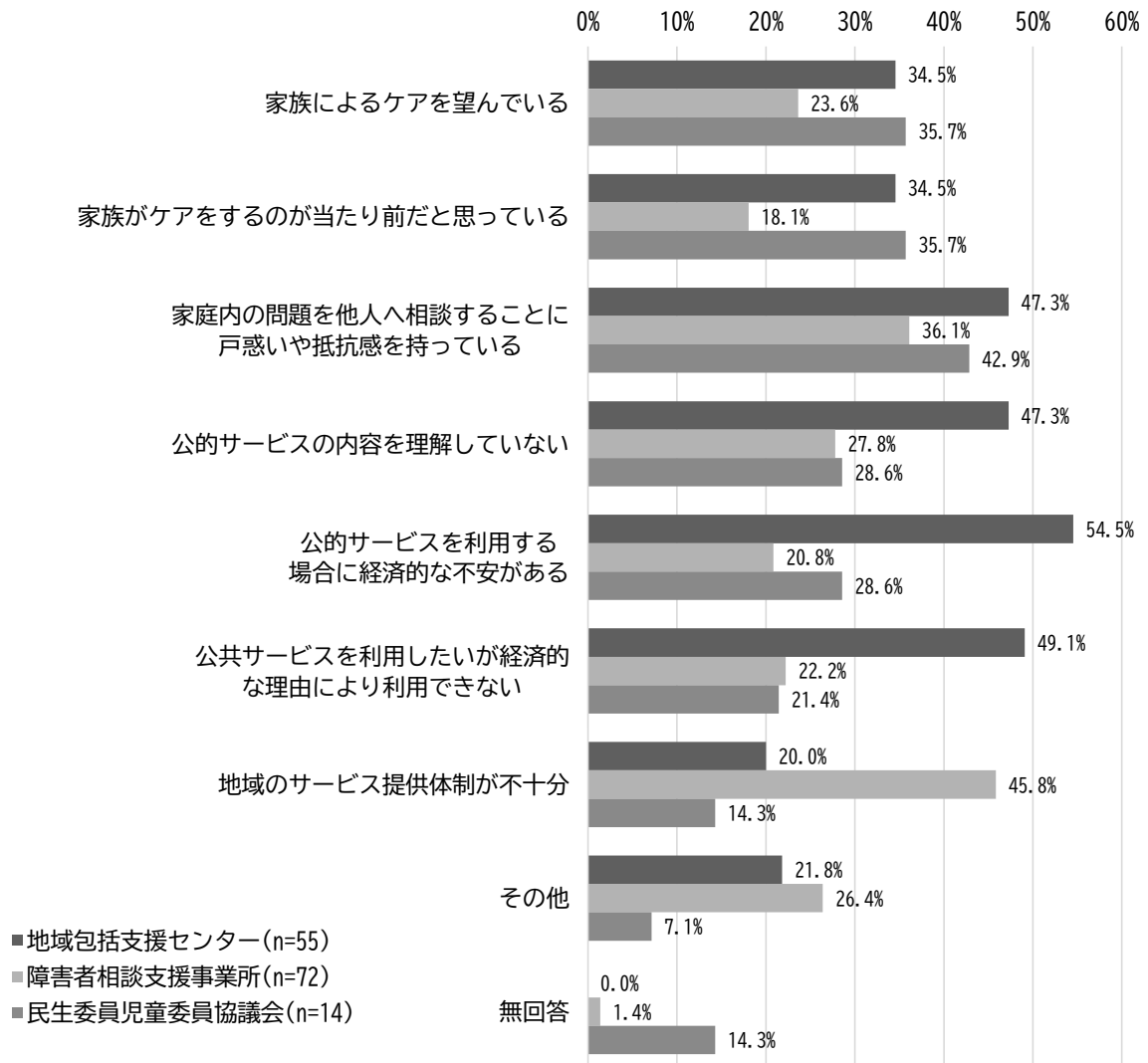


項目	回答数	割合
家族によるケアを望んでいる	41	29.1%
家族がケアをするのが当たり前だと思っている	37	26.2%
家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている	58	41.1%
公的サービスの内容を理解していない	50	35.5%
公的サービスを利用する場合に経済的な不安がある	49	34.8%
公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない	46	32.6%
地域のサービス提供体制が不十分	46	32.6%
その他	32	22.7%
無回答	3	2.1%
回答者数	141	-
非該当	202	-
合計	343	-

【支援機関別集計】

地域包括支援センターでは「公的サービスを利用する場合に経済的な不安がある」が54.5%と半数を超え、障害者相談支援事業所では「地域のサービス提供体制が不十分」が45.8%、民生委員児童委員協議会では「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」が42.9%とそれぞれ高くなっている。

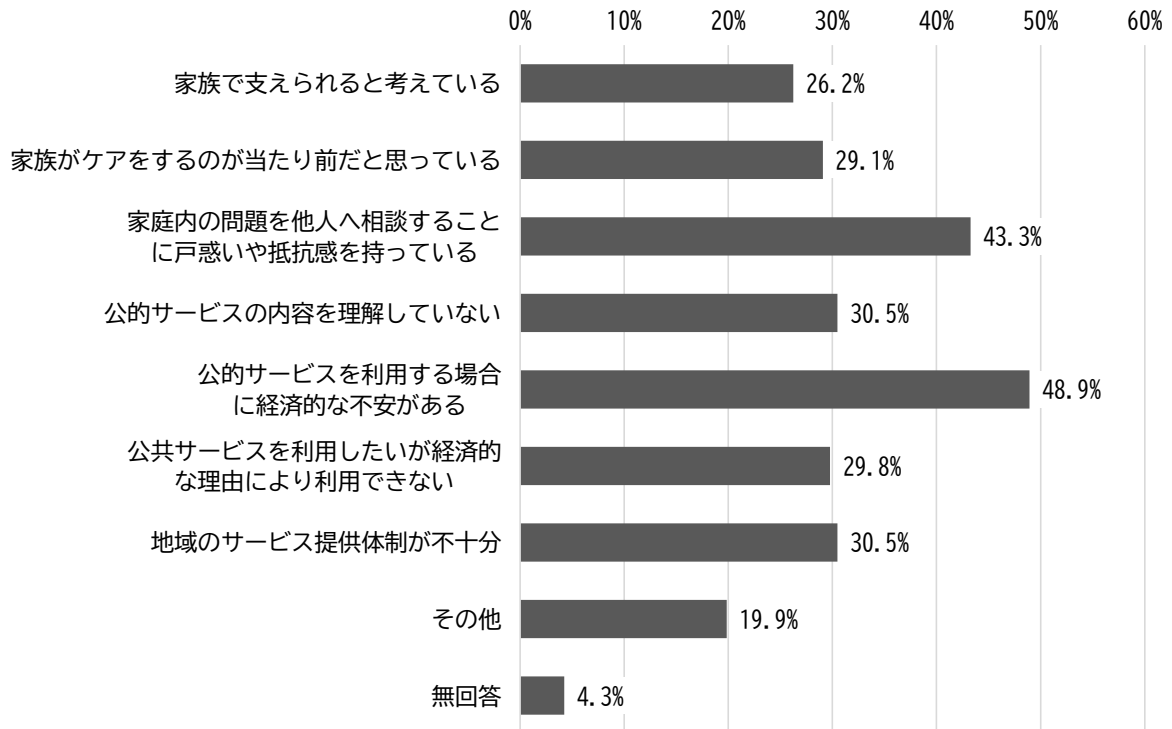
(複数回答)



②ケアをしている側（ケアラー）の理由

公的サービスの利用に至らなかった事例について「ある」と回答した支援機関に、サービスの利用に至らなかった理由について聞いたところ、「公的サービスを利用する場合に経済的な不安がある」が48.9%で最も高く、次いで「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」43.3%、「公的サービスの内容を理解していない」と「地域のサービス提供体制が不十分」がともに30.5%となっている。

(複数回答)

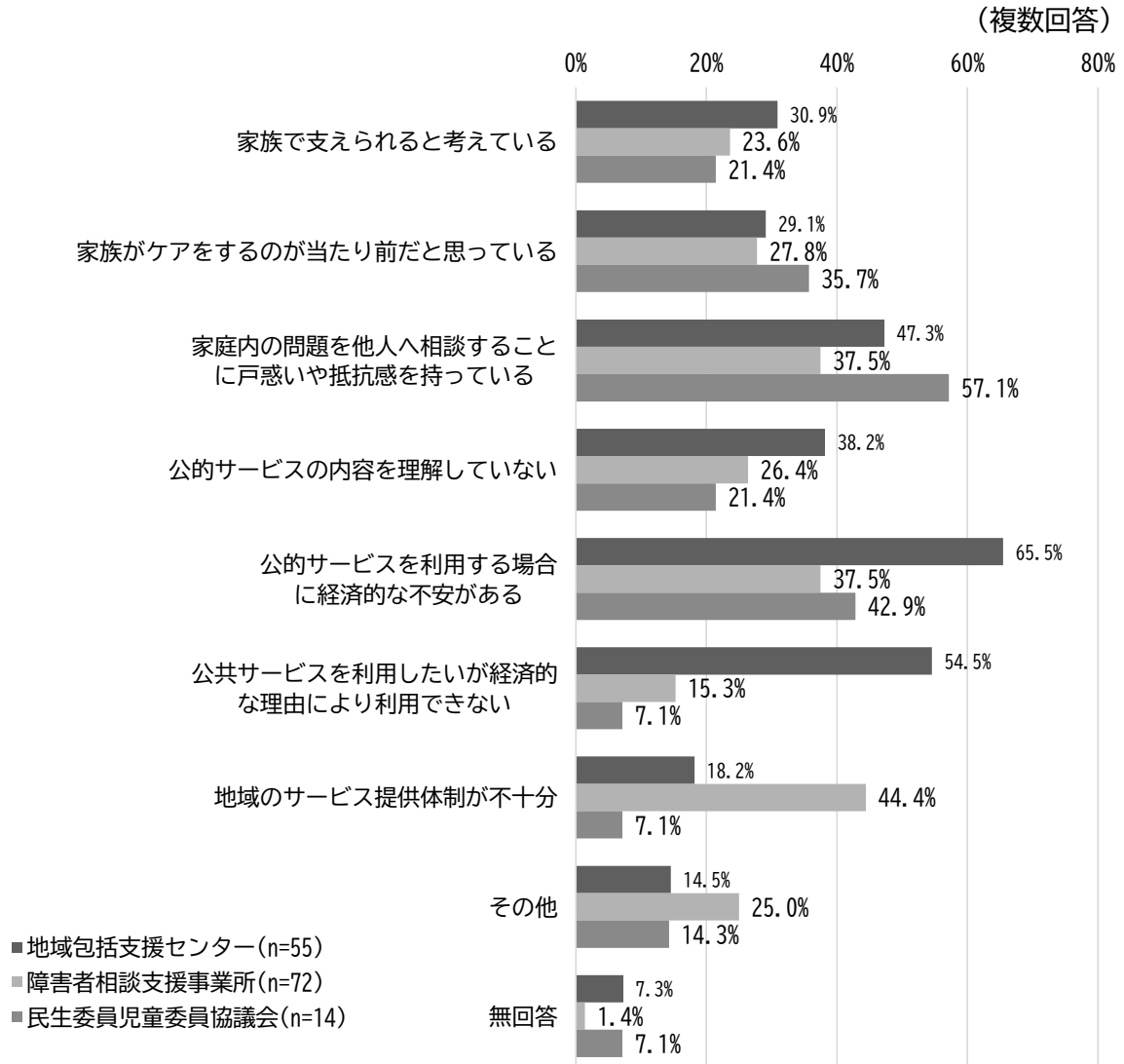


(複数回答)

項目	回答数	割合
家族で支えられると考えている	37	26.2%
家族がケアをするのが当たり前だと思っている	41	29.1%
家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている	61	43.3%
公的サービスの内容を理解していない	43	30.5%
公的サービスを利用する場合に経済的な不安がある	69	48.9%
公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない	42	29.8%
地域のサービス提供体制が不十分	43	30.5%
その他	28	19.9%
無回答	6	4.3%
回答者数	141	-
非該当	202	-
合計	343	-

【支援機関別集計】

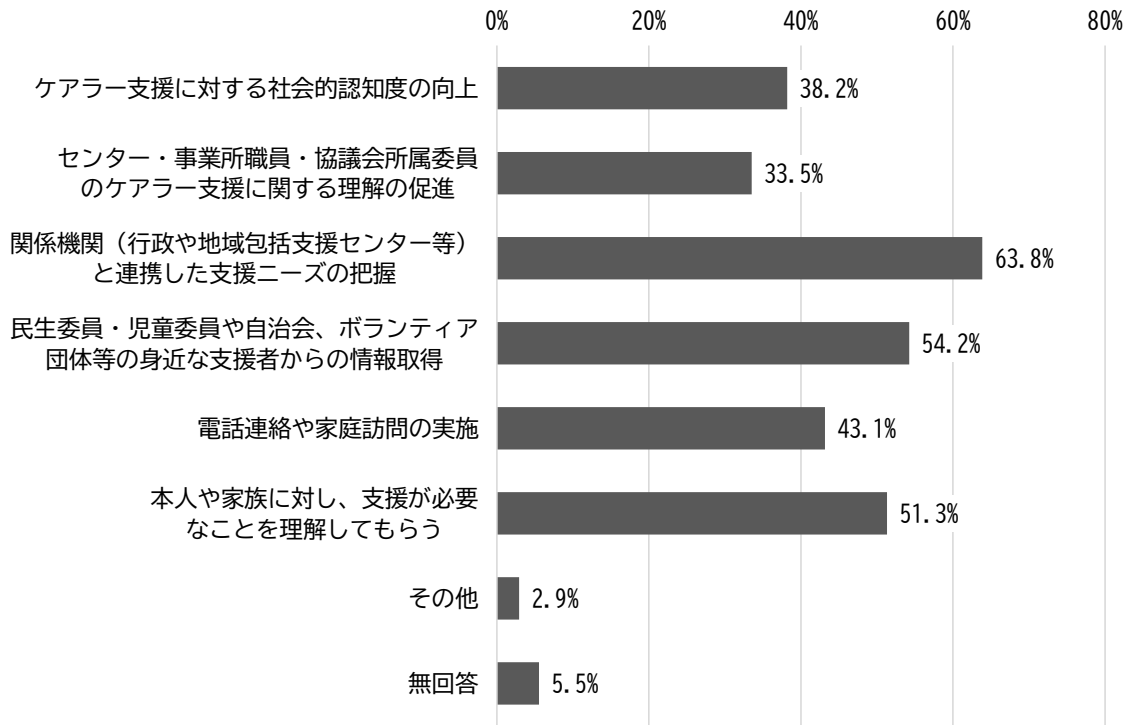
地域包括支援センターでは「公的サービスを利用する場合に経済的な不安がある」が65.5%、障害者相談支援事業所では「地域のサービス提供体制が不十分」が44.4%、民生委員児童委員協議会では「家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている」が57.1%とそれぞれ高くなっている。



(6) 支援がつながりにくい家庭を支援に結びつけるために必要なこと

支援に結びつけるために必要なことについては、「関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握」が 63.8%で最も高く、次いで「民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得」が 54.2%、「本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう」が 51.3%となっている。

(複数回答)

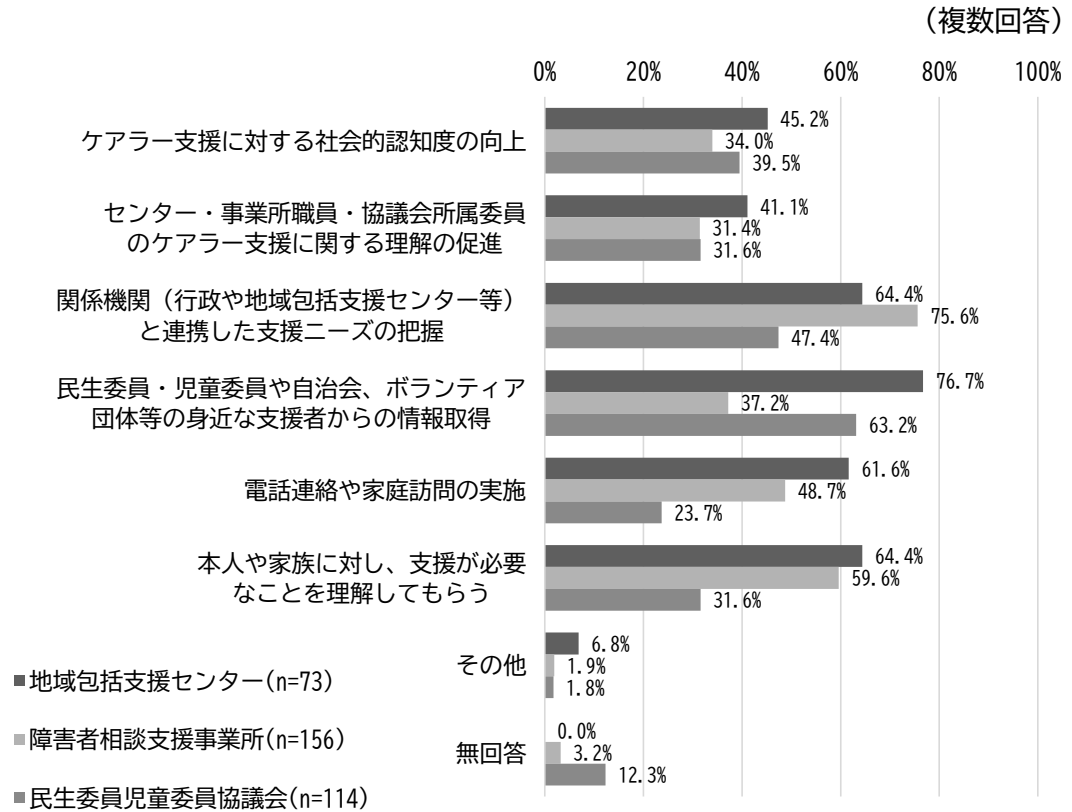


(複数回答)

項目	回答数	割合
ケアラー支援に対する社会的認知度の向上	131	38.2%
センター・事業所職員・協議会所属委員のケアラー支援に関する理解の促進	115	33.5%
関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握	219	63.8%
民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得	186	54.2%
電話連絡や家庭訪問の実施	148	43.1%
本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう	176	51.3%
その他	10	2.9%
無回答	19	5.5%
回答者数	343	-

【支援機関別集計】

地域包括支援センターでは「民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得」が76.7%、障害者相談支援事業所では「関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握」が75.6%、民生委員児童委員協議会では「民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得」が63.2%とそれぞれ高くなっている。

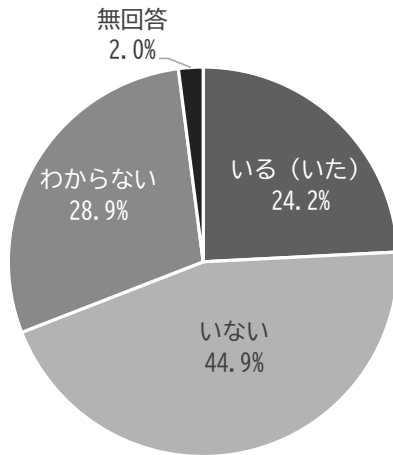




4) ヤングケアラーについて

(1-1) 関わっている（過去に関わった）家庭の中で、ヤングケアラーではないかを感じる子ども・若者の有無

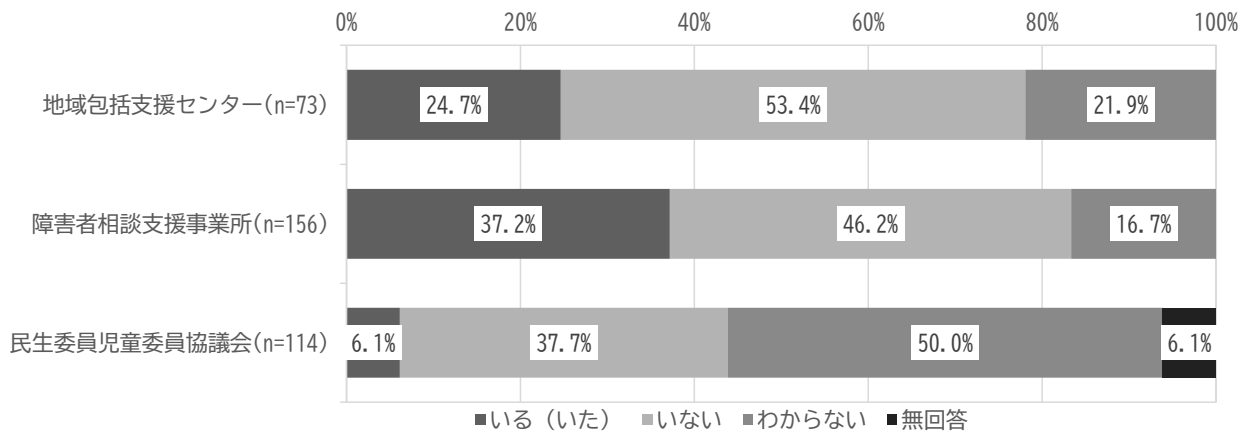
ヤングケアラーではないかを感じる子ども・若者の有無については、「いる（いた）」が24.2%、「いない」が44.9%、「わからない」が28.9%となっている。



項目	回答数	割合
いる（いた）」	83	24.2%
いない	154	44.9%
わからない	99	28.9%
無回答	7	2.0%
合計	343	100.0%

【支援機関別集計】

「いる（いた）」が、地域包括支援センターでは24.7%、障害者相談支援事業所では37.2%、民生委員児童委員協議会では6.1%となっている。

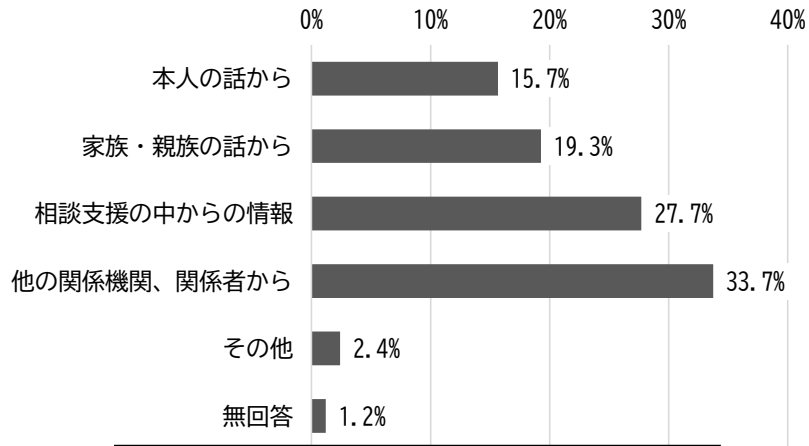


## II 調査結果

### 3. ケアラー支援機関調査

#### (1-2) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者を知ったきっかけ

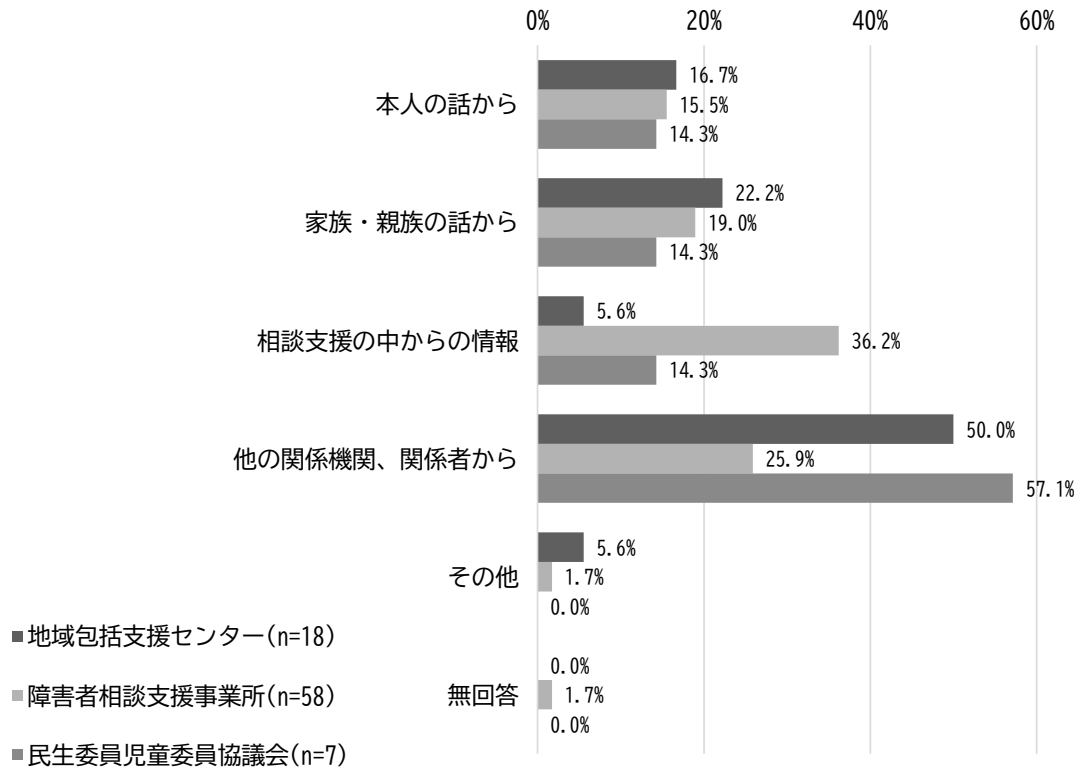
ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の有無について「いる(いた)」と回答した支援機関に、知ったきっかけについて聞いたところ、「他の関係機関、関係者から」が33.7%で最も高く、次いで「相談支援の中からの情報」が27.7%、「家族・親族の話から」が19.3%となっている。



項目	回答数	割合
本人の話から	13	15.7%
家族・親族の話から	16	19.3%
相談支援の中からの情報	23	27.7%
他の関係機関、関係者から	28	33.7%
その他	2	2.4%
無回答	1	1.2%
回答者数	83	100.0%
非該当	260	-
合計	343	-

【支援機関別集計】

地域包括支援センターと民生委員児童委員協議会では「他の関係機関、関係者から」がそれぞれ 50.0%、57.1%と5割を超え、障害者相談支援事業所では「相談支援の中からの情報」が 36.2%とそれぞれ高くなっている。



## II 調査結果

### 3. ケアラー支援機関調査

#### (1-3) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者を知ったきっかけとなった関係機関・関係者

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者を「ほかの関係機関、関係者から知った」と回答した支援機関に、きっかけとなった関係機関・関係者について聞いたところ、「市町村の保健福祉部門」が 50.0%、次いで「小中学校、高等学校」「医療機関」それぞれ 17.9%となっている。

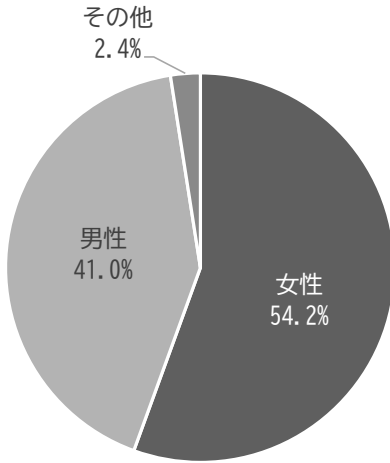
(複数回答)

項目	回答数	割合
市町村の保健福祉部門	14	50.0%
市町村要保護児童対策地域協議会	2	7.1%
市町村教育委員会	1	3.6%
小中学校、高等学校	5	17.9%
スクールソーシャルワーカー	3	10.7%
民生委員・児童委員	3	10.7%
児童相談所	3	10.7%
医療機関	5	17.9%
警察などの司法機関	1	3.6%
子ども食堂などの民間団体	1	3.6%
その他	8	28.6%
無回答	0	0.0%
回答者数	28	-
非該当	315	-
合計	343	-

※回答数が少ないため、表のみ掲載

(1-4) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の性別

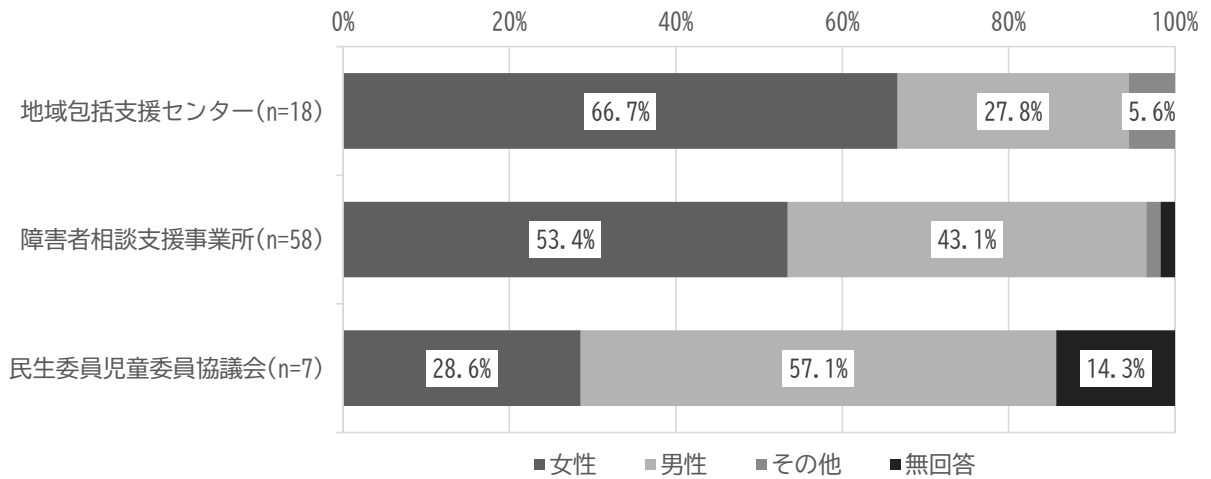
ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の性別については、「女性」が 54.2%、「男性」が 41.0%となっている。



項目	回答数	割合
女性	45	54.2%
男性	34	41.0%
その他	2	2.4%
無回答	2	2.4%
回答者数	83	100.0%
非該当	260	-
合計	343	-

【支援機関別集計】

地域包括支援センターと障害者相談支援事業所では「女性」がそれぞれ 66.7%、53.4%と高くなっているが、民生委員児童委員協議会では「男性」が 57.1%と高くなっている。

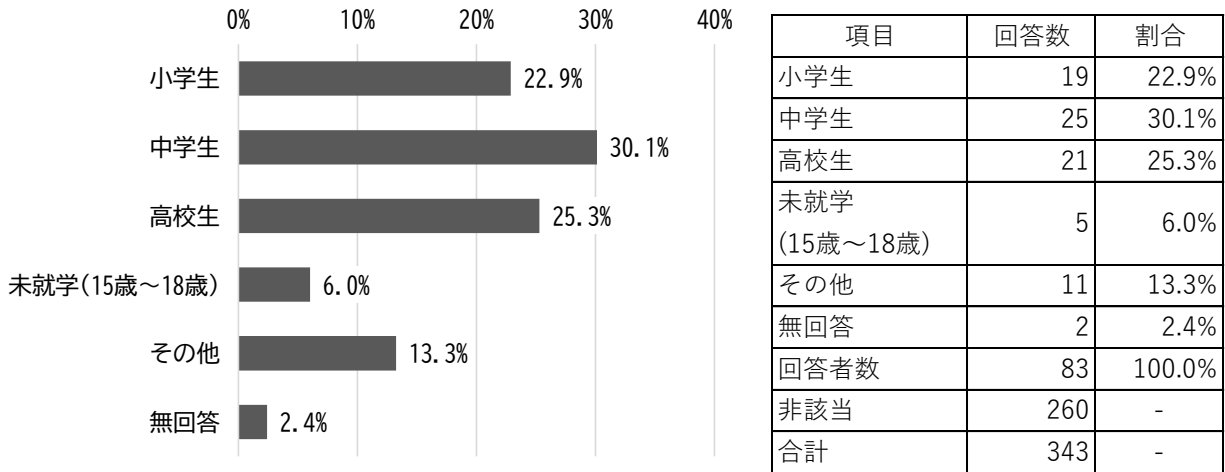


II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

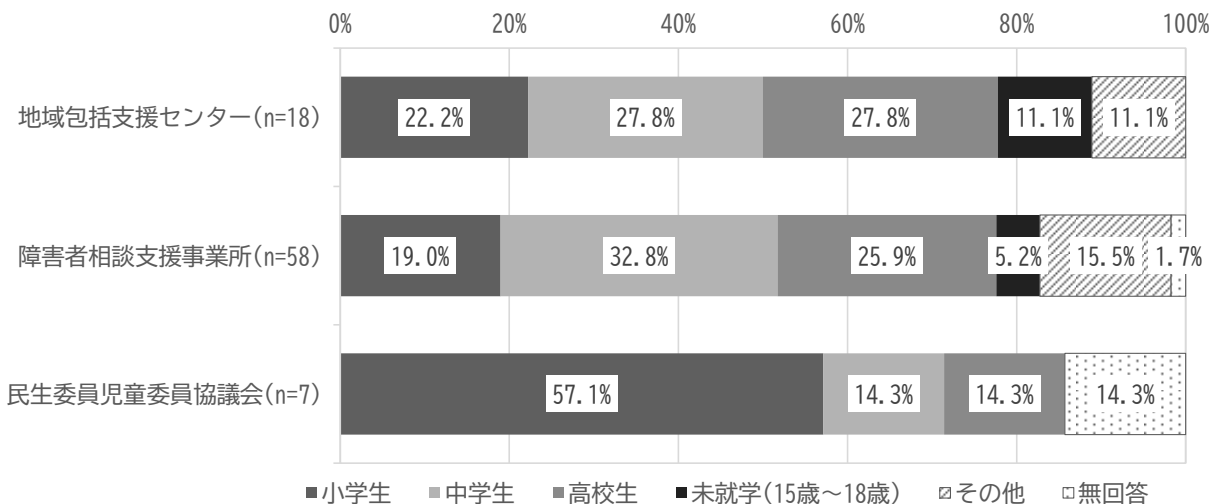
(1-5) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の年代

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者の年代については、「中学生」が30.1%で最も高く、次いで「高校生」25.3%、「小学生」22.9%となっている。



【支援機関別集計】

地域包括支援センターでは「中学生」「高校生」が27.8%、障害者相談支援事業所では「中学生」が32.8%、民生委員児童委員協議会では「小学生」が57.1%と高くなっている。

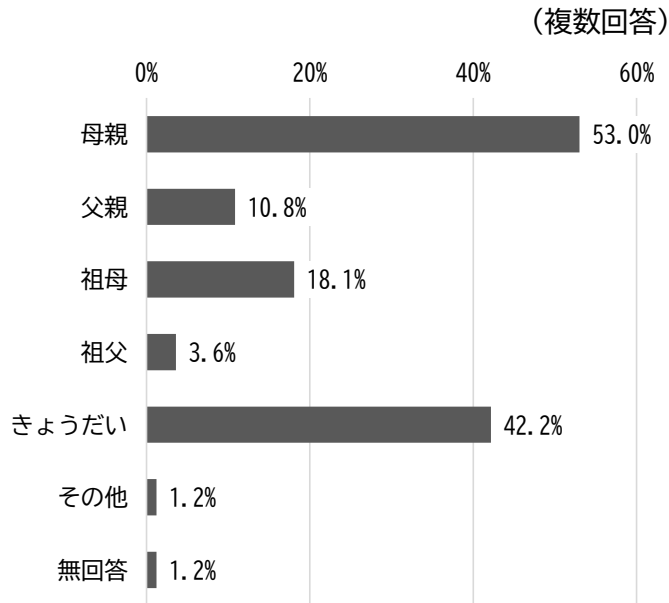


## II 調査結果

### 3. ケアラー支援機関調査

#### (1-6) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者のケアの相手

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者のケアの相手については、「母親」が53.0%で最も高く、次いで「きょうだい」が42.2%、「祖母」が18.1%となっている。

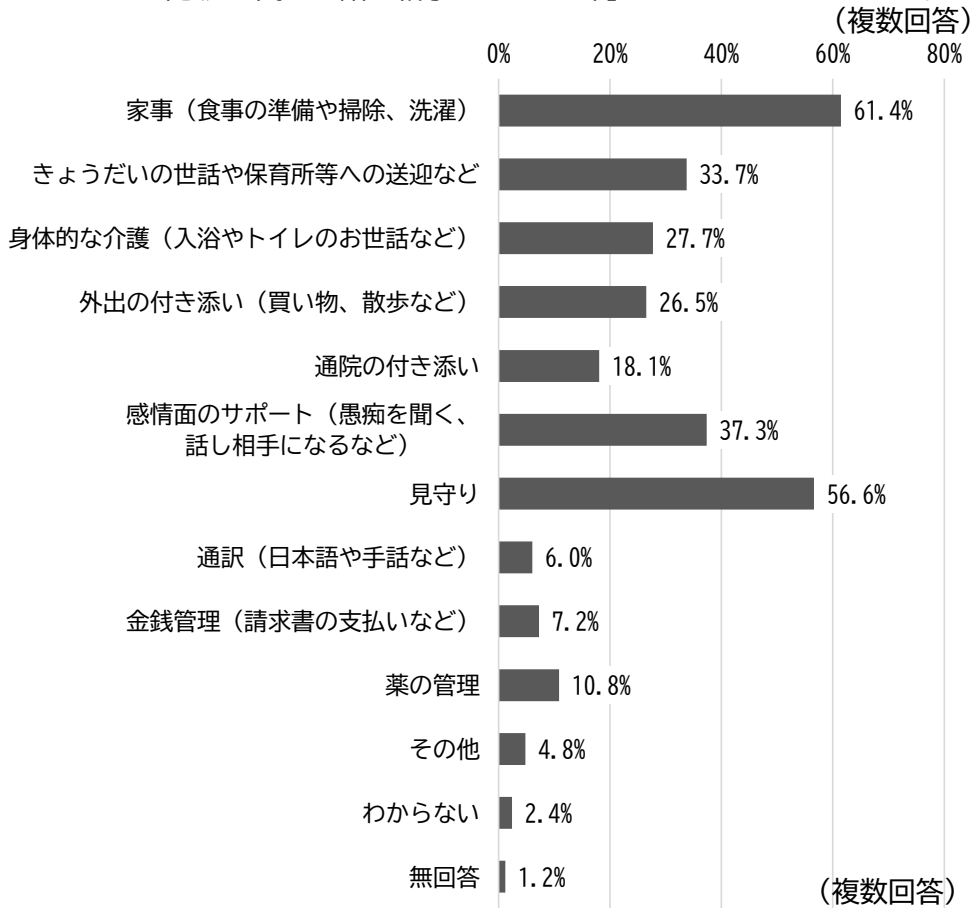


(複数回答)

項目	回答数	割合
母親	44	53.0%
父親	9	10.8%
祖母	15	18.1%
祖父	3	3.6%
きょうだい	35	42.2%
その他	1	1.2%
無回答	1	1.2%
回答者数	83	-
非該当	260	-
合計	343	-

(1-7) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者のケアの内容

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者のケアの内容については、「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が61.4%で最も高く、次いで「見守り」が56.6%、「感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）」が37.3%となっている。



項目	回答数	割合
家事（食事の準備や掃除、洗濯）	51	61.4%
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	28	33.7%
身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	23	27.7%
外出の付き添い（買い物、散歩など）	22	26.5%
通院の付き添い	15	18.1%
感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	31	37.3%
見守り	47	56.6%
通訳（日本語や手話など）	5	6.0%
金銭管理（請求書の支払いなど）	6	7.2%
薬の管理	9	10.8%
その他	4	4.8%
わからない	2	2.4%
無回答	1	1.2%
回答者数	83	-
非該当	260	-
合計	343	-

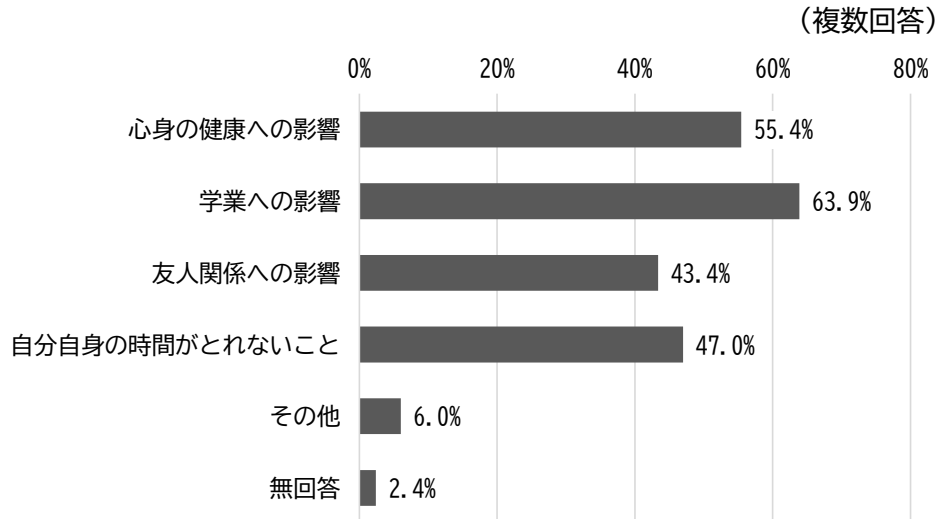


II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(1-8) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者へのケアによる影響

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者へのケアによる影響については、「学業への影響」が63.9%で最も高く、次いで「心身の健康への影響」が55.4%、「自分自身の時間がとれないこと」が47.0%となっている。



(複数回答)

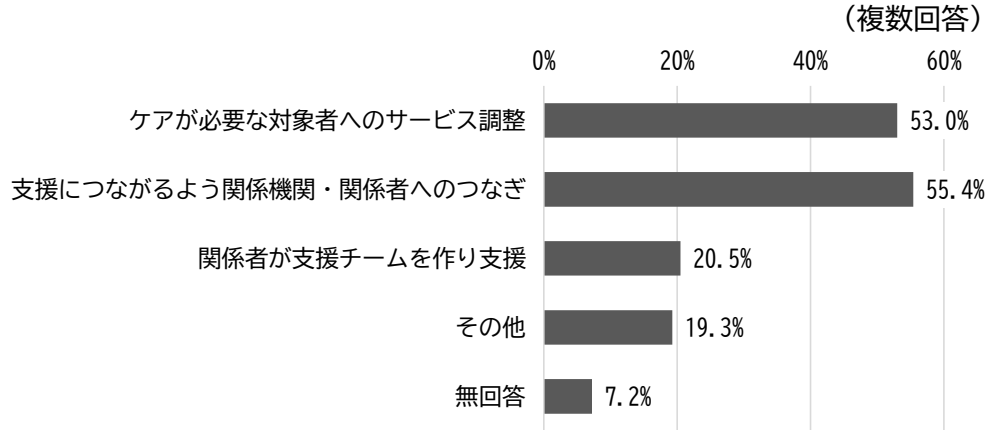
項目	回答数	割合
心身の健康への影響	46	55.4%
学業への影響	53	63.9%
友人関係への影響	36	43.4%
自分自身の時間がとれないこと	39	47.0%
その他	5	6.0%
無回答	2	2.4%
回答者数	83	-
非該当	260	-
合計	343	-

II 調査結果

3. ケアラー支援機関調査

(1-9) ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者への支援の内容

ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者への支援の内容については、「支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ」が55.4%で最も高く、次いで「ケアが必要な対象者へのサービス調整」が53.0%となっている。



(複数回答)

項目	回答数	割合
ケアが必要な対象者へのサービス調整	44	53.0%
支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ	46	55.4%
関係者が支援チームを作り支援	17	20.5%
その他	16	19.3%
無回答	6	7.2%
回答者数	83	-
非該当	260	-
合計	343	-

## (1-10) 支援へつないだ関係機関・関係者

ヤングケアラーではないかを感じる子ども・若者への支援の内容について「支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ」と回答した支援機関に、支援へつないだ関係機関・関係者について聞いたところ、「市町村の保健福祉部門」が78.3%で最も高く、次いで「小中学校、高等学校」が34.8%、「医療機関」が28.3%となっている。

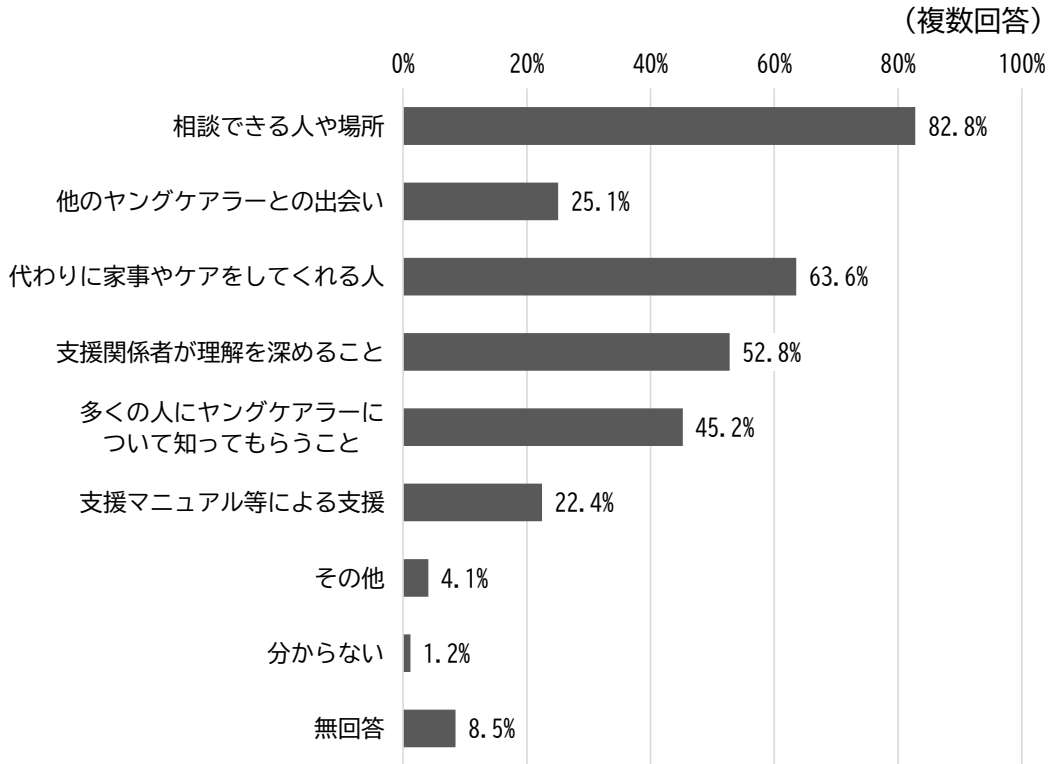
(複数回答)

項目	回答数	割合
市町村の保健福祉部門	36	78.3%
市町村要保護児童対策地域協議会	7	15.2%
市町村教育委員会	6	13.0%
小中学校、高等学校	16	34.8%
スクールソーシャルワーカー	4	8.7%
民生委員・児童委員	9	19.6%
児童相談所	8	17.4%
医療機関	13	28.3%
警察などの司法機関	3	6.5%
子ども食堂などの民間団体	3	6.5%
その他	6	13.0%
無回答	0	0.0%
回答者数	46	-
非該当	297	-
合計	343	-

※回答数が少ないため、表のみ掲載

(2) ヤングケアラーである対象者に求められるサポート

ヤングケアラーである対象者に求められるサポートについては、「相談できる人や場所」が 82.8%で最も高く、次いで「代わりに家事やケアをしてくれる人」が 63.6%、「支援関係者が理解を深めること」が 52.8%となっている。

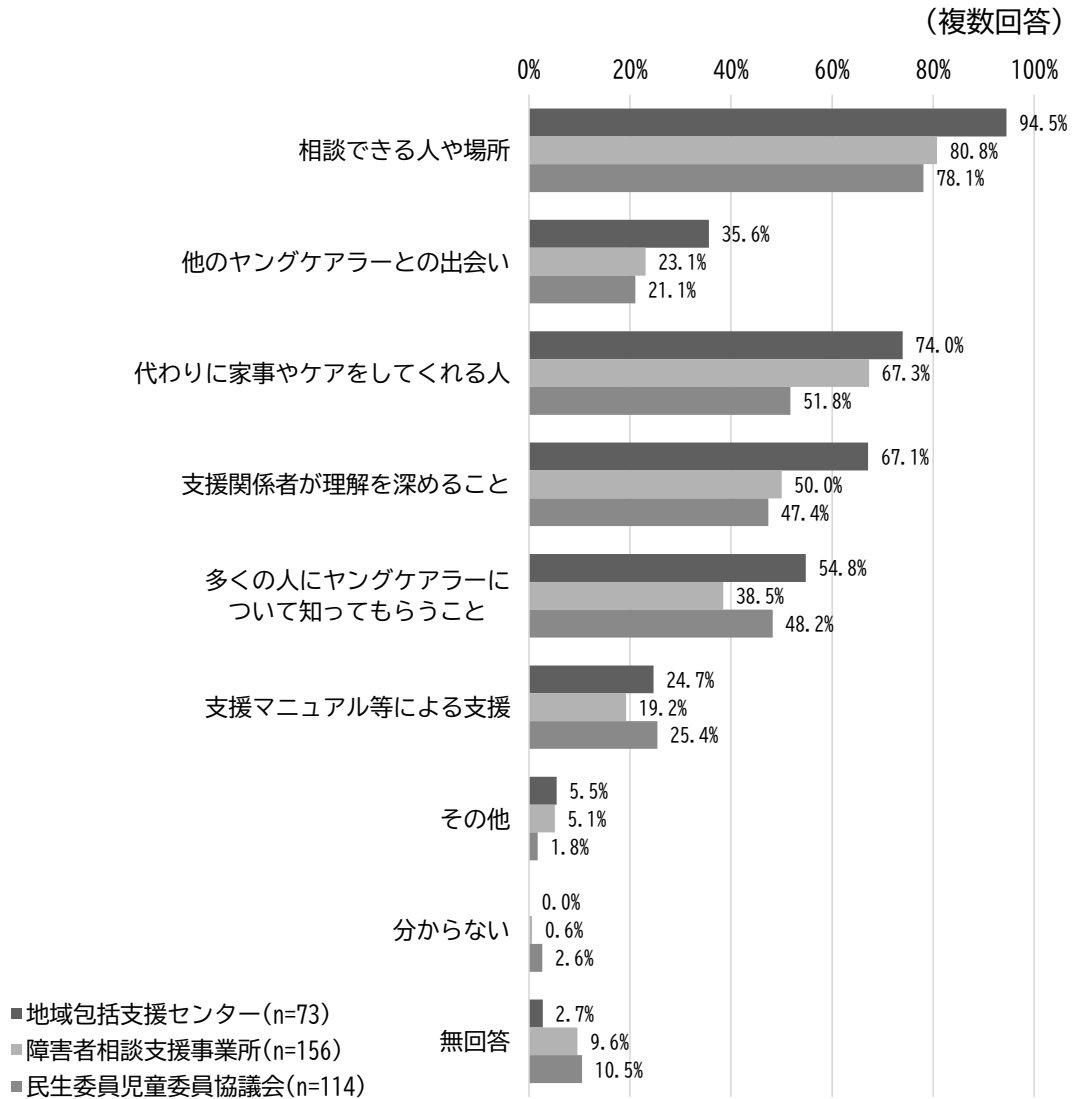


(複数回答)

項目	回答数	割合
相談できる人や場所	284	82.8%
他のヤングケアラーとの出会い	86	25.1%
代わりに家事やケアをしてくれる人	218	63.6%
支援関係者が理解を深めること	181	52.8%
多くの人にヤングケアラーについて知ってもらうこと	155	45.2%
支援マニュアル等による支援	77	22.4%
その他	14	4.1%
分からない	4	1.2%
無回答	29	8.5%
回答者数	343	-

【支援機関別集計】

いずれの支援機関でも「相談できる人や場所」が最も高く、それぞれ 94.5%、80.8%、78.1%となっている。



### Ⅲ 資料編（調査票）

1_ケアラー調査票（当事者（高齢者））	6 ページ
2_ケアラー調査票（当事者（障害者））	6 ページ
3_ケアラー調査票（ケアラー支援団体）	2 ページ
4_ケアラー調査票（支援機関・共通）	7 ページ

## ケアラー支援に係る実態調査票（当事者（高齢者のケアラー））

\*各問においては、、（レ点、塗りつぶし）又は記述での回答をお願いします。

\*このアンケートでは、「介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供すること」を「ケア」と言います。

### 1 あなた（ケアラー）ご自身について

（1）あなたの性別と年齢を教えてください。

男性 女性 その他 [ ] 歳

（2）あなたの家では、あなたを含めて同居している方は何人ですか。[ ] 人

（3）あなたご自身の現在の就労等の状況について教えてください。

正規雇用（正社員・正規職員）

非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等） 自営業

主婦（夫） 家族従業者 無職

（4）あなたのお住まいの地域を教えてください。

市町村名 [ ]

## 2 ケアの状況について

※あなたが、ケアをしている人が複数いる場合は、ケアが大変な順に、1人目、2人目、3人目を記入してください。

(5) あなたから見た、被介護者との関係を教えてください。(例：義母)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

(6) 被介護者の性別を教えてください。(例：女性)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

(7) 被介護者の年齢を教えてください。(例：82 歳)

1人目 ( 歳 ) 2人目 ( 歳 ) 3人目 ( 歳 )

(8) ケアを受けている方は、現在どのような場所で生活していますか。選択肢の中から番号を選んで記入してください。⑤その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：①)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

選択肢：①在宅（同居） ②在宅（別居） ③施設入居中 ④病院に入院中

⑤その他 [ ]

(9) ケアをしている相手の状況について教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑩その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：①、②)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

選択肢：①身体の老化 ②認知症 ③身体障害 ④知的障害 ⑤依存症（アルコールや薬物など。依存症の疑いも含む） ⑥精神障害（依存症を除く。精神障害の疑いも含む）

⑦重症心身障害 ⑧医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器の管理、痰の吸引など）

⑨難病 ⑩ひきこもり

⑪その他 [ ]

(10) あなたが行っているケアの内容について教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑪その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：

①、⑥)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

選択肢：①買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている



- ②買い物同行などの外出の援助をしている
- ③通院の援助をしている
- ④ATMでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている
- ⑤屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている
- ⑥本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている
- ⑦徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている
- ⑧服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている
- ⑨経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている
- ⑩役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている
- ⑪趣味や余暇の支援をしている
- ⑫その他 [ ]

(11) 利用している(したことがある)サービスについて教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑦その他の場合は、数字と詳細を記入してください。

(例：⑧、⑬)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

選択肢：①通所サービス(デイサービス・デイケア等) ②訪問サービス(介護、看護等)

③宿泊サービス(ショートステイ等) ④移送支援サービス

⑤介護者サロン・カフェ等 ⑥利用していない

⑦その他 [ ]

(12) あなたがケアをしている頻度はどれくらいですか？

毎日  週4～6日  週2～3日  週1日  月に数日  その他 [ ]

(13) あなたが1日にケアをしている時間はどれくらいですか？

1時間未満  1時間以上2時間未満  2時間以上4時間未満

4時間以上6時間未満  6時間以上8時間未満  8時間以上

(14) あなたがケアをするようになってどのくらいたちますか？

20年以上  10年以上20年未満  5年以上10年未満

3年以上5年未満  1年以上3年未満  1年未満

### 3 あなた（ケアラー）ご自身のケアの影響について

(15) あなたの健康や健康維持の状態について教えてください。(複数回答可)

- 身体的不調がある 精神的不調がある 睡眠不足である 通院している  
持病があるが通院できない 健康診断に行く時間が取れない 休養がとれない  
運動不足である その他[ ] 特に問題ない

(16) あなたは、自分のための時間（趣味や休息など）を充分にとれていますか？

- とれている まあまあとれている あまりとれていない 全くとれていない

(17) ケアにより就労状況は変化しましたか？

- ケアのために退職した⇒(18-2)へ ケアのために勤務時間を減らした  
ケアのために転職した ケアのために就労経験が無い  
ケアによる就労状況の変化はない

(18-1) 就労を続けられている理由(複数回答可) ※就労を続けている方のみ回答

- 各種サービスの利用 家族のサポート 勤務時間の短縮  
配置転換・勤務地変更 転職 介護休暇の取得  
相談先の紹介 生活上の工夫 仕事を続けたいというモチベーション  
経済的な理由 わからない その他[ ]

(18-2) ケアを機に退職した理由(複数回答可) ※ケアのために退職された方のみ回答

- 身体的疲労 精神的疲労 代わりにケアを担う人がいない  
サービスが利用できなくなった サービスは利用しているが、足りない部分がある  
業務が多忙でケアの時間がとれない 介護と両立できる職場環境ではなかった  
退職を勧められた その他[ ]

(19) あなたは、ケアを必要としている人のケアをすることがどのくらい負担になっていますか？

- 大変負担になっている やや負担になっている  
あまり負担になっていない 全く負担になっていない

#### 4 ケアに関する相談について

(20) あなた以外で、ケアに協力してくれる人について教えてください。(複数回答可)

- 父 母 祖母 祖父 兄弟・姉妹 親戚 近所の人や知人  
医療者やサービス事業所の人 その他[ ] 誰もいない

(21) あなたが信頼して相談できる人や窓口・機関があれば教えてください。(複数回答可)

- 家族 家族会 地域包括支援センター ケアマネジャー  
障害者(児)相談支援事業所 子育て支援機関 民生委員・児童委員  
介護者サロン 医療者やサービス事業所の人  
電話相談窓口 その他[ ] 誰もいない

(22) ケアが原因でケアラーである自分自身の生活や人生について何か悩みがありますか。

- ある→(23)へ ない→(24)へ

(23) ご自身の生活や人生に関する悩みについて選んでください。(複数回答可)

- 心身の健康 経済的な問題 仕事に就けない  
職場の人間関係 仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない  
ケアをしている相手との関係 家族関係 近隣との関係  
医療機関や介護事業所との関係 行政との関係 自分の自由な時間が取れない  
ケアしている相手へのサービスの質・量の不足  
ケアラー緊急時のケアをしている相手へのサービス  
将来への見通しが持てない その他[ ]

(24) もしもの場合、あなたに代わって被介護者のケアを担ってくれる人はいますか。

- いる 頼めばいる 頼めばいるが頼みにくい いない

#### 5 求める支援について

(25) ケアラーご自身に必要なと思われる支援はありますか。(複数回答可)

- 電話や訪問による相談体制の整備 ケアラーに役立つ情報の提供  
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保 気軽に情報交換できる環境の紹介・提供  
勤務しやすい柔軟な働き方 就労及び再就職への支援



## ケアラー支援に係る実態調査票（当事者（障害者のケアラー））

\*各問においては、、（レ点、塗りつぶし）又は記述での回答をお願いします。

\*このアンケートでは、「介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供すること」を「ケア」と言います。

### 1 あなた（ケアラー）ご自身について

（1）あなたの性別と年齢を教えてください。

男性 女性 その他 [ ] 歳

（2）あなたの家では、あなたを含めて同居している方は何人ですか。[ ] 人

（3）あなたご自身の現在の就労等の状況について教えてください。

正規雇用（正社員・正規職員）

非正規雇用（契約社員・派遣社員・パート・アルバイト等） 自営業

主婦（夫） 家族従業者 無職

（4）あなたのお住まいの地域を教えてください。

市町村名 [ ]

## 2 ケアの状況について

※あなたが、ケアをしている人が複数いる場合は、ケアが大変な順に、1人目、2人目、3人目を記入してください。

(5) あなたから見た、被介護者との関係を教えてください。(例：義母)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

(6) 被介護者の性別を教えてください。(例：女性)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

(7) 被介護者の年齢を教えてください。(例：82 歳)

1人目 ( 歳 ) 2人目 ( 歳 ) 3人目 ( 歳 )

(8) ケアを受けている方は、現在どのような場所で生活していますか。選択肢の中から番号を選んで記入してください。⑤その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：①)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

選択肢：①在宅（同居） ②在宅（別居） ③施設入居中 ④病院に入院中

⑤その他 [ ]

(9) ケアをしている相手の状況について教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑩その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：①、②)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

選択肢：①身体障害 ②知的障害 ③発達障害（知的障害を伴わない）

④依存症（アルコールや薬物など。依存症の疑いも含む） ⑤精神障害（依存症を除く。

精神障害の疑いも含む） ⑥重症心身障害 ⑦医療的ケア（経管栄養や人工呼吸器の管

理、痰の吸引など） ⑧難病 ⑨ひきこもり

⑩その他 [ ]

(10) あなたが行っているケアの内容について教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑪その他の場合は、数字と詳細を記入してください。(例：

①、⑥)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

選択肢：①買い物、食事の用意や後片付け、洗濯、掃除などの家事をしている

- ②買い物同行などの外出の援助をしている
- ③通院の援助をしている
- ④ATMでの入出金や各種料金の支払いなどの金銭管理をしている
- ⑤屋内の移動、入浴、排泄、着替え、食事などの身体的な介護をしている
- ⑥本人の気持ちを支えるために、話しかけたり、そばにいたり、見守りをしている
- ⑦徘徊や昼夜逆転などの認知症の行動への対応やその防止のための見守りをしている
- ⑧服薬の声掛けや準備、体温や血圧測定などの医療関連の手助けをしている
- ⑨経管栄養の管理や痰の吸引などの医療的ケアをしている
- ⑩役所や事業所等との連絡や書類などの諸手続きをしている
- ⑪趣味や余暇の支援をしている
- ⑫その他 [ ]

(11) 利用している(したことがある)サービスについて教えてください。選択肢の中から番号を選んで記入してください。(複数回答可) ⑦その他の場合は、数字と詳細を記入してください。

(例：⑧、⑬)

1人目 ( ) 2人目 ( ) 3人目 ( )

選択肢：①通所サービス(生活介護、就労継続支援B型、地域活動支援センター等)

②居宅サービス(訪問介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護)

③ショートステイ(短期入所) ④移送支援 ⑤利用していない

⑥その他 [ ]

(12) あなたがケアをしている頻度はどれくらいですか？

毎日  週4～6日  週2～3日  週1日  月に数日  その他 [ ]

(13) あなたが1日にケアをしている時間はどれくらいですか？

1時間未満  1時間以上2時間未満  2時間以上4時間未満

4時間以上6時間未満  6時間以上8時間未満  8時間以上

(14) あなたがケアをするようになってどのくらいたちますか？

20年以上  10年以上20年未満  5年以上10年未満

3年以上5年未満  1年以上3年未満  1年未満

### 3 あなた（ケアラー）ご自身のケアの影響について

(15) あなたの健康や健康維持の状態について教えてください。(複数回答可)

- 身体的不調がある 精神的不調がある 睡眠不足である 通院している  
持病があるが通院できない 健康診断に行く時間が取れない 休養がとれない  
運動不足である その他[ ] 特に問題ない

(16) あなたは、自分のための時間（趣味や休息など）を充分にとれていますか？

- とれている まあまあとれている あまりとれていない 全くとれていない

(17) ケアにより就労状況は変化しましたか？

- ケアのために退職した⇒(18-2)へ ケアのために勤務時間を減らした  
ケアのために転職した ケアのために就労経験が無い  
ケアによる就労状況の変化はない

(18-1) 就労を続けられている理由(複数回答可) ※就労を続けている方のみ回答

- 各種サービスの利用 家族のサポート 勤務時間の短縮  
配置転換・勤務地変更 転職 介護休暇の取得  
相談先の紹介 生活上の工夫 仕事を続けたいというモチベーション  
経済的な理由 わからない その他[ ]

(18-2) ケアを機に退職した理由(複数回答可) ※ケアのために退職された方のみ回答

- 身体的疲労 精神的疲労 代わりにケアを担う人がいない  
サービスが利用できなくなった サービスは利用しているが、足りない部分がある  
業務が多忙でケアの時間がとれない 介護と両立できる職場環境ではなかった  
退職を勧められた その他[ ]

(19) あなたは、ケアを必要としている人のケアをすることがどのくらい負担になっていますか？

- 大変負担になっている やや負担になっている  
あまり負担になっていない 全く負担になっていない







## ケアラー支援に係る実態調査票（ケアラー支援団体）

\*このアンケートでは、「介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供すること」を「ケア」と言います。

団体名（ \_\_\_\_\_ ）

### 1 貴団体会員のケアの状況について

貴団体会員のケアラーとしての悩みについて、あてはまるものを選んでください。（複数選択可）

- 自身の心身の健康
- 経済的な問題
- 就労に係る問題
- 職場の人間関係
- 仕事とケアと自分の生活のバランスがとれない
- ケアをしている相手との関係
- 家族関係
- 近隣との関係
- 医療機関や介護事業所との関係
- 行政との関係
- 自分の自由な時間が取れない
- ケアしている相手へのサービスの質・量の不足
- ケアラー緊急時のケアをしている相手へのサービス
- 年長いた親が障害のある子どもを介護し続ける「老障介護」の問題
- 介護の「家族依存」の問題
- 将来への見通しが持てない
- その他

その他記述欄

2 ケアラーに求められる（必要と思われる）支援について選んでください。（複数回答可）

- 電話や訪問による相談体制の整備
- ケアラーに役立つ情報の提供
- 気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保
- 気軽に情報交換できる環境の紹介・提供
- 勤務しやすい柔軟な働き方
- 就労及び再就職への支援
- 24時間対応の在宅サービスの提供
- 入所施設やグループホームなど地域の受け皿（暮らしの場）の整備・充実
- 災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス
- 親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続
- 社会的なケアラー支援への理解
- 専門職や行政職員のケアラー支援への理解
- 経済的支援
- ケアラーの健康管理への支援
- その他

その他記述欄

3 新型コロナウイルス感染症対策により、ケアラーとして特に困ったことがあればお答えください。

4 ケアラー支援や民間支援団体に対する支援の要望などがありましたらお書きください。

以上で調査は終わりです。御協力ありがとうございました。

## ケアラー支援に係る実態調査票

支援機関（地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、民生委員児童委員協議会）

### （Ⅰ事業所の種別）

問1 事業所種別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

1. 地域包括支援センター
2. 障害者相談支援事業所（指定特定・指定障害児）
3. 民生委員児童委員協議会

問2 ご回答いただく方の職種を教えてください。（あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。）

1. センター長・管理者・会長
2. 保健師（看護師）
3. 社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士
4. （主任）介護支援専門員
5. （主任）相談支援専門員
6. （主任）相談支援員
7. 就労支援員
8. 民生委員・児童委員
9. 主任児童委員
10. その他の職種（ ）

### （Ⅱケアラー・ヤングケアラーの認知度）

問3 貴センター・事業所・協議会におけるケアラー・ヤングケアラーに関する認知度を教えてください（あてはまる番号1つに○）。

#### ① ケアラーという言葉の概念について

1. 全ての職員（所属委員）が知っている
2. 多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている
3. 一部の職員（所属委員）は知っている
4. いずれの職員（所属委員）もあまり知らない
5. 知らない

②ヤングケアラーという言葉の概念について

1. 全ての職員（所属委員）が知っている
2. 多く（半数以上）の職員（所属委員）が知っている
3. 一部の職員（所属委員）は知っている
4. いずれの職員（所属委員）もあまり知らない
5. 知らない

（Ⅲケアラーについて）

問4 令和3年度に、ケアラーなどから受けた相談件数などを教えてください。

相談延べ件数の総数（ ）件

- (1) うち家族介護者からの相談（ ）件
- (2) うちケアを必要とする本人からの相談（ ）件
- (3) うち家族介護者及びケアを必要とする本人の両方からの相談（ ）件

※相談件数を把握していない場合は空欄でも差し支えありません。

問5 ケアラー本人への直接的な支援として、ケアが必要な人をサービスに繋げるこ  
と以外に、どのような支援を行っていますか（あてはまるもの全てに○。「その  
他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。）。

1. 家族介護者に対するアセスメントの実施
2. 家族介護者に対する自己チェック票※の配布
3. 相談しやすい日時や場所での相談窓口の設置（なんでも相談会など）
4. 介護に関する知識や技術を伝える取組
5. 介護者サロンの設置（居場所づくり、レスパイトケア）
6. 「子育てサロン」や「いきいきサロン」などの地域の仲間を作る場所づくり
7. ケアラー同士の交流会の開催
8. その他（ ）
9. 行っていない

※自己チェック票：ケアラー本人が、家族のケアをしている自分の体調や気持  
ち、考え方を、ケアマネージャーなどの相談職員に伝えるためのチェック票  
（家族介護者支援マニュアル（厚生労働省：平成30年3月））

問6 問5でお答えいただいた直接的な支援以外で、ケアラー支援として、どのよう  
なことが必要だと思いますか。（あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、  
括弧内に具体的に記入してください。）。

1. ケアラー支援に関する理解の促進

2. 支援が必要なケアラーの早期発見と相談支援
3. 関係機関の連携などによる地域の支援体制の整備・サービス基盤の整備
4. ケアと仕事などの両立支援
5. その他（ ）

問7 令和3年度において、貴センター・事業所・協議会（所属委員）が受けた相談の中で、ケアを必要としている人が、公的サービスの利用に至らなかった事例はありますか（あてはまる番号1つに○）。

1. ある
2. ない

問8 問7で「ある」と回答したセンター・事業所・協議会（所属委員）に伺います。

相談に繋がったにも関わらず、公的サービスの利用に至らなかった理由は何ですか（あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。）。

①ケアを必要としている側の理由

1. 家族によるケアを望んでいる
2. 家族がケアをするのが当たり前だと思っている
3. 家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている
4. 公的サービスの内容を理解していない
5. 公的サービスを利用する場合に経済的な不安がある
6. 公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない。
7. 地域のサービス提供体制が不十分
8. その他（ ）

②ケアをしている側（ケアラー）の理由

1. 家族で支えられると考えている
2. 家族がケアをするのが当たり前だと思っている
3. 家庭内の問題を他人へ相談することに戸惑いや抵抗感を持っている
4. 公的サービスの内容を理解していない
5. 公的サービスを利用する場合に経済的な不安がある
6. 公共サービスを利用したいが経済的な理由により利用できない。
7. 地域のサービス提供体制が不十分
8. その他（ ）

問9 支援に繋がりにくい家庭を支援に結びつけるために、どのようなことをしていますか（どのようなことが必要だと考えていますか）（あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。）。

1. ケアラー支援に対する社会的認知度の向上
2. センター・事業所職員・協議会所属委員のケアラー支援に関する理解の促進
3. 関係機関（行政や地域包括支援センター等）と連携した支援ニーズの把握
4. 民生委員・児童委員や自治会、ボランティア団体等の身近な支援者からの情報取得
5. 電話連絡や家庭訪問の実施
6. 本人や家族に対し、支援が必要なことを理解してもらう
7. その他（ ）

（IVヤングケアラーについて）

問10 貴センター・事業所・協議会（所属委員）が関わっている（過去に関わった）家庭の中で、ヤングケアラーではないかと感じる子ども・若者はいますか（いましたか）。

1. いる（いた）
2. いない
3. わからない

問11 問10で「1. いる（いた）」と答えた方に質問します。（それ以外の方は、問12に進んでください。）

貴センター・事業所・協議会（所属委員）が関わっている（過去に関わった）、そのような子ども・若者のうち最も印象に残る子ども・若者について、以下の問いに答えてください。

問11-1 その子ども・若者を知ったきっかけは何ですか。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。

1. 本人の話から
2. 家族・親族の話から
3. 相談支援の中からの情報
4. 他の関係機関、関係者から
5. その他（ ）

問11-2 問11-1で「4. 他の関係機関、関係者から知った」と答えた方に質問します。（それ以外の方は、問11-3に進んでください。）

その子ども・若者を知ったきっかけとなった、関係機関・関係者にあてはまるも



のを教えてください。(あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。)

1. 市町村の保健福祉部門
2. 市町村要保護児童対策地域協議会、
3. 市町村教育委員会
4. 小中学校、高等学校
5. スクールソーシャルワーカー
6. 民生委員・児童委員
7. 児童相談所
8. 医療機関
9. 警察などの司法機関
10. 子ども食堂などの民間団体
11. その他 ( )

問 11-3 その子ども・若者の性別を教えてください。

1. 女性
2. 男性
3. その他

問 11-4 その子ども・若者の年代を教えてください。

1. 小学生
2. 中学生
3. 高校生
4. 未就学(15歳～18歳)
5. その他 ( 歳くらい)

問 11-5 その子ども・若者がケアをしている(していた)相手はだれですか。(あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。)

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. きょうだい
6. その他 ( )

問 11-6 その子ども・若者がケアをしている(していた)内容は何ですか。(あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。)

1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など
3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)
5. 通院の付き添い
6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
7. 見守り
8. 通訳(日本語や手話など)

9. 金銭管理（請求書の支払いなど）

10. 薬の管理

11. その他（ ）

12. わからない

問 11-7 その子ども自身に、どのような影響が生じている（生じていた）と思いますか。  
（あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。）

1. 心身の健康への影響

2. 学業への影響

3. 友人関係への影響

4. 自分自身の時間がとれないこと

5. その他（ ）

問 11-8 その子ども・若者へはどのような支援を行っていますか（行いましたか）。（あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。）

1. ケアが必要な対象者へのサービス調整

2. 支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ

3. 関係者が支援チームを作り支援

4. その他（ ）

問 11-9 問 11-8 で「2. 支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎ」と答えた方に質問します。（それ以外の方は、問 12 に進んでください。）

支援につながるよう関係機関・関係者へのつなぎを行った、関係機関・関係者にあてはまるものを教えてください。（あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。）

1. 市町村の保健福祉部門

2. 市町村要保護児童対策地域協議会、

3. 市町村教育委員会

4. 小中学校、高等学校、

5. スクールソーシャルワーカー

6. 民生委員・児童委員

7. 児童相談所

8. 医療機関

9. 警察などの司法機関

10. 子ども食堂などの民間団体

11. その他 ( )

問 12 ヤングケアラーである対象者に求められるサポートは何だと思えますか。(あてはまるもの全てに○。「その他」の場合は、括弧内に具体的に記入してください。)

1. 相談できる人や場所
2. 他のヤングケアラーとの出会い
3. 代わりに家事やケアをしてくれる人
4. 支援関係者が理解を深めること
5. 多くの人にヤングケアラーについて知ってもらうこと
6. 支援マニュアル等による支援
7. その他 ( )
8. 分からない

問 13 ヤングケアラーへの支援に当たり、注意すべきだと思う点は何だと思えますか。(括弧内に具体的に記入してください。)

( )

問 14 ヤングケアラーの支援について、すでに取り組んでいること、今後、取り組みそうなことなどがあれば記載してください。その他、ヤングケアラーについて自由に記載してください。

(括弧内に具体的に記入してください。)

( )